

# 島しょ地域農林水産戦略構想

～ 農林水産業の一体的振興による

島しょ地域の活性化を目指して ～



大島



神津島



青ヶ島



利島



三宅島



小笠原父島



新島



御蔵島



小笠原母島



式根島



八丈島



沖ノ島

平成18年8月

東京都島しょ農林水産総合センター



## はじめに

広大な海と美しい自然に囲まれ、個性豊かな歴史文化を有する伊豆諸島・小笠原諸島は、都民はもとより、広く国民共通のかけがえのない財産です。

そして、そこで展開されている農林水産業は、観光と共に島しょ地域の活力の源泉となっています。

しかしながら、島しょ地域の農林水産業は、担い手の減少・高齢化や生産現場の環境悪化に加えて、輸入農林水産物の拡大により価格が低迷し、その産業力の低下など深刻な事態を引き起こしています。

今、島しょ地域の農林水産業の振興は、緊急で重要な行政課題の一つです。

東京都では、こうした課題を解決するために、昨年４月、島しょ地域における農林水産組織を再編し、これまでの農業・林業・水産業の個別的な枠組みに捉われることなく、「農林水産業の一体的振興」を新たな視点として地域の振興に取り組んでいます。このたび、各関係機関の意見を踏まえて具体的な方策として、「島しょ地域農林水産戦略構想」を策定しました。

本構想に基づき島しょ町村との協働に努め、着実な事業推進を行うとともに観光等との連携を図りながら、島しょ地域の活性化を目指してまいります。

平成１８年 ８月

東京都島しょ農林水産総合センター所長

岩 田 哲

## 《目 次》

|       |                 |     |
|-------|-----------------|-----|
| 第 1 章 | 低迷する島しょ地域の農林水産業 | 1   |
| 第 2 章 | 策定の目的等          | 5   |
| 第 3 章 | 基本戦略と緊急プロジェクト   | 8   |
| 第 4 章 | 取組体制と施策の評価      | 12  |
| 第 5 章 | 島別振興方策          | 13  |
| 1     | 大島              | 14  |
| 2     | 利島              | 16  |
| 3     | 新島・式根島          | 18  |
| 4     | 神津島             | 20  |
| 5     | 三宅島             | 22  |
| 6     | 御蔵島             | 24  |
| 7     | 八丈島             | 26  |
| 8     | 青ヶ島             | 28  |
| 9     | 小笠原父島           | 30  |
| 10    | 小笠原母島           | 32  |
| 資料編   |                 | 35  |
| 1     | 大島町の概要          | 36  |
| 2     | 利島村の概要          | 42  |
| 3     | 新島村の概要          | 48  |
| 4     | 神津島村の概要         | 54  |
| 5     | 三宅村の概要          | 60  |
| 6     | 御蔵島村の概要         | 66  |
| 7     | 八丈町の概要          | 72  |
| 8     | 青ヶ島村の概要         | 78  |
| 9     | 小笠原村の概要         | 85  |
|       | 林業の現況           | 96  |
|       | これまでの取組事例       | 100 |

# 第1章 低迷する島しょ地域の農林水産業

## 1 産業力の低下

### ○ 生産額の激減

- ・ 輸入農林水産物の増加などによる国産価格の低迷もあり、農林水産業の生産額は激減しています。加えて島外出荷にかかる流通経費もかさみ、島しょ地域の生産者にとっては大変厳しい状況が続いています。

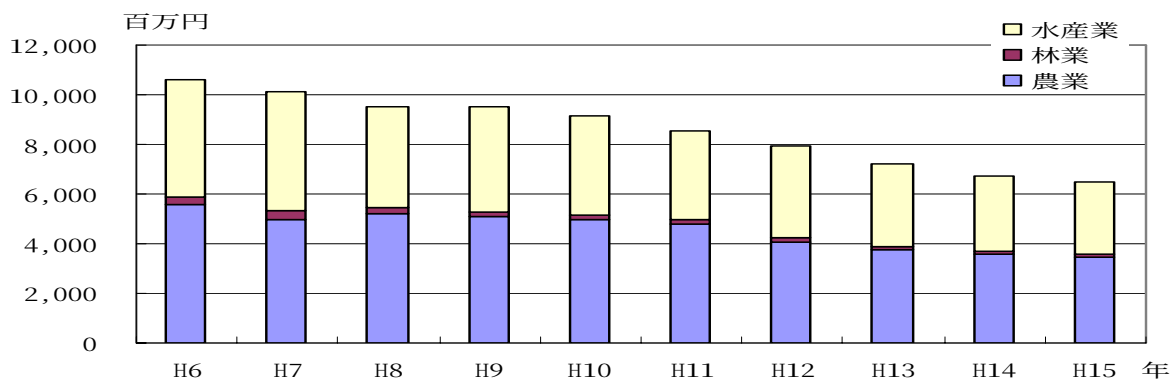
### ○ 担い手の減少・高齢化

- ・ 一次産業の特徴として他産業に比べ雇用条件が悪いため、島内の若者は島外へ職を求めており、農林水産業の担い手が減少するとともに高齢化が進んでいます。抜本的解決策等が見出されていません。

### ○ 島しょ農林水産物の知名度や安全・安心情報の不足

- ・ 温暖で豊かな自然の中で生産される美味しくて新鮮な島しょ地域の農林水産物は、PR不足などからその知名度は高くありません。
- ・ 食の安全・安心の向上や食育の推進など、新たな社会的要請が高まるなかで、島しょ地域の農林水産物の安全・安心情報の発信が不足しています。

農林水産業の生産額の推移



(農業:農林水産省統計情報部統計 水産業:東京都の水産 林業:支庁管内概要)

## 2 生産環境の悪化など

### ○ 遊休農地の増加

- ・担い手の減少・高齢化もあり、使用されない農地（遊休農地）が増加しています。

### ○ 漁場の荒廃

- ・磯焼け（海藻が消失する現象）や水産資源の枯渇が危惧されるなど、漁場の荒廃が続いています。

### ○ 排他的経済水域の活用

- ・沖ノ島島周辺海域などの排他的経済水域において、水産資源などの貴重な資源を十分活用することが望まれています。

## 3 観光等との連携不足

### ○ 民宿等で地元食材の提供が不十分

- ・民宿等で地元産食材を活かした郷土料理などの観光客への提供が、十分に行き届いていません。

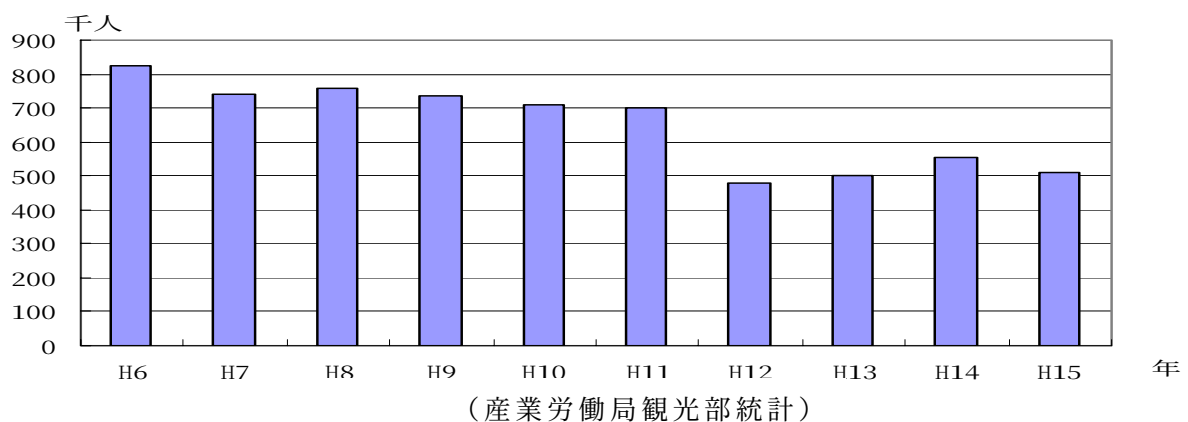
### ○ 島ならではの魅力的な特産品の不足

- ・農林水産物を原料とした魅力的な特産品が不足しています。

### ○ 都民と生産者の少ないふれあいの機会

- ・都民は、食文化や体験学習などを通じた生産者とのふれあいを求めています。島しょ地域にはそのための機会が多くはありません。

来島者数の推移



(注) 平成 12 年の以降の減少は、三宅島噴火等災害の影響と推定

## 4 これまでの取組

低迷する農林水産業の現状を踏まえて、産学公連携による海の異変対策・ブランド化の推進・販売力の強化・労働力確保・特産品の開発などの取組を行っています。

### ○ 産学公連携による海の異変対策

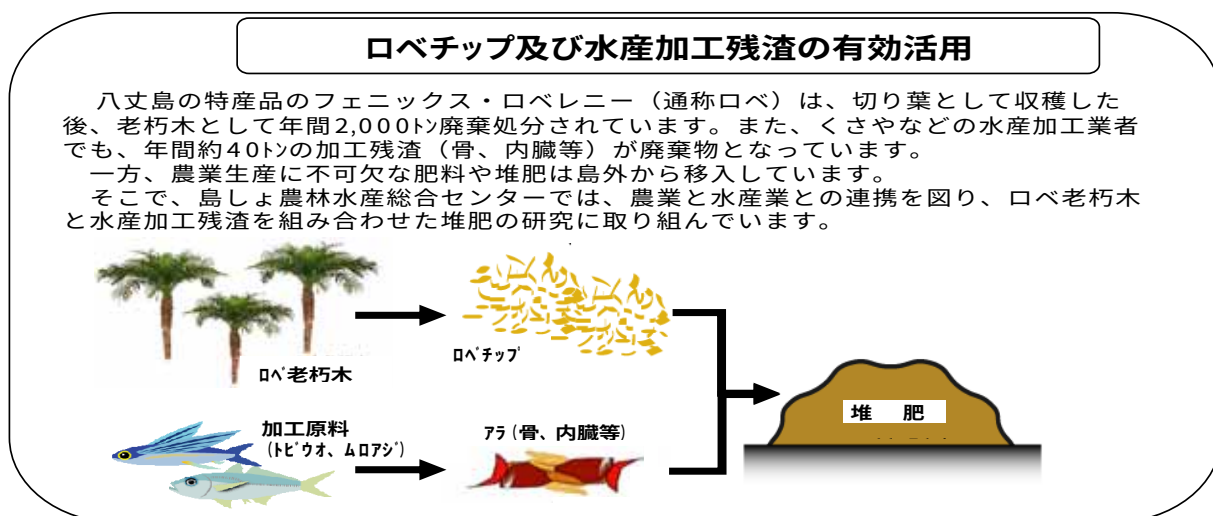
- ・ 漁場の荒廃を引き起こしている磯焼けなどの原因究明と対処に取り組んでいます（p.100 参照）。

### ○ 「高カルコン明日葉」の研究開発

- ・ 伊豆諸島特産の健康野菜であるアシタバに含まれるカルコン（抗菌等の生理活性作用が注目される色素成分）に着目し、カルコンを多く含むアシタバのブランド化を目指して、育種に取り組んでいます（p.101 参照）。

### ○ 農業分野と水産分野の横断的な取組

- ・ フェニックス・ロベレニーの老朽木や、水産加工品製造で発生する内臓などの残さの処理問題に対応するため、これらを活用した堆肥作りの試験研究を開始しています。



### ○ 販売力の強化

- ・ 八丈島特産のフェニックス・ロベレニー（ヤシ科の観葉植物）の鉢物をヨーロッパに輸出する際のシステム調整や植物防疫技術等を普及することにより、国内外への販路開拓を支援しています。
- ・ 東京都漁業協同組合連合会による一元出荷の推進や、東京ブランドの選定、IT販売の開始に向けた取組を支援しています。

## ○ 労働力確保、特産品開発

- ・ 担い手が減少している中で、女性労働力を活用した神津島などでのレザーファン（シダ類の観葉植物）等の栽培振興を支援しています。

### 神津島花き園芸振興会での女性の活躍

神津島は漁業が盛んで、男は海に、女は農業にと分業してきた伝統があり、女性が神津島農業の中心として活躍しています。

神津島花卉園芸振興会は、レザーファンの生産振興を目的として、平成7年に設立され、会員24名のうち、女性は18名と多数を占めています。現地検討会、講習会、土壌診断、先進地・市場視察など女性が活発な活動を展開しています。

また、耐風性施設の導入では、農協のリース事業を活用し初期投資を軽減しながら、積極的に施設整備を進めてきました。



共同作業（レザーファンの苗取り）

- ・ 漁協女性部によるすり身料理（八丈島の「煮込みハンバーグ」等）開発、大島などのサメを利用した特産品開発等を支援しています。さらに、開発した特産品の学校給食への提供等も支援しています。

### 特産品開発の新たな取組(伊豆大島漁協・八丈島漁協)

伊豆大島漁協女性部では、島しょ農林水産総合センターや食品技術センターと連携し、今まで廃棄されていた定置網漁業のゴマサバやサメなどを使って、「すり身」「干物」などの特産品の開発に取り組んでいます。漁協の朝市での販売や、島内の学校給食での利用も始まっています。



定置網漁獲物



駆除されたサメ

八丈島漁協女性部では、ムロアジやトビウオの消費拡大を目指し、「すり身」などの特産品の開発に取り組んでいます。開発した「すり身」等を使った料理講習会や試食会では好評を博し、島内の学校給食や老人ホームでの利用のみならず、最近では都内の学校給食にも利用されるまでになっています。これらの取組が評価され、第3回ニッポン食育フェアの「地域に根ざした食育コンクール2005」の優良賞を受賞しました。

今後は、更なる販路拡大、新たな雇用の創出など、地域活性化の夢も膨らんでいます。



サメ加工品を使った創作料理試食会(伊豆大島)



世田谷弦巻小学校学校給食での利用



## 第2章 策定の目的等

### 1 策定の目的

#### ① 島しょ地域の活性化

島しょ地域の基幹産業である農林水産業は、産業力の低下や生産環境の悪化などにより低迷しており、その振興は島しょ町村や東京都の重要で緊急な行政課題の一つです。

島しょ地域農林水産戦略構想は、これまでの農業・林業・水産業の個別的な枠組みに捉われることなく、「農林水産業の一体的振興」を新機軸として策定した方策であり、町村との協働と観光等との連携を礎に、島しょ地域の活性化を目指します。

#### ② 農林水産業振興の各プランの一体化

島しょ地域農林水産戦略構想は、都が策定した農業振興プラン・森づくり推進プラン・水産業振興プラン（海編）に横串を刺し、現状分析・地域特性を踏まえて、島しょ地域の農林水産業振興を一体化した戦略です。

なお、この島しょ地域農林水産戦略構想の対象期間は、平成18年度から平成22年度までの5年間としています。

### 2 島しょ地域農林水産戦略構想の構成

島しょ地域農林水産戦略構想は、産業力の向上・生産環境の改善・観光等との連携の強化を機軸として、島しょ地域の共通課題を踏まえた基本戦略と、島ごとの地域特性を踏まえた島別振興方策で構成しています。

基本戦略には、次の3つの戦略があります。

戦略1では、ブランド化の推進、販売力の強化、多様な担い手の確保・育成、健康・安全・安心を重視した取組などを進め、パワフルで自立した基幹産業の実現を目指します。

戦略2では、産学公連携による試験研究の成果等を踏まえ、農地や漁場などの生産環境の改善や自然災害の対策を進め、活力ある生産環境の再生・開発を目指します。

戦略3では、地産地消の推進や、魅力的特産品の開発などを進め、観光と連携した農林水産業の育成を目指します。

島別振興方策では、各島の農林水産業の現状分析と地域特性を踏まえて、主要な農林水産物の生産・販売や、観光等との連携などについての振興目標と基本方策を示して、各島の農林水産業の振興を目指します。

### 3 取組の視点と行動原理

島しょ地域農林水産戦略構想は、島しょ農林水産業の活性化を進めていくために、3つの取組の視点に基づいています。そして、島しょ農林水産総合センターは、組織の使命である「農林水産業の一体的振興」に寄与するために、4つの行動原理に基づいて行動します。

#### 【取組の視点】

##### ① 農林水産業の一体的振興

生産～加工～流通販売に渡る課題を総合的に把握し、各島の地域特性を踏まえて、農林水産各分野を横断的・一体的に振興します。

##### ② 生産環境の改善

「森が海を育てる」と言われるように、山から海へと連なる農林水産業の生産の場の有機的な繋がりを踏まえて、生産環境を改善します。

##### ③ 都民・観光等との連携

観光や商工等との有機的連携、創意工夫による特産品の開発、食文化の提供などにより都民を島しょ地域へいざなうことを目指します。

#### 【行動原理】

島しょ農林水産総合センターは、試験研究の技術力と改良普及の指導力を基に農林水産業の一体的振興に寄与することを目的に設立されました。

このため、島しょ農林水産総合センターは、試験研究の技術力と改良普及の指導力を高め、次の行動原理に基づき、島しょ地域農林水産戦略構想の実現を目指していきます。

##### ① 現場主義

生産者、地元の方々の声を重視しつつ、島の特性を踏まえて、地域振興のために行動します。

② **産学公連携**

技術力の向上と迅速な課題解決のために、産学公連携による試験研究を一層推進します。

③ **普及指導の強化・拡大**

生産～加工～流通販売にわたる指導力向上のため、島内での情報の共有化・島間の連携を図り、普及指導の強化・拡大に努めます。

④ **コーディネート機能の発揮**

町村との協働や、観光等との連携などを円滑に推進するために、技術力・指導力に裏打ちされたコーディネート機能の発揮に努めます。

## 第3章 基本戦略と緊急プロジェクト

### 戦略1 パワフルで自立した基幹産業の実現

#### 1 ブランド化の推進

- ・ 農協や漁協等と連携して、東京ブランドの確立、普及を推進します。
- ・ ブランド情報や産地情報の発信を推進します。

#### 2 販売力の強化

- ・ 共撰・共販（農協）や一元出荷（漁協）など、共同出荷を推進します。
- ・ I T販売の拡大や量販店への販売など、多様な販路開拓を推進します。
- ・ 物産展等での販売促進やキャンペーンを強力に推進します。

#### 3 新規就労から自立までの一体的で多様な担い手の確保・育成

- ・ 農林水産業の魅力のPRや、求人情報の提供を推進します。
- ・ 初心者から熟度に応じた生産技術や経営管理の指導に努めます。
- ・ 作業の省力化など高齢者や女性が働きやすい技術の開発を推進します。
- ・ 農林水産業就労支援資金の活用を推進します。

#### 4 健康・安全・安心を重視した取組

- ・ ポジティブリスト対応、生産管理や健康情報の発信などを推進します。

#### 5 農林水産施設の一体的利用

- ・ 農林水産施設の共同利用による施設の有効活用を推進します。
- ・ 農林水産物直売所の一体的利用や観光との共同利用を推進します。

### 戦略2 活力ある生産環境の再生・開発

#### 1 遊休農地の積極的活用

- ・ 高齢者や女性等のアシタバなどの栽培で遊休農地の活用を推進します。

#### 2 自然災害に強い生産環境づくり

- ・ 島しょ地域特有の強風・塩害等自然災害を克服するため、鉄骨ハウス・耐風強化ハウス等の農業生産施設の計画的な整備普及を推進します。

### 3 産学公連携による農地・森林・漁場の改善

- ・畑土壌の悪化防止や改善を図るための土壌管理技術の開発を推進します。
- ・島の特性にあった森林再生を図るための植栽技術の開発を推進します。
- ・藻場が消失する磯焼けの原因究明と藻場の回復を推進します。

### 4 「つくり育てる漁業」の推進

- ・島の漁場特性を活かした魚貝類等の種苗放流や養殖などを推進します。

### 5 沖ノ島島周辺海域での漁場の開拓

- ・漁業調査・魚礁設置・種苗放流など、漁場の開拓を推進します。

### 6 三宅島農林水産業の生産の場の一体的復興

- ・漁場の土砂流入防止や農地の防風対策の要となる森林の機能を踏まえ、農林水産業の生産の場の一体的復興を推進します。

## 戦略3 観光と連携した農林水産業の育成

### 1 地元産食材の島内流通の促進

- ・民宿等への地元食材の提供など島内流通を促進します。
- ・観光客も島民も惹きつける農林水産物直売所の活性化を推進します。

### 2 特産品の開発

- ・女性パワーの活用や産学公連携などにより、サメや小型のサバなどの加工品（すり身・練り製品・サメジャーキーなど）の開発を推進します。

### 3 都民とのふれあいの推進

- ・農業（収穫等）や漁業（定置網等）の体験学習を推進します。
- ・トロリング大会やシマアジ等の放流など釣り客の誘致を推進します。
- ・緑豊かな森づくりなど新たな観光ルートの開発を推進します。
- ・地元産食材の学校給食への活用を推進します。

## 緊急プロジェクトの実施

健康志向が高まる中、島しょ地域を代表する健康食品である「アシタバ」と「テングサ」の市場規模が拡大しています。一方、島しょ地域では、遊休農地や女性等の潜在的労働力の活用により「アシタバ」と「テングサ」の増産体制が期待できます。「アシタバ」と「テングサ」は、まさに戦略構想を実現するための強力な武器となります。

そこで、戦略構想の第1弾として島しょ地域活性化の起爆剤の期待を込めて、「明日葉・天草緊急プロジェクト」を実施します。また、第2弾として「観光と連携・地産地消の推進」の実施を予定しています。

### 第1弾

#### 「明日葉・天草 緊急プロジェクト」始動

～ 島しょ活性化の起爆剤 ! ～

#### 1 プロジェクト・チームの結成（都・町村・生産者が一体となった取組）

#### 2 目標 ～日本一の産地とブランド化～



アシタバ

##### 「高カルコン明日葉」で日本一の産地を堅持

注) 高カルコン明日葉とは、抗菌や抗アレルギー等の健康に良い成分カルコンを多く含むアシタバ

##### 3年後（平成20年） 1,200トン（4.3億円）を目指す

300トン（1億円）の増産（参考）H15 約900トン（3.3億円）



テングサ

##### 「黄晒し天草」で日本一の産地を目指す

注) 黄晒し天草とは、収穫後、天日や水で丁寧に処理した最高級テングサ

##### 3年後（平成20年） 600トン（3.3億円）を目指す

300トン（2億円）の増産（参考）H15 約300トン（1.3億円）

#### 3 戦略

生産戦略：遊休農地の活用、漁場の回復・整備、女性・高齢者の活用 他

販売戦略：多様な販路開拓、特産加工品開発、販促・キャンペーン強化 他



### 第2弾

#### 「観光と連携・地産地消」の推進

（島しょ観光産業活性化戦略との連携）

- 1 民宿等で島の食材を二品以上提供（一宿二品運動の展開）
- 2 都心のアンテナショップを活用した特産品の売込み強化とニーズ把握

# ◆ 「アシタバ」の生産・販売戦略

| 生産戦略                                             |
|--------------------------------------------------|
| <b>遊休農地の活用</b><br>遊休農地を活用してアシタバ畑として利用            |
| <b>生産者の確保</b><br>新規就農者の確保・育成<br>高齢者・女性を活用した栽培    |
| <b>種子の確保</b><br>計画的な優良種子の確保                      |
| <b>研究の推進</b><br>カルコン含量も収穫量も多い品種の改良<br>夏季の生産技術の開発 |
| <b>普及活動</b><br>新規栽培者への指導強化<br>病害虫発生等の栽培障害への迅速な対応 |

| 販売戦略                                                     |
|----------------------------------------------------------|
| <b>生産情報の開示</b><br>安全・安心を積極的にPR                           |
| <b>成分効用のPR</b><br>カルコン・健康野菜をアピール                         |
| <b>販売力の強化</b><br>流通拠点の強化・JA系統販売の活性化<br>生協などと提携した新たな販路の開拓 |
| <b>研究の推進</b><br>安全・安心に配慮した病虫害防除技術の開発<br>付加価値の高い加工品の開発    |
| <b>普及活動</b><br>地産地消の推進<br>共撰共販の推進と生産履歴記帳指導               |

# ◆ 「テングサ」の生産・販売戦略

| 生産戦略                                              |
|---------------------------------------------------|
| <b>漁場の高度利用</b><br>入漁規制の緩和(島内での漁場の相互利用)            |
| <b>漁場の整備開発</b><br>計画的な築磯事業の展開                     |
| <b>生産性の向上</b><br>高齢者・女性の活用による干・晒作業の分担             |
| <b>研究の推進</b><br>産学公連携による磯焼け対策の推進<br>機動的な作柄・資源動態調査 |
| <b>普及活動</b><br>作柄情報の提供                            |

| 販売戦略                                      |
|-------------------------------------------|
| <b>生産情報の開示</b><br>「生産情報提供食品事業者登録」の働きかけ    |
| <b>成分効用のPR</b><br>食物繊維・寒天パワーをアピール         |
| <b>販売力の強化</b><br>JF系統販売の活性化<br>晒し等高品質化の徹底 |
| <b>研究の推進</b><br>付加価値の高い加工品の開発             |
| <b>普及活動</b><br>地産地消の推進                    |

## 第4章 取組体制と施策の評価

- ・生産者や農漁協等の主体的な取組を礎として、島しょ町村と協働し、観光等との連携も図りながら、基本戦略・島別振興方策の推進に努めていきます。
- ・基本戦略・島別振興方策の実施状況については、必要に応じて、関係者などの意見を踏まえ、評価・検証を行います。

## 第5章 島別振興方策

- ・各島の農林水産業の現状分析及び地域特性を踏まえて、振興目標と基本方策をとりまとめました。
- ・なお、現状分析では、基準年の平成6年度と直近の平成15年度を比較しています。



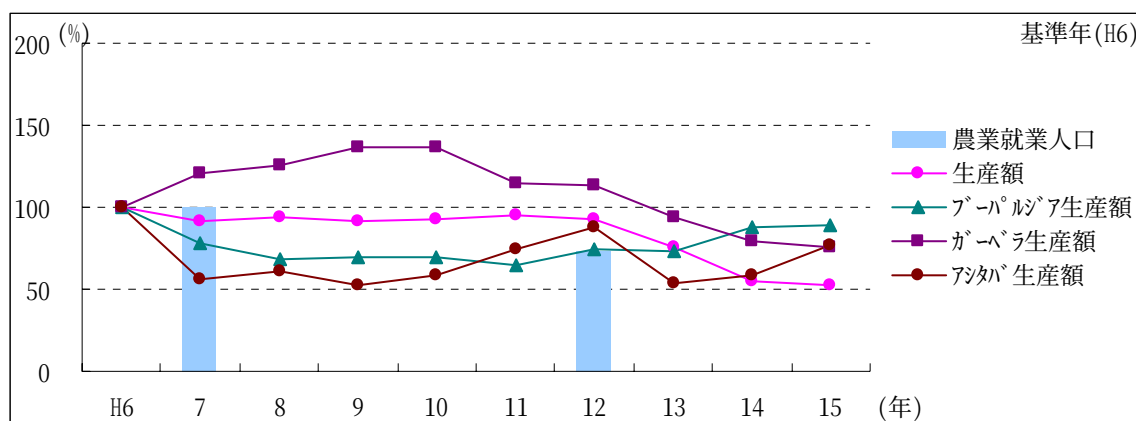
# 島別振興方策

## 【大島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は6億69百万円。担い手の減少、価格の低迷等により10年前の52.8%に減少
- ・ガーベラ生産額は平成10年をピークとし、価格の低迷により79百万円に減少。レザーファン等を組み入れた複数品目生産への転換が課題
- ・ブーバルジア生産額は1億70百万円で、最近増加傾向
- ・アシタバ生産額は37百万円で、最近急増傾向
- ・就業人口は250人。高齢化等による不耕作地が増加



#### 【振興目標】

- ① 基幹作物の高品質化
- ② 担い手の確保と遊休農地の活用
- ③ 観光等との連携

#### 【基本方策】

##### 1 ブーバルジア等の高品質化と複数品目栽培

- ・新品種の導入やブランド化などブーバルジアの生産販売対策を進め、日本一の産地の維持・拡大
- ・ガーベラとレザーファン等優良品目の栽培などによる経営の安定化
- ・災害等に強い農業生産施設の整備推進



出荷間近なブーバルジア

##### 2 アシタバの生産拡大と担い手の確保による遊休農地の活用

- ・遊休農地を活用し、女性をはじめ多様な担い手によりアシタバの生産拡大を推進
- ・アシタバのブランド確立、加工品の開発等による販路・消費の拡大

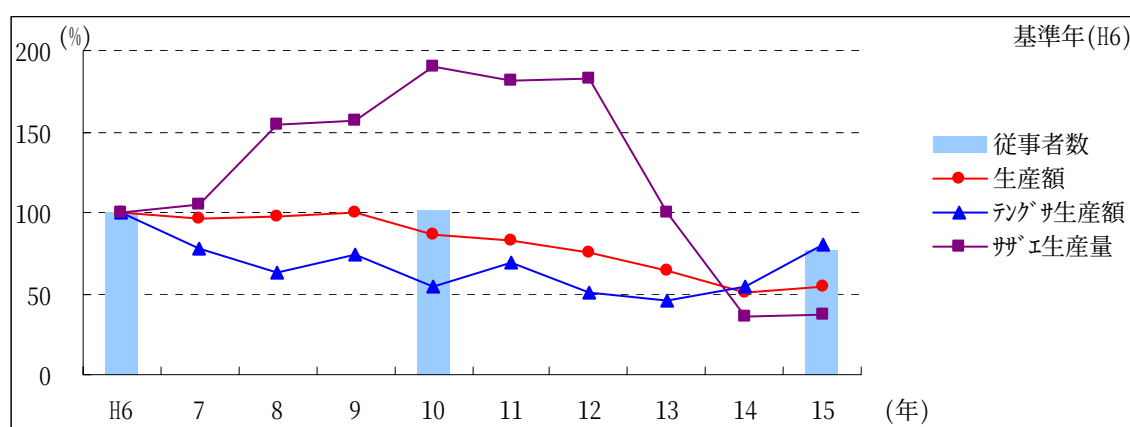
##### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・朝市の開催や「ぶらっとハウス（農作物共同直売所）」を活用した地産地消の推進
- ・地元スーパーやホテル・旅館・民宿との連携による地産地消の推進

## 水産業の現状と基本方策

## 【現状分析】

- ・生産額は3億65百万円で10年前の約半分。サザエ漁業の不振とイセエビの価格低迷が影響
- ・主要水産物のサザエは、乱獲や漁場の荒廃で生産量が激減
- ・テングサは、最近の国民の健康志向により高値で推移し、生産額は増加傾向
- ・水産物直販施設（海市場）の販売額は約40百万円で、主力商品はサザエとイセエビ
- ・定置網の生産量は約50トン。主体はイサキ・アジで、サバなどの雑魚も30%入網
- ・就業人口は173人。50歳以上が全体の約70%占め、高齢化が顕著



## 【振興目標】

- ① 磯根漁業の生産振興    ② 低未利用資源の活用    ③ 観光等との連携

## 【基本方策】

## 1 サザエ資源の回復

- ・着実な資源管理の実践と効果的な放流事業の展開
- ・サザエ資源のモニタリングによる持続的利用の推進
- ・産学公連携による共同研究の推進と漁場造成による漁場環境の改善（磯焼け対策）



棘が自慢の大島産サザエ

## 2 テングサ漁業の振興

- ・投石による漁場造成と相互利用による漁場の有効利用（入会緩和）
- ・高品質化による価格対策の推進とテングサを原料とした新たな加工品の開発・販売
- ・天日干しなど軽作業分野への女性や高齢者の活用

## 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

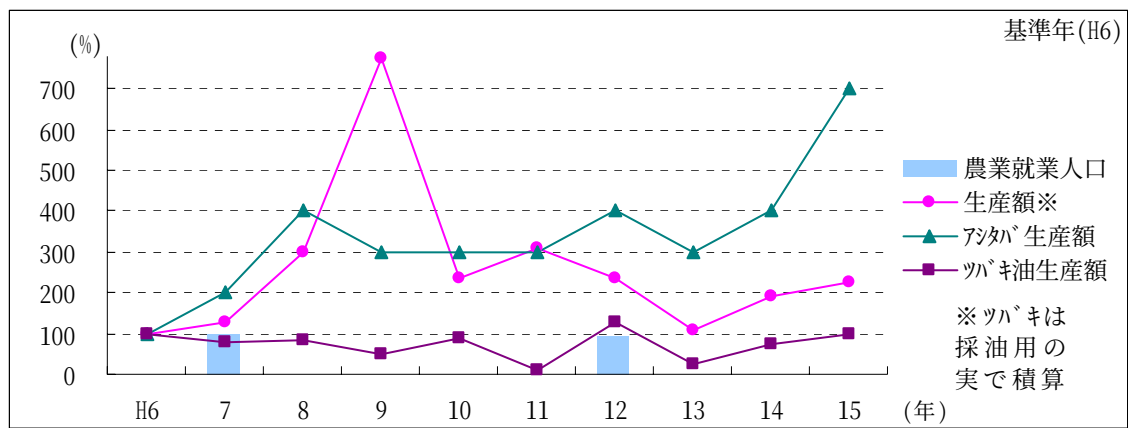
- ・低未利用魚を活用した加工品の開発（サメ、定置網で漁獲される小型サバ）
- ・学校給食等への食材提供による食育の推進と特産品開発の活動支援
- ・朝市の開催や「海市場（水産物販売所）」を活用した地産地消の推進

## 【利島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は 25 百万円で、平成 9 年をピークに減少したが、近年は増加傾向
- ・ツバキ油販売額は 59 百万円で、平成 12 年をピークに減少したが、近年は増加傾向
- ・アシタバ生産額は 7 百万円で、作付面積の増加で生産額も増加
- ・就業人口は 54 人。高齢化が進んでいるものの、横ばいで推移



#### 【振興目標】

- ① ツバキ油の生産安定等とアシタバの生産拡大

#### 【基本方策】

- 1 ツバキ油の生産量の安定化と活用促進
  - ・計画的なツバキ老齢木の更新による採油量の安定化
  - ・ツバキ実収穫体験ツアー等、ツバキ林の観光への活用促進
- 2 アシタバの生産拡大
  - ・更新したツバキ林の株間を活用したアシタバの栽培推進
  - ・新規栽培者への栽培技術指導の強化による技術レベルの高位平準化
- 3 協業化による営農の安定
  - ・ツバキ林での収穫作業や除草などの協業化の推進による営農の安定化

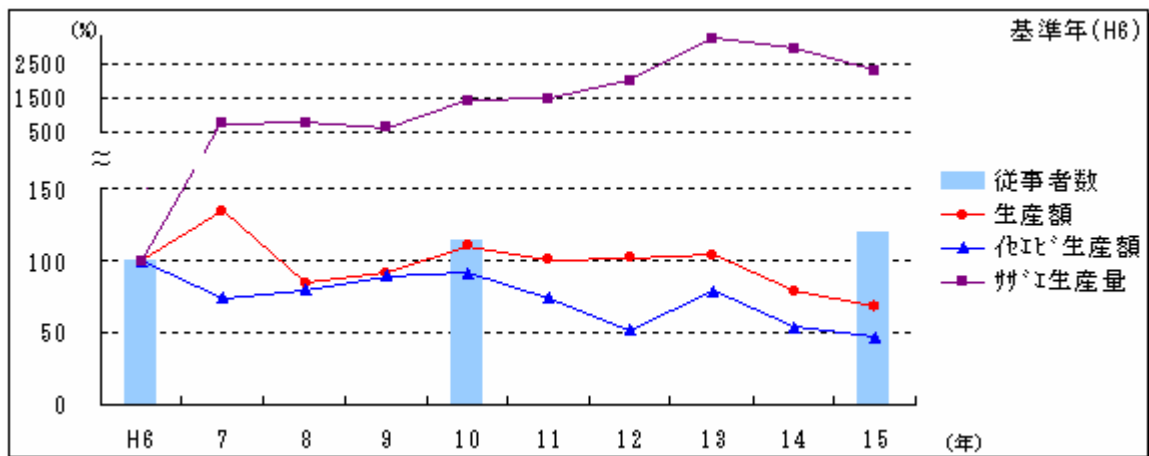


ツバキ実の収穫

## 水産業の現状と基本方策

### 【現状分析】

- ・生産額は 67 百万円で 10 年前の 68% に減少。イセエビ価格の下落が影響
- ・イセエビの生産額は全生産額の 38% の 26 百万円で 10 年前の 47% に激減
- ・サザエ生産量は、資源の減少で平成 13 年の 29 トンをピークに下降し、平成 15 年は 21 トン
- ・就業人口は 25 人。30 歳未満の若年齢層が約 16% の 4 人



### 【振興目標】

- ① 磯根漁業の振興と資源回復による安定した漁業生産体制の確立

### 【基本方策】

#### 1 イセエビ漁業の振興

- ・漁場造成による増産対策の推進
- ・利島ブランドイセエビのPR推進や新たな販路の開拓による販売の強化
- ・春期における蓄養技術の向上による出荷販売の安定化

#### 2 サザエ資源の回復

- ・的確な資源管理への取組や効果的放流事業による資源管理の推進
- ・漁場造成による増産対策の推進

#### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・ハバノリ等を使った加工品開発
- ・新たな特産品開発や民宿等への販売促進による地産地消の推進



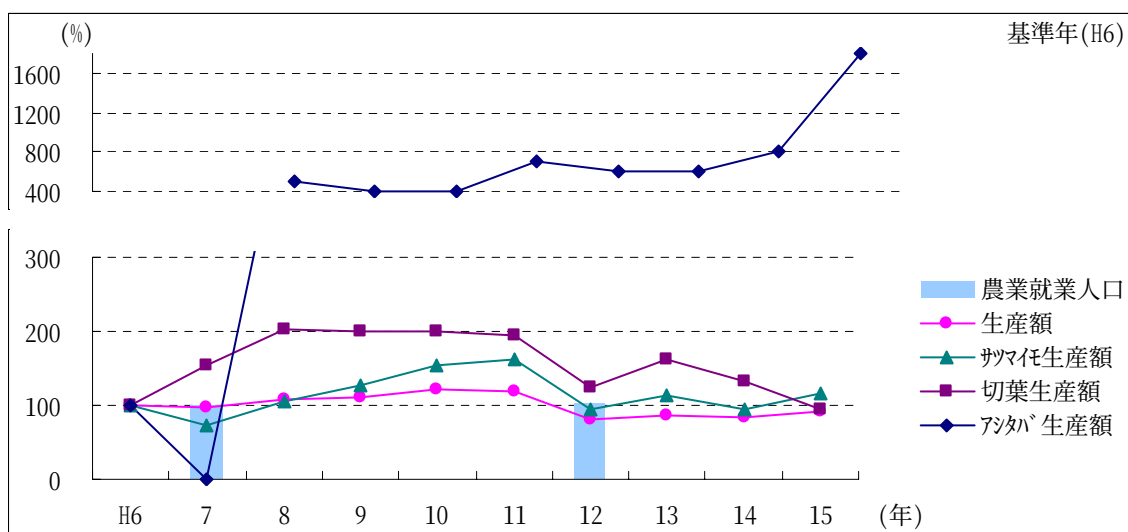
利島ブランドイセエビ

## 【新島・式根島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は1億6百万円。概ね横ばいで推移
- ・切葉(レザーファン等)生産額は15百万円。価格低迷で減少傾向
- ・サツマイモ生産額は36百万円。最近横ばいで推移
- ・アシタバの生産額は18百万円。最近急激に増加
- ・就業人口は36人。高齢化が進んでいるものの、横ばいで推移



#### 【振興目標】

- ① 基幹作物の生産安定・拡大
- ② 遊休農地及び定年帰農者の活用
- ③ 観光等との連携

#### 【基本方策】

##### 1 アシタバ・切葉の生産振興

- ・定年帰農者に対するアシタバ栽培の奨励による遊休農地の解消
- ・耐風強化ハウスの導入によるレザーファン等の切り葉生産拡大

##### 2 サツマイモの生産振興

- ・ウイルスフリー化による在来のアメリカイモの品質の向上と生産拡大
- ・イモ焼酎等の加工品の開発

##### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・朝市の開催や「ふれあい農園」の活用による地産地消の推進
- ・民宿での食材提供、加工品の生産販売等、観光と連携した地産地消の推進

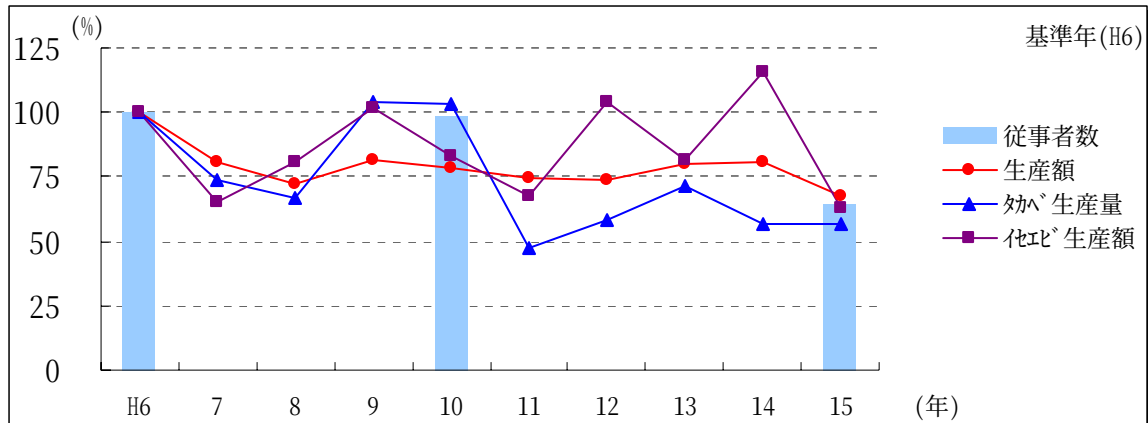


ウイルスフリー化による生産性の向上

## 水産業の現状と基本方策

### 【現状分析】

- ・生産額は6億円前後で推移しているが、魚類生産額は10年前の70%台に減少
- ・タカベ・イサキの生産量は、資源の減少等で10年前の50%台に減少
- ・イセエビの生産額は、1億5百万円から1億92百万円の範囲で変動
- ・定置網の生産量は78トン。主要魚種は45%を占めるケンサキイカ
- ・就業人口は90人。65歳以上が4割を占め、高齢化が進行



### 【振興目標】

- ① 主要漁業の生産振興
- ② 生産性向上と地域資源、既存施設の活用
- ③ 観光等との連携

### 【基本方策】

- 1 タカベ漁業の生産振興
  - ・科学的知見に基づく資源管理計画を充実し、資源の持続的利用を推進
  - ・東京都漁業協同組合連合会と連携した販売力の強化や女性部による加工利用の推進で漁業収益を拡大
  - ・寄網漁業の担い手確保と省力化対策の推進
- 2 イセエビ漁業の生産振興
  - ・漁場造成による増産対策の推進
  - ・新たな販路の開拓や春期におけるイセエビ蓄養技術向上による安定した生産体制の確立
- 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保
  - ・定置網で漁獲されたサバやサメなどの低未利用魚を材料とした加工品の開発
  - ・式根島養殖場の活性化、アワビ等貝類の養殖展開



水揚げされたタカベの選別

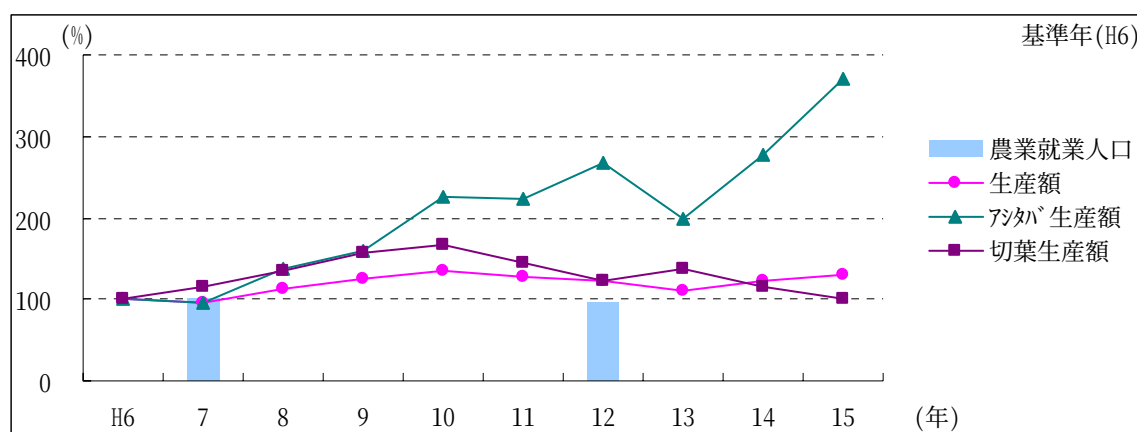


## 【神津島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は2億8百万円。切葉は減少したがアシタバの増加により安定的に推移
- ・切葉生産額は68百万円。価格低迷で近年減少傾向
- ・アシタバ生産額は1億11百万円。栽培しやすいため増加傾向
- ・就業人口は88人。高齢化が進んでいるものの、横ばいで推移



#### 【振興目標】

- ① 基幹作物の生産振興
- ② 生産環境の改善及び担い手の確保
- ③ 観光等との連携

#### 【基本方策】

##### 1 レザーファンの生産振興

- ・耐風強化ハウスの整備による安定生産、効率的ハウス暖房による冬期の増産
- ・農業協同組合の生産部会の活動強化、共撰共販による販売力の強化
- ・女性パワーのより一層の活用
- ・農道及びほ場整備による優良農地の造成・拡大



特産のレザーファン

##### 2 アシタバの生産振興

- ・新規就農者にも取り組み易いアシタバの栽培奨励
- ・遊休農地の積極的活用
- ・農道及びほ場整備による優良農地の造成・拡大（再掲）

##### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

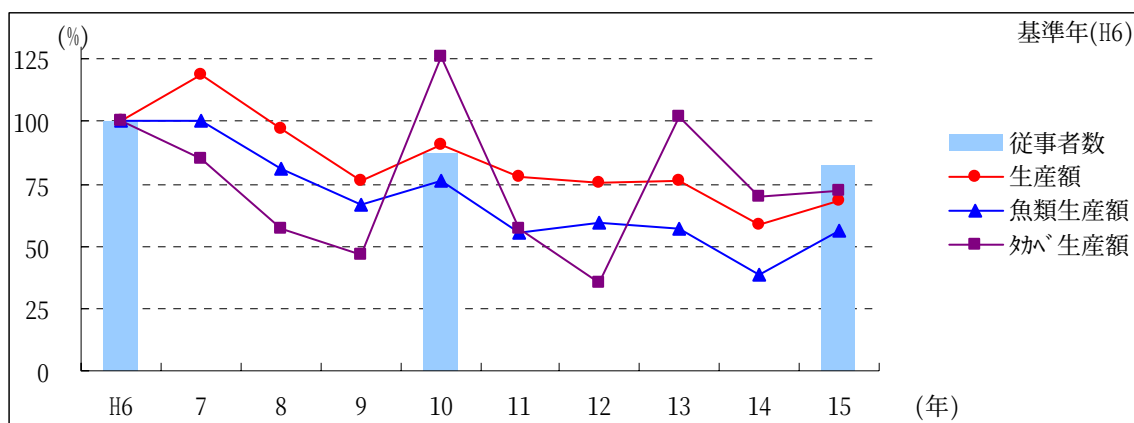
- ・民宿での食材提供、加工品の土産販売等による観光と連携した地産地消の推進



## 水産業の現状と基本方策

## 【現状分析】

- ・生産額は 5 億 78 百万円で 10 年前の 68% に減少。生産額の 50% 以上を占めるタカベ等の魚類生産額が半減
- ・定置網の生産量 45 トンのうち、約 17% は活魚出荷。水揚げの 29% はタカベ
- ・就業人口は 188 人。30～59 歳の働き盛りが全体の 36% を占め、島しょ中最多



## 【振興目標】

- ① 漁船漁業と磯根漁業の調和のとれた漁業振興 ② 観光等との連携

## 【基本方策】

## 1 漁船漁業の振興

- ・リアルタイムな漁海況情報等の提供による漁業経費の削減
- ・サメ被害対策の推進による漁業被害の軽減、東京都漁業協同組合連合会と連携した販売力の一層の強化
- ・タカベ、キンメダイの資源管理計画に基づく資源管理型漁業の推進

## 2 磯根漁業の振興

- ・土砂流入の被害にあった「観音浦」の漁場造成の推進
- ・テングサ等採藻漁業の生産物の高品質化による収益性の向上
- ・「神津島ブランド」による販売力強化、資源管理によるイセエビ、サザエ漁業の振興

## 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・サメ等の低未利用資源を活用した加工品の開発
- ・朝市や「よっちゃーれセンター（水産物直売所）」を活用した地産地消の推進



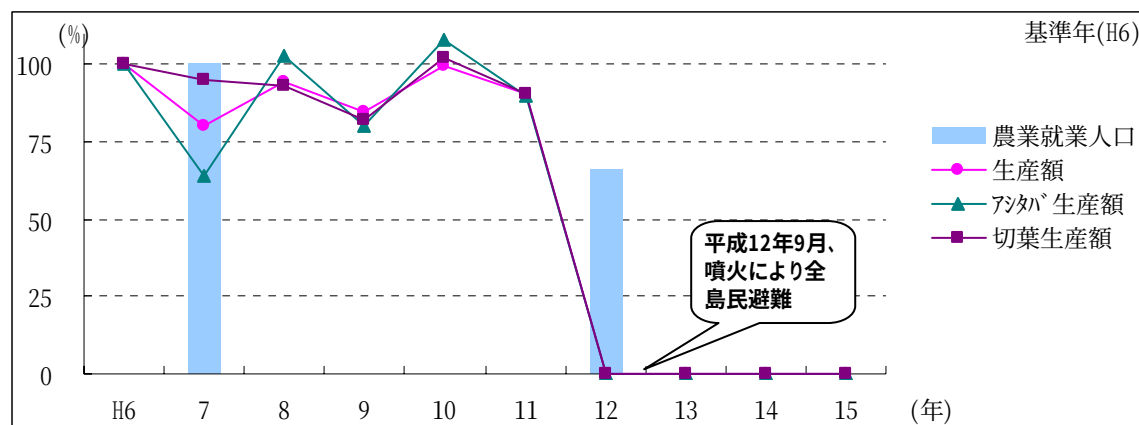
市場に水揚げされたキンメダイ

## 【三宅島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・ 噴火前の平成 11 年の生産額は、5 億 90 百万円で平成 6 年の 88%
- ・ 平成 17 年から農業生産を一部再開
- ・ 火山ガスの噴出が続く中で、高濃度地区を除き農業基盤の復旧が進行
- ・ 当面は、火山ガスに強い作物の栽培を奨励



#### 【振興目標】

- ① 火山ガスに強い基幹作物の生産振興    ② 農産物の販売力強化

#### 【基本方策】

- 1 火山ガスに強い作物の振興
  - ・ 特産アシタバの復活・生産振興
  - ・ 新たな特産作物の選定及び普及
- 2 農業基盤整備と営農再開支援
  - ・ 農地復旧事業の推進、復旧農地の利用促進
  - ・ 高齢者の活用や新規就農者の受け入れ推進
- 3 農産物の販売力強化
  - ・ アシタバ出荷組合や出荷ルートの再編整備
  - ・ 新たな販路の開拓、販売力の強化

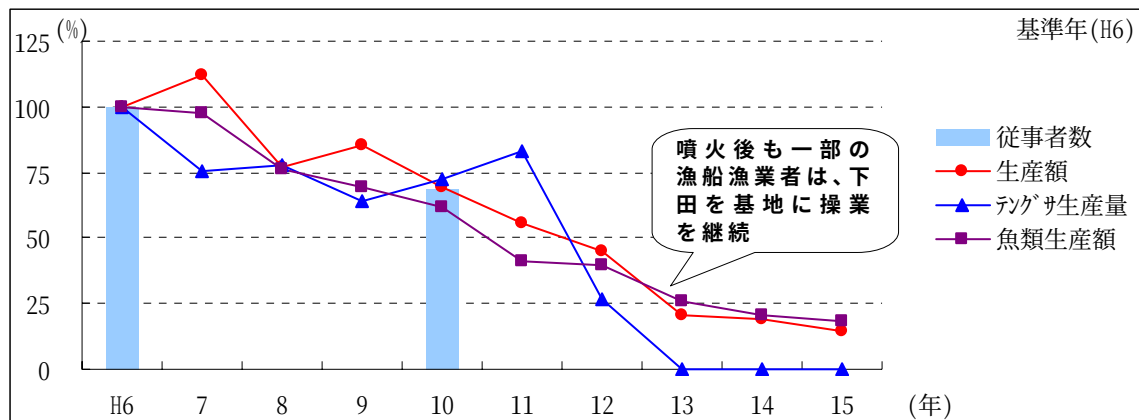


復旧農地でのアシタバ栽培

## 水産業の現状と基本方策

## 【現状分析】

- ・ 噴火前の生産額は2億45百万円。噴火による漁場荒廃や一斉島外避難の影響で平成6年の20%に減少
- ・ テングサは、噴火による島民の一斉島外避難による漁業従事者の減少で生産量が大幅に減少
- ・ 噴火前、定置網はクサヤモロ・オアカムロを中心に、年間50～100トンの生産量
- ・ 平成10年の就業人口は111人。昭和53年からの20年間で224人が減少



## 【振興目標】

- ① 漁業生産活動の本格再開 ② 地域と一体となった災害からの復興

## 【基本方策】

## 1 テングサ漁業の振興

- ・ 産学公連携による磯焼け対策や漁場造成による漁場の回復
- ・ 最高品質のテングサ「オオブサ」の生産振興で「三宅島ブランド」を復活
- ・ 天日干しなど軽作業分野への女性や高齢者の活用



テングサの天日干し作業

## 2 漁業生産力の回復

- ・ リアルタイムな漁海況情報の提供による漁業経費の削減
- ・ キンメダイやタカベの資源管理の実践、放流事業による資源培養対策の推進
- ・ 東京都漁業協同組合連合会との連携による販売力強化や鮮度保持対策等による高品質化の推進

## 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

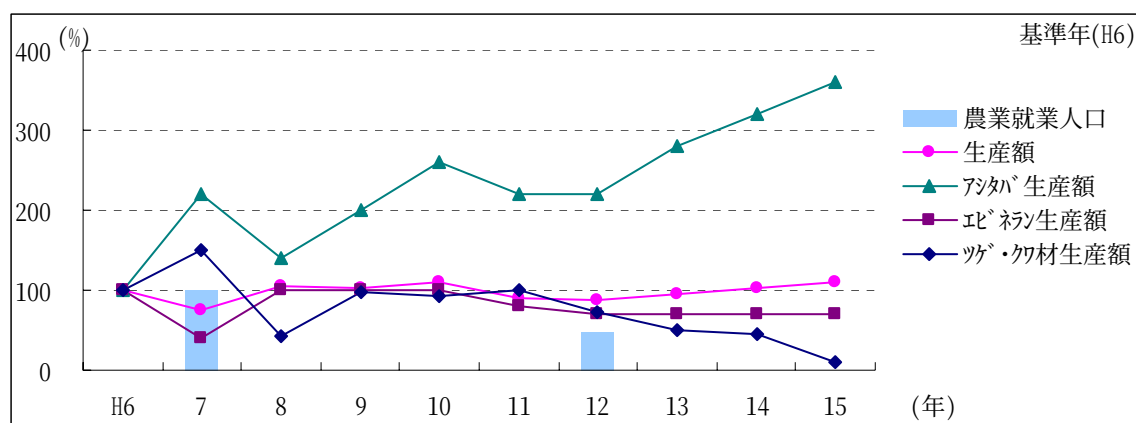
- ・ 定置網漁業の再開による水産物の確保
- ・ 朝市の開催や「いきいきお魚センター」を活用した農林水産物の販売促進
- ・ 商店・民宿と連携した島内販売体制の確立

## 【御蔵島】

### 農林業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は 48 百万円。ほぼ横ばいで推移
- ・エビネラン生産額は 14 百万円。景気低迷により需要が減少し、低迷
- ・アシタバ生産額は 18 百万円。作付面積の拡大により増加傾向
- ・ツゲ・クワ（林産物）の生産額は 7 百万円。不安定な需要により生産活動は近年急激に後退
- ・就業人口は 23 人。高齢化による不耕作で減少



#### 【振興目標】

- ① 豊かな水や良質な土壌を活かした基幹作物の生産拡大
- ② 観光等との連携

#### 【基本方策】

##### 1 アシタバの生産拡大

- ・女性・高齢者活用による生産量の拡大に伴う島外への安定出荷体制の確立
- ・「長軸アシタバ(※)」の販路開拓による「御蔵島ブランド」の推進

##### 2 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・地場野菜・鶏卵の安定生産を主体とした地産地消の推進と農畜産物の安定供給
- ・御蔵島特産「ツゲ加工品」の販売促進



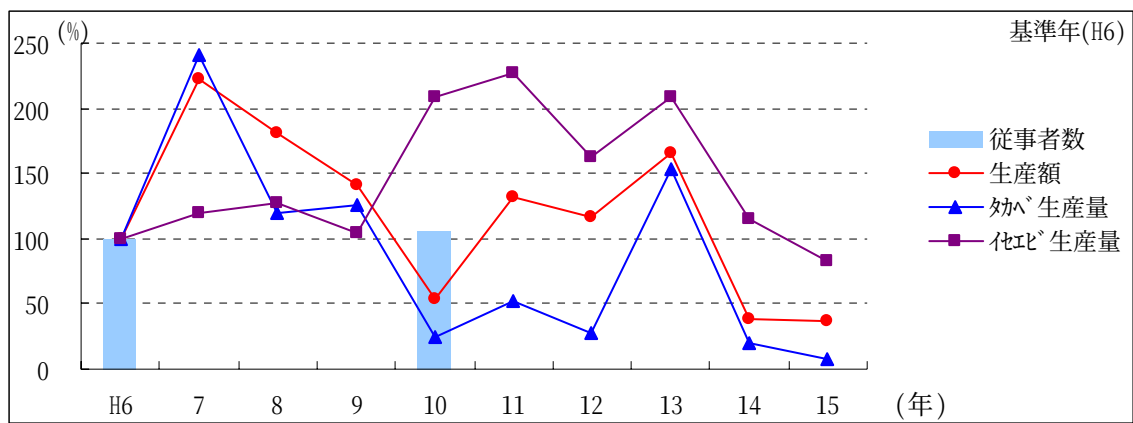
長軸アシタバ

※ 長軸アシタバとは、軸の長さが70cmにもなる太くて、みずみずしいアシタバ。他島での生産はなく、御蔵島ブランドによる出荷が始まっている。

## 水産業の現状と基本方策

### 【現状分析】

- ・生産額は2百万円で、10年前の45%
- ・タカベの生産量は、10年前の1割に減少。イセエビの生産額は昭和63年の22百万円から60万円に減少
- ・生産額の減少は、10年前頃から盛んになったイルカウォッチングへの移行による漁業従事者の減少が主要因
- ・就業人口は19人。50～64歳が6割を占め、高齢化が進行



### 【振興目標】

- ① イルカウォッチングと調和のとれた漁業振興

### 【基本方策】

#### 1 漁業生産活動の活性化

- ・イルカウォッチングと漁業生産活動の共存
- ・タカベ、イセエビの生産振興



御蔵島のイルカ

#### 2 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

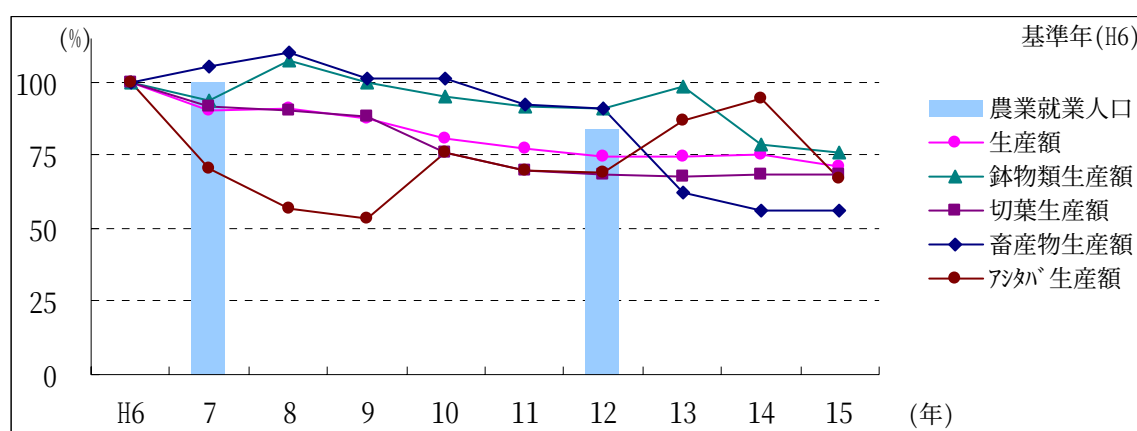
- ・イルカウォッチングで増加する観光客に対応した地産地消の推進
- ・タカベ、イセエビ等を地産地消の食材として積極的に活用

## 【八丈島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は22億59百万円で、そのうち切葉生産額は12億99百万円。価格の低迷等による生産額の減少が続いたが、増産体制のための施設整備や作付面積の規模拡大により最近はやや横ばいで推移
- ・鉢物類生産額は3億25百万円で、他産地との競争激化で減少傾向
- ・フェニックス・ロベレニーの切葉は、国内市場をほぼ独占し、鉢物は外国へも輸出される特産品に成長。老朽木の更新等更なる産地力の強化が必要
- ・畜産物生産額は43百万円で、10年前の56%に減少。主な原因は、島外からの安い牛乳の流入
- ・就業人口は683人。価格低迷や高齢化による不耕作等で減少



#### 【振興目標】

- ① 基幹作物の産地力強化
- ② 地場消費農畜産物の生産振興
- ③ 観光等との連携

#### 【基本方策】

##### 1 フェニックス・ロベレニー等基幹作物の産地力の強化

- ・フェニックス・ロベレニーの老朽木対策及び、切葉、切花の共撰共販率や品質・生産性向上により産地間競争力の強化
- ・防風・防霜ネットハウス等の農業生産施設の整備と高齢化対策の充実

##### 2 アシタバの生産振興

- ・遊休農地を活用した、女性等の多様な担い手によるアシタバ生産の拡大
- ・夏期のアシタバ栽培の工夫による、端境期の増産

##### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・朝市の開催や「エコあぐりまーと（農産物直売所）」を活用した地産地消の推進



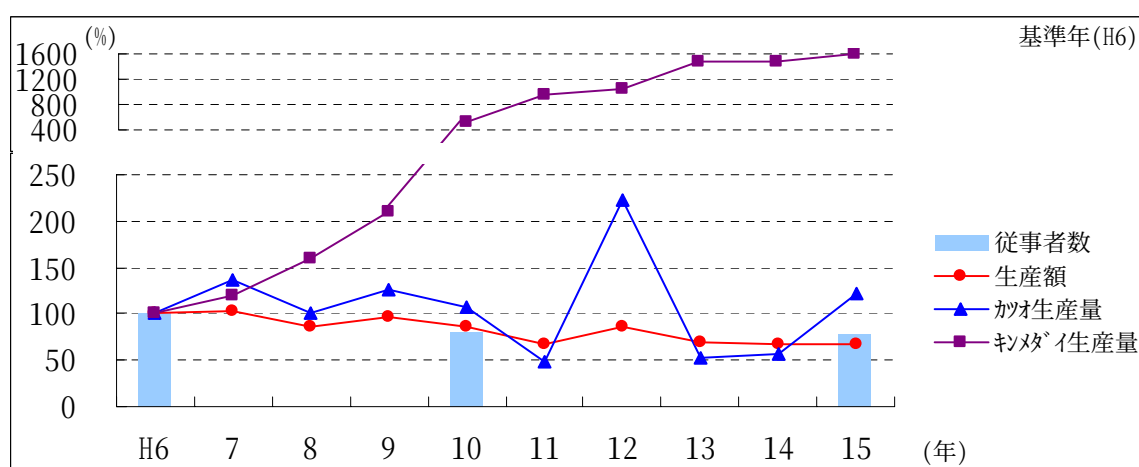
フェニックス・ロベレニーの出荷作業



## 水産業の現状と基本方策

## 【現状分析】

- ・生産額は9億37百万円で10年前の76%に減少。アオダイ等の高級底魚類やテングサの生産量が減少
- ・カツオの生産量は、海況変動の影響で不安定。近年、底釣漁業の主体はキンメダイ漁業に移行し、その生産額は10年前の16倍に増加
- ・テングサは昭和63年に2億15百万円、フクトコブシは平成元年に1億24百万円の生産額。近年、漁場の荒廃等により生産額はそれぞれ百万円と2百万円に大幅に減少
- ・就業人口は188人。5年前より4人減少し、高齢化が進行



## 【振興目標】

- ① 安定化した漁業生産体制の確立 ② 観光等との連携

## 【基本方策】

## 1 漁業生産活動の効率化と安定

- ・リアルタイムな漁海況情報の提供や浮魚礁の設置による収益性の高い漁業の確立
- ・サメによる漁業被害の軽減や東京都漁業協同組合連合会と連携した販売力強化による漁業生産活動の安定化
- ・ハマトビウオのTAC（許容漁獲量）管理やキンメダイの広域的資源管理の推進



水揚げされたカツオ

## 2 磯根資源の回復と利用

- ・産学公連携による磯焼け原因の究明やテングサ、フクトコブシ資源回復対策の推進
- ・カギイバラノリ養殖試験の取組を推進し、伝統料理ブドの普及を促進

## 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

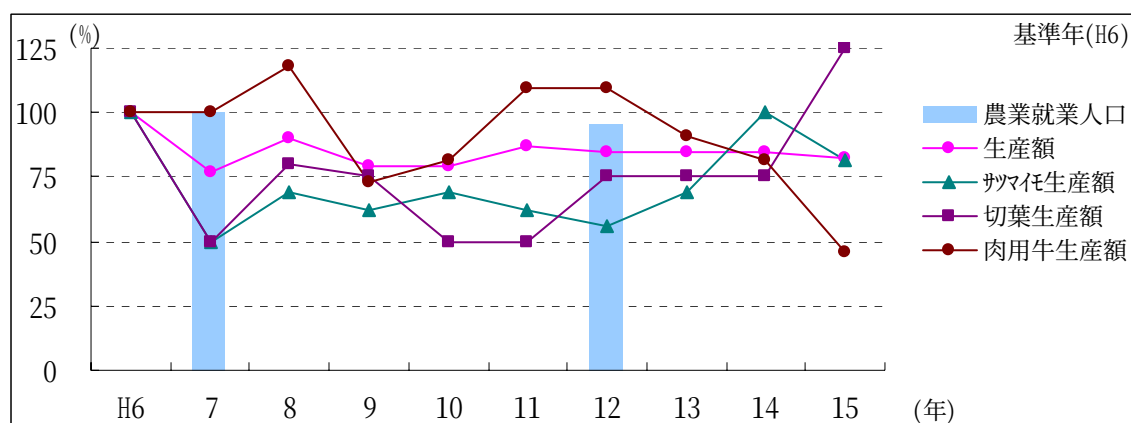
- ・漁業と調和のとれたマリンレジャーの展開
- ・サメやビンチョウマグロ等の低未利用魚を活用した加工品の開発
- ・学校給食等への食材提供による食育の推進

## 【青ヶ島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は 32 百万円。概ね横ばいで推移
- ・特産焼酎(青酎)の原料用であるサツマイモの生産額は 13 百万円。概ね横ばいで推移
- ・肉用牛の生産額は子牛の生産減により、最盛期より大幅に減少し 5 百万円
- ・切葉の生産額は 5 百万円。気象の影響を受けやすく生産が不安定
- ・就業人口は 22 人。総数は横ばいで推移しているが、30～49 歳の層は増加傾向



#### 【振興目標】

- ① 特産品目の生産技術の向上と生産基盤の整備

#### 【基本方策】

- 1 フェニックス・ロベニー等切葉類の生産振興
  - ・災害等に強い農業生産施設の整備による生産の安定化
  - ・切葉類生産技術の向上による品質の向上及び生産拡大
- 2 特産焼酎原料となるサツマイモの生産振興
  - ・全国的に有名な特産焼酎「青酎」の需要に応えるサツマイモの生産振興
- 3 黒毛和牛の生産振興
  - ・母牛の繁殖率、子牛の飼養管理技術の向上による肥育素牛の生産振興
  - ・堆肥センターの有効活用による堆肥の島内循環の促進



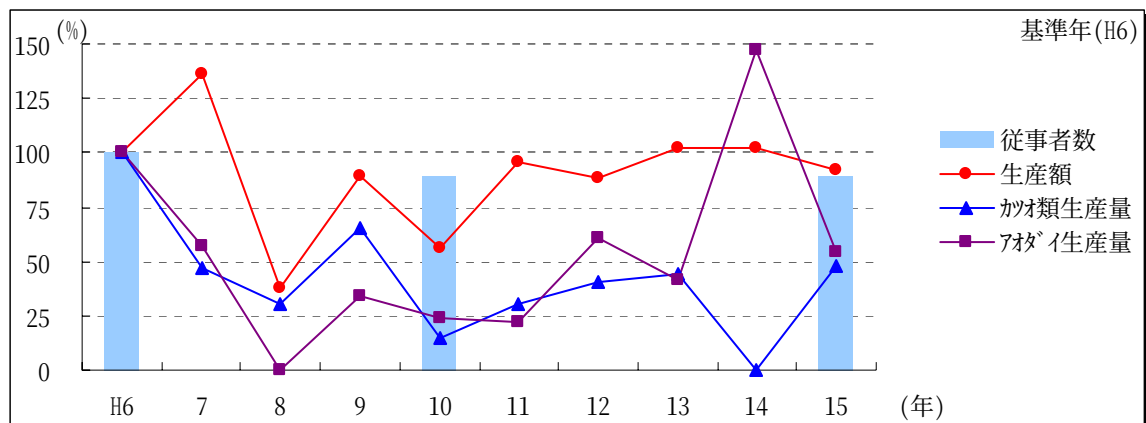
繁殖用黒毛和牛



## 水産業の現状と基本方策

## 【現状分析】

- ・生産額は6百万円台。平成11年以降は概ね横ばい傾向
- ・全生産額の20%以上を占めるカツオ類は年変動が大きく、不安定
- ・近年、アオダイ、メダイ、キンメダイ等の底魚類の生産額が増大。アオダイは、平成14年には1.3トン、3百万円
- ・自然条件が厳しく、全ての経営体（漁業者）の年間操業日数は90日以下
- ・就業人口のうち30～49歳が5人



## 【振興目標】

- ① 漁業生産活動の育成・強化

## 【基本方策】

- 1 漁船漁業の育成
  - ・曳縄漁業、底釣漁業の育成による漁業生産の拡大
  - ・鮮度保持対策による品質向上及び安定出荷
  - ・港湾施設の整備による操業の安定化
- 2 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保
  - ・島内消費拡大による地産地消の推進
  - ・自然塩を活用した加工品の開発



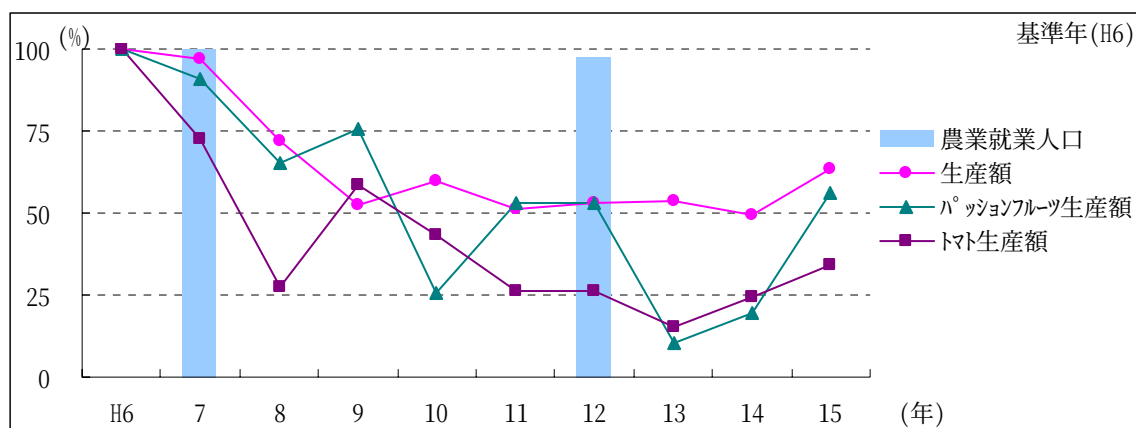
港の未整備により上架される漁船

## 【小笠原父島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は 34 百万円で、兼業農家が多く生産は伸び悩み
- ・パッションフルーツ生産額は 4 百万円で、鉄骨ハウスの整備で回復傾向
- ・トマト生産額は 2 百万円で、直売所等での人気が高く回復傾向
- ・就業人口は 40 人で、ほぼ横ばい。唯一、農地法が適用されていないが、農地の流動化は進んでいない



#### 【振興目標】

- ① 基幹作物の生産拡大
- ② 基幹作物の生産環境整備
- ③ 観光等との連携

#### 【基本方策】

- 1 熱帯果実・地場産野菜の生産拡大
  - ・遊休農地等を活用したパッションフルーツ等熱帯果樹の作付拡大
  - ・トマト等野菜の契約栽培による安定生産、安定販売の推進
  - ・有畜農業の推進による地力の増進、農作物の高品質化
  - ・後継者や新規就農者の育成による担い手の確保
- 2 熱帯果実等の生産環境整備
  - ・生産基盤対策及び農地の流動化の推進による経営規模の拡大
- 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保
  - ・直売所の活用や商店、観光との連携による地産地消の推進
  - ・生産者組織の強化、品質の向上及び販路の多角化の推進

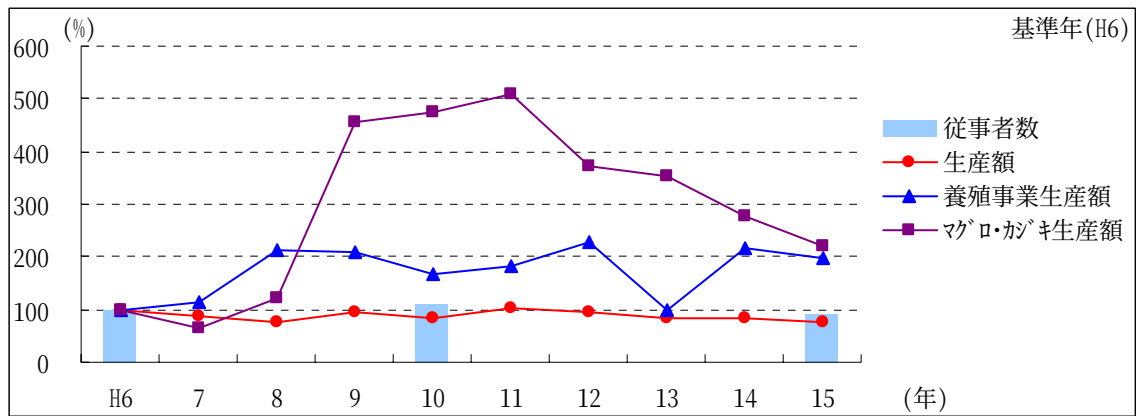


島の農産物が揃う直売所

## 水産業の現状と基本方策

### 【現状分析】

- ・生産額は4億5百万円。うち漁業生産額が80%、種苗販売等養殖事業が20%
- ・漁業生産額は、魚価の低迷により、10年前の77%に減少
- ・マグロ類生産額は、平成11年のピーク時の42%にあたる46百万円に減少
- ・養殖事業による生産額は10年前の約2倍に増加している。近年、需要の低迷と種苗価格の下落等で経営は悪化傾向
- ・就業人口は52人。30歳未満の若年層が全体の30%以上を占め、若年漁業者が主体



### 【振興目標】

- ① 新漁場の開拓 ② 養殖事業の経営安定化 ③ 観光等との連携

### 【基本方策】

#### 1 漁船漁業の振興

- ・沖ノ鳥島海域の漁場開拓
- ・キンメダイ等深海未利用資源の開発や立縄漁法を対象とした新漁場開拓等
- ・長期輸送に対応した鮮度保持技術の向上、東京都漁業協同組合連合会との連携等による販売力の強化

#### 2 養殖事業の経営安定化

- ・生産コストの軽減等による経営改善
- ・疾病対策等技術指導の強化や新たな養殖魚種の開発
- ・遊漁向け放流種苗の販路開拓

#### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・直売所の活用や商店、観光との連携による地産地消の推進
- ・加工利用等による特産品開発の推進
- ・漁業と調和のとれたマリンレジャーの展開



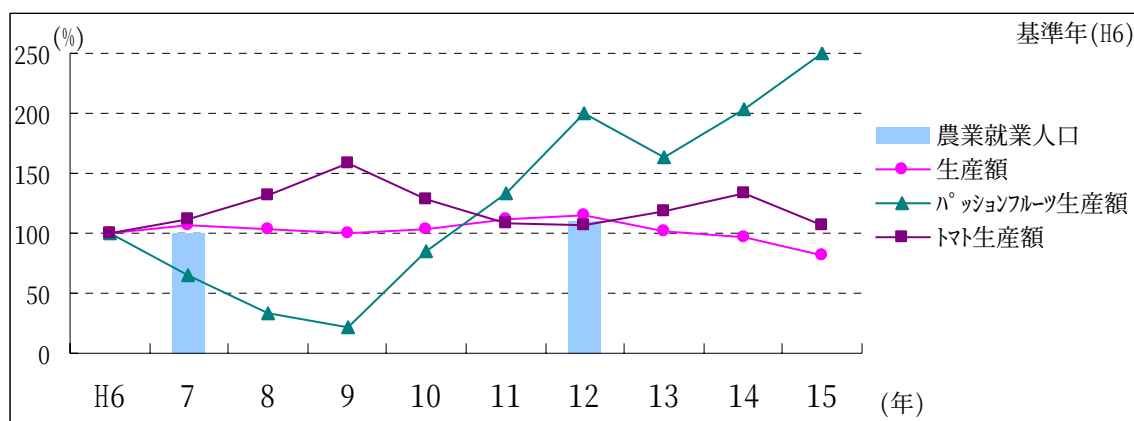
二見湾の養殖いかだ

## 【小笠原母島】

### 農業の現状と基本方策

#### 【現状分析】

- ・生産額は 67 百万円。概ね横ばい
- ・パッションフルーツの生産額は 27 百万円。鉄骨ハウスの整備が進み増加
- ・トマト生産額は 11 百万円。主な販路である観光客の多い父島の直売所等での人気が高い
- ・就業人口は 49 人で増加傾向。唯一、農地法が適用されていないが、農地の流動化は進んでいない



#### 【振興目標】

- ① 基幹作物の生産拡大 ② 基幹作物の生産環境整備 ③ 観光等との連携

#### 【基本方策】

##### 1 熱帯果実等の生産拡大

- ・パッションフルーツ他の鉄骨ハウスなど施設栽培による安定生産・品質向上
- ・島レモン等の契約栽培による安定生産、安定販売の推進
- ・有畜農業の推進による地力の増進、農作物の高品質化
- ・後継者や新規就農者の育成による生産組織体制の強化



鈴生りのパッションフルーツ

##### 2 熱帯果実等の生産環境整備

- ・農業用水の安定的確保対策
- ・アフリカマイマイ等による農作物被害防除対策の推進

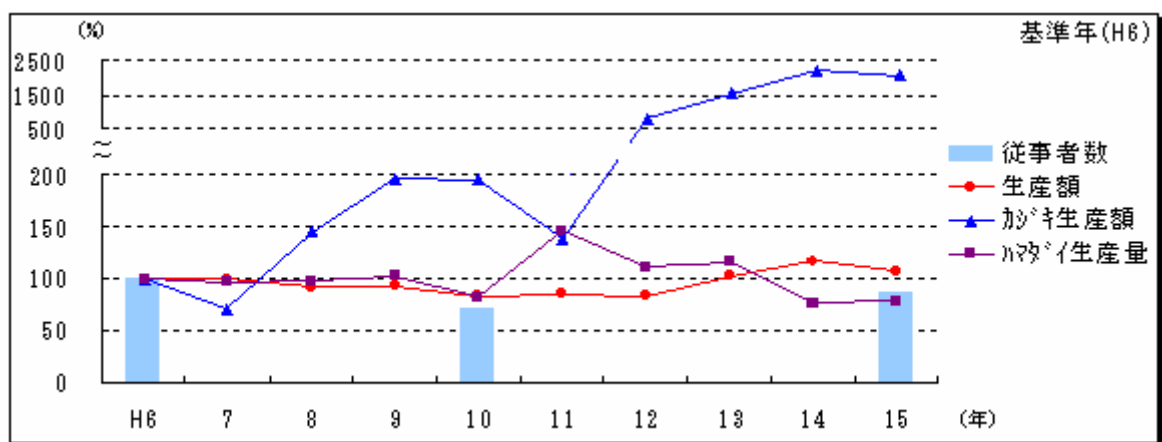
##### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・「父島の直売所」の活用や商店、観光との連携による地産地消の推進
- ・観光客や帰省による来島シーズン等に魅力ある島の特産物を供給するための生産体制の構築（年末年始、夏期、ホエールウォッチング等）

## 水産業の現状と基本方策

### 【現状分析】

- ・生産額は1億48百万円で比較的安定した生産を維持
- ・平成12年以降、メカジキの生産量が急増。生産額は93百万円で全生産額の63%
- ・平成7年に生産量49トン、生産額39百万円であったマグロ類は、平成12年以降のカジキ漁業への移行等で12トン、17百万円に減少
- ・生産額の約1割を占めるハマダイの生産量は、メカジキ漁業への転換で減少
- ・就業人口は26人で平成10年から4人増加。30歳未満の若年層は5年間で3人増加



### 【振興目標】

- ① 漁船漁業の振興 ② 新たな水産資源の開発 ③ 観光等との連携

### 【基本方策】

#### 1 漁船漁業の振興

- ・漁場形成要因等の解明によるメカジキ漁業の持続的生産の推進
- ・資源動態等の把握によるハマダイ等底魚資源の持続的利用の推進
- ・長期輸送に対応した鮮度保持技術の向上や東京都漁業協同組合連合会との連携等による販売力の強化



水揚げされたメカジキ

#### 2 新たな水産資源の開発

- ・キンメダイ等深海未利用資源の開発

#### 3 観光との連携・地産地消の推進による収益の確保

- ・直売所の活用や商店、観光との連携による地産地消の推進
- ・加工利用等による特産品開発の推進
- ・漁業と調和のとれたマリンレジャーの展開

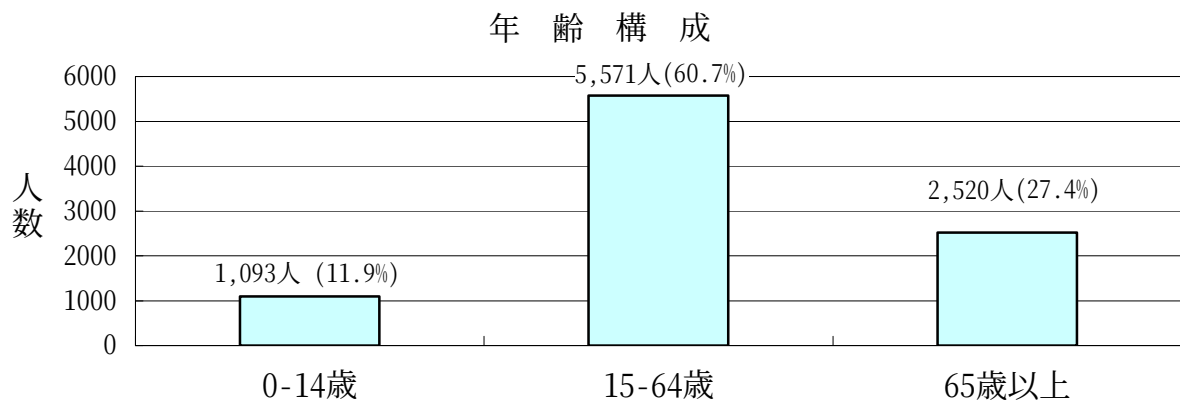


# **(資料編)**

# 大 島 町 の 概 要

## 1. 人 口 等

| 人 口     | 面 積                   | 位 置           |              | 東京からの距離 |
|---------|-----------------------|---------------|--------------|---------|
| 9, 184人 | 91. 06km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 21 ' | 北緯 34 ° 44 ' | 109km   |

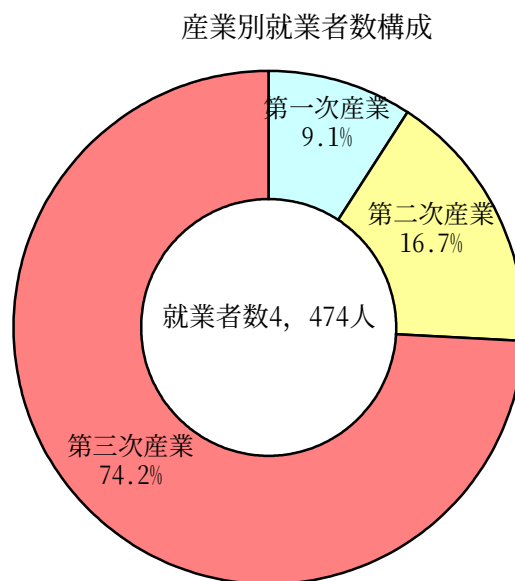


[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南方海上約110Kmに位置し、伊豆諸島の中でもっとも大きな島である。島の中央に典型的な複式火山三原山が聳え、その東側は断崖絶壁となって海に落ち込み、西側は平地が開けている。地質は主に玄武岩で形成されているが、たび重なる噴火により溶岩流や噴出物が随所に露出している。集落は、海岸沿いに点在し、それらを都道大島循環線が結んでいる。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]





島の農産物直売所「ぶらっとハウス」



テングサ・サザエの好漁場



新鮮な魚介類が購入できる  
水産物直売所「海市場」



ブーバルジア

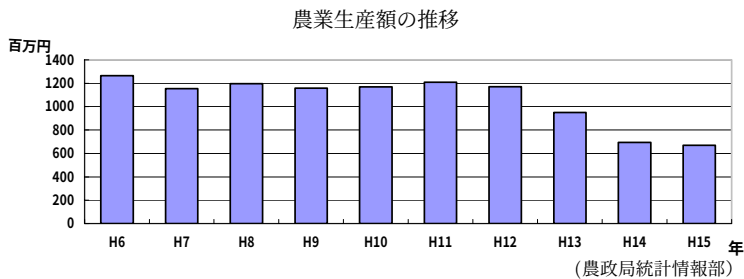


アシタバ

## 大島 農業の現状分析

### 現状分析（１）

- ・生産額は平成6年の1,266百万円から平成15年の669百万円と597百万円（47%）も減少



#### ①10年間の生産額減少の原因（推計）

|             |        |     |
|-------------|--------|-----|
| 統計推計値の見直し   | 119百万円 | 22% |
| 単価下落による生産額減 | 39百万円  | 7%  |
| 廃業による生産減    | 389百万円 | 71% |

#### ②廃業の理由（普及センター巡回聞き取り）

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 高齢化（本人死亡含む）、後継者なし | 60% |
| 転職（兼業農家の廃業含む）     | 40% |

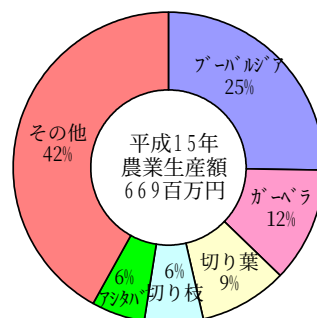
#### ③転職の理由（普及センター巡回聞き取り）

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 単価下落による所得低迷          | 70% |
| 自然災害・病虫害等による生産・所得不安定 | 30% |

#### ④平成13年以降大きく減少した原因

露地栽培の切枝（銀香梅、サンキライ等）  
切葉（ハラン、アスパラガス等）、施設栽培  
のガーベラ等の生産額の減少が主な原因

#### 農産物生産額の内訳

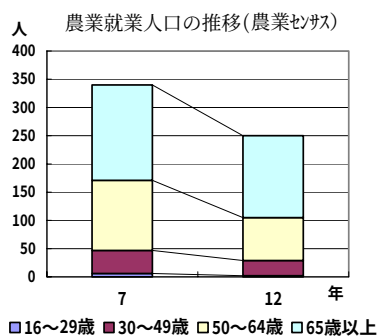


#### 主要品目生産額の推移

|      | 単位：百万円 |     |     |     |         |
|------|--------|-----|-----|-----|---------|
|      | H12    | H13 | H14 | H15 | H15-H12 |
| ガーベラ | 119    | 98  | 83  | 79  | △ 40    |
| 切枝   | 249    | 130 | 49  | 40  | △ 209   |
| 切葉   | 132    | 125 | 66  | 62  | △ 70    |
| 計    | 500    | 353 | 198 | 181 | △ 319   |

### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、平成7年340人から平成12年250人に減少
- ・平成12は、30歳未満の若年労働者の割合が1%



#### 平成12年農業就業人口（農業ヒヤス）

|        | 人数  | 割合(%) |
|--------|-----|-------|
| 16～29歳 | 2   | 1     |
| 30～49歳 | 27  | 11    |
| 50～64歳 | 76  | 30    |
| 65歳以上  | 145 | 58    |
| 計      | 250 | 100   |

町では、平成18年以降に島外からの新規就農者受入のための研修・宿泊施設を整備する意向がある。

### 現状分析（３）

- ・農業就業人口が減少したため、耕作されない遊休農地が全体の約3割

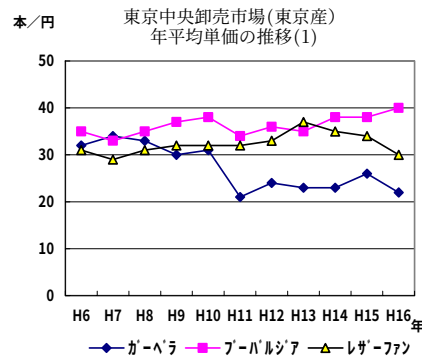
#### 遊休農地の状況（H12農業ヒヤス）

|              |     |      |
|--------------|-----|------|
| 耕作放棄地(ha)    | 75  |      |
| 1年間不耕作地(ha)  | 14  |      |
| 遊休農地計(ha)    | 89  | 33%  |
| 耕作している農地(ha) | 184 | 67%  |
| 合 計          | 273 | 100% |

町では、遊休農地解消対策の1つとして、南部地域であしたば畑の圃場整備や加工施設を整備する意向がある。

#### 現状分析（４）

・重点的に振興する島外出荷農産物は、切花のブーバルジア、ガーベラ、トルコギキョウ、切葉のレザーフアン、野菜のアシタバ



##### ○ブーバルジア

東京中央卸売市場で63% (H16) の占有率、新品種の導入等でブランドの強化を図る

##### ○ガーベラ

生産方法の改善・品質の向上等で収益の向上を図る

##### ○トルコギキョウ

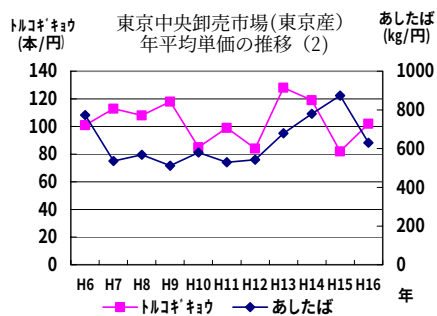
大島での栽培体系を確立し、生産拡大を図る

##### ○レザーフアン

ガーベラ等との複数品目経営、高齢者対策（切花より収穫作業が楽）として、生産奨励

##### ○アシタバ

高齢者・遊休農地解消対策として生産奨励、販路拡大のため加工処理を図る



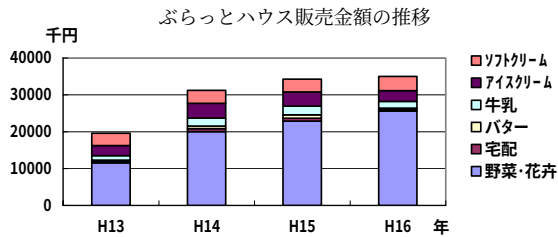
#### 大島重点振興農産物の推移

|         |           | H12     | H13     | H14     | H15     |
|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|
| ブーバルジア  | 出荷数量 (千本) | 3,900   | 3,807   | 4,088   | 4,157   |
|         | 出荷金額 (千円) | 144,300 | 140,859 | 151,256 | 170,437 |
| ガーベラ    | 出荷数量 (千本) | 6,320   | 5,760   | 4,889   | 4,660   |
|         | 出荷金額 (千円) | 120,080 | 97,920  | 83,113  | 79,220  |
| トルコギキョウ | 出荷数量 (千本) | 765     | 810     | 271     | 210     |
|         | 出荷金額 (千円) | 63,495  | 81,000  | 27,100  | 22,050  |
| レザーフアン  | 出荷数量 (千枚) |         |         |         | 350     |
|         | 出荷金額 (千円) |         |         |         | 11,900  |
| アシタバ    | 出荷数量 (kg) | 7,830   | 8,271   | 15,567  | 16,242  |
|         | 出荷金額 (千円) | 5,477   | 5,407   | 13,250  | 12,659  |

※大島地域農林業協議会資料、支庁農業統計、普及センター調査より取りまとめ

#### 現状分析（５）

・ぶらっとハウスでは、野菜・花卉の売上げが多い



支庁農業統計資料より

ぶらっとハウスでは、農産物は午前中の早い時間で売り切れる状況で、多くの購買者は島民である。このことから、島内商店・民宿等と提携し、地元農産物の流通システムを構築すれば、島内需要はかなりあると予測される。町のアンケート調査でも、島内食料品販売店の地元農産物に対する期待は大きい。

ー高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進ー  
農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 969    | -      | -      |
| サツマイ   | 4.5    | 15     | 108    | 720    |
| パレシヨ   | 24.9   | 83     | 63     | 76     |
| サトイ    | 20.7   | 69     | 39     | 57     |
| トマト    | 24.9   | 83     | 37     | 45     |
| ニンジン   | 17.3   | 57     | 6      | 11     |
| ホウレンソウ | 15.5   | 51     | 12     | 24     |

H16人口 9,084 人

| 品 目  | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 73     | 81     | 111    |
| キュウリ | 11.1   | 37     | 15     | 41     |
| タマネギ | 36.9   | 122    | 29     | 24     |
| タマキ  | 27.7   | 92     | 12     | 13     |
| ハクサイ | 16.3   | 54     | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 333    | 160    | 48     |
| 卵    | 29.5   | 98     | 21     | 21     |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量 (H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15))

※2 需要量=摂取量×365日×人口

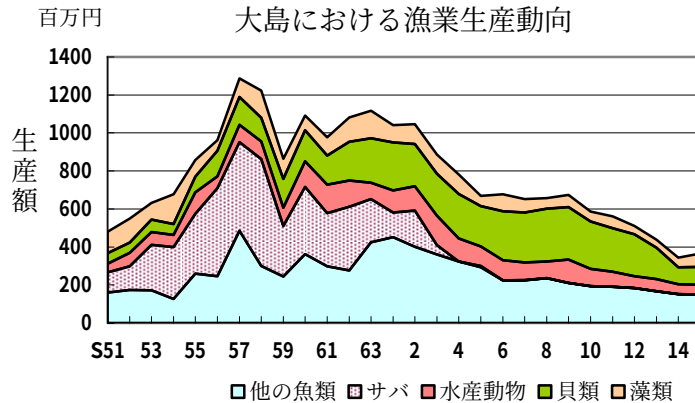
※3 生産量はH15農林水産統計年報(農政局統計情報部)より、但し畜産物は独自調査

※4 自給率=生産量÷需要量

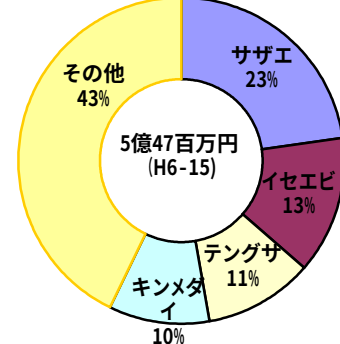
## 大島 水産業の現状分析

生産額はピーク時の1/3、10年前の約5割に減少

- 大室出しでのサバ漁業盛漁期には、最高で13億円の生産額
- 最近10年間ではサザエ等の貝類生産額の減少が著しく、ピークを示した平成8年の3割に減少
- 生産金額の約5割は、サザエ、イセエビ、テングサ等の磯根資源



最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



□魚類生産額の減少



サバ漁獲量の減少

□貝類生産額の減少



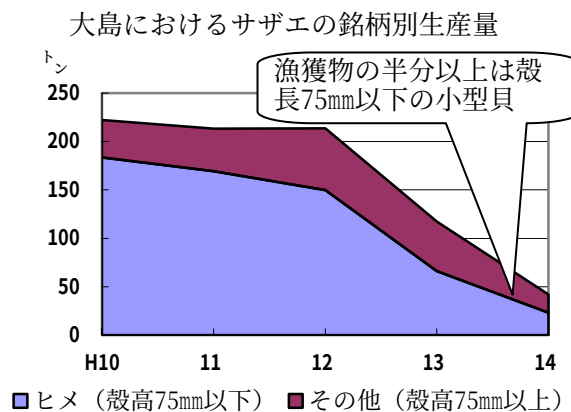
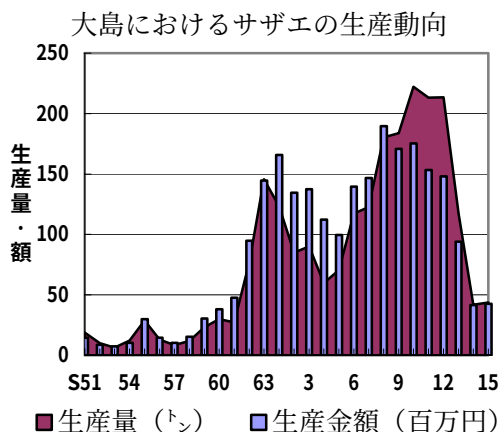
サザエ資源の減少による漁獲量の減少

### <サザエの生産動向>

- ・最近10年間の平均生産額は1億30百万円で、大島の全生産額の23%を占める重要魚種
- ・最高の生産額をあげた平成8年の1億90百万円から平成15年には43百万円に減少。構成比も12%に減少
- ・平成10年に過去最高の222トンあった生産量は、平成15年には44トンに激減

### <サザエ資源減少の考えられる要因は>

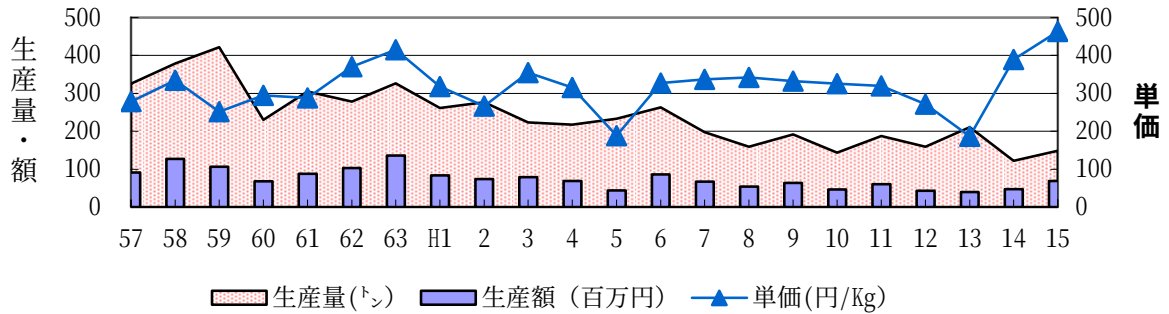
- ・乱獲 → 産卵前の5～7 cmの小型貝の漁獲（漁獲物の約7割）
- ・餌料環境の悪化 → アントクメ等、藻場の減衰
- ・海洋環境の影響 → 産卵や幼生の着底に対する水温等の影響



## テングサの生産量は減少傾向だが、近年、価格は急上昇

- 昭和59年には400トン以上水揚げしたが、最近、200トン以下に減少
- 単価は平成13年に186円の最低価格を記録したが、平成14年以降急上昇し平成15年には463円

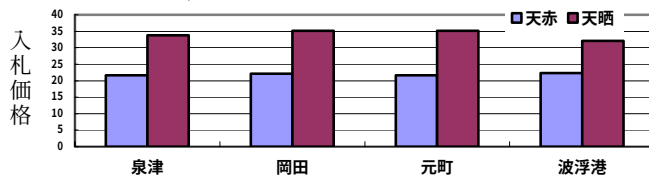
大島におけるテングサの生産動向



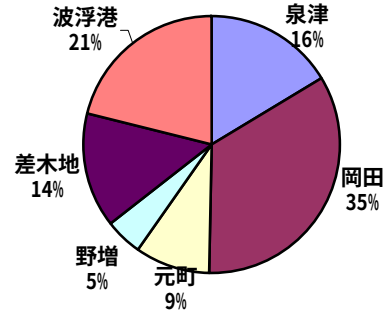
## テングサ増産対策

- 未利用漁場の有効利用 → 入会の規制緩和
- 磯焼け漁場の回復 → 北部から西側漁場の磯焼け対策
- 高品質化 → 「晒し」処理の推進

千円 テングサ(荒)の天晒と天赤の入札価格比較

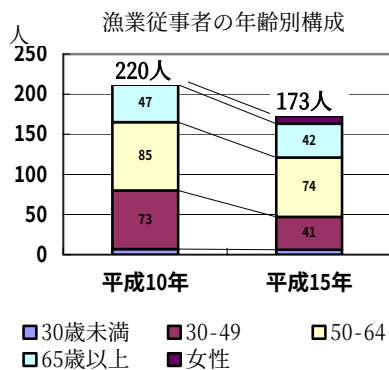


大島におけるテングサの地区別漁獲量構成 (1975-1984年 10年間平均)



## 漁業従事者の減少と高齢化

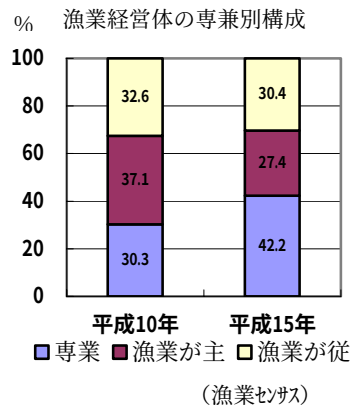
- ・平成10年の220人から平成15年は173人に減少。50歳以上の従事者は116人で全体の67%



(漁業センサス)

## 専門家は増加

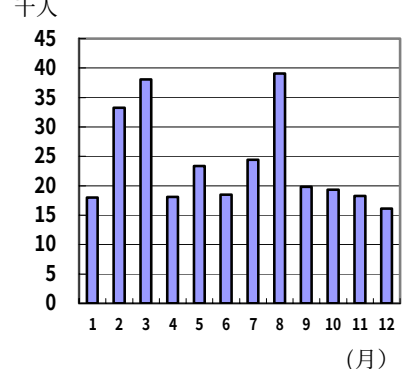
- ・経営体数は175から135経営体に減
- ・平成15年の専門家は57経営体で全体の42%を占め、5年前より増加



## 毎月2万人前後の来島者

- ・ピークは夏の8月と椿祭りの2~3月
- ・昭和40年代後半80万人あった来島者数は、平成12年以降30万人を割り、20万人台に減少

平成16年の月別来島者数

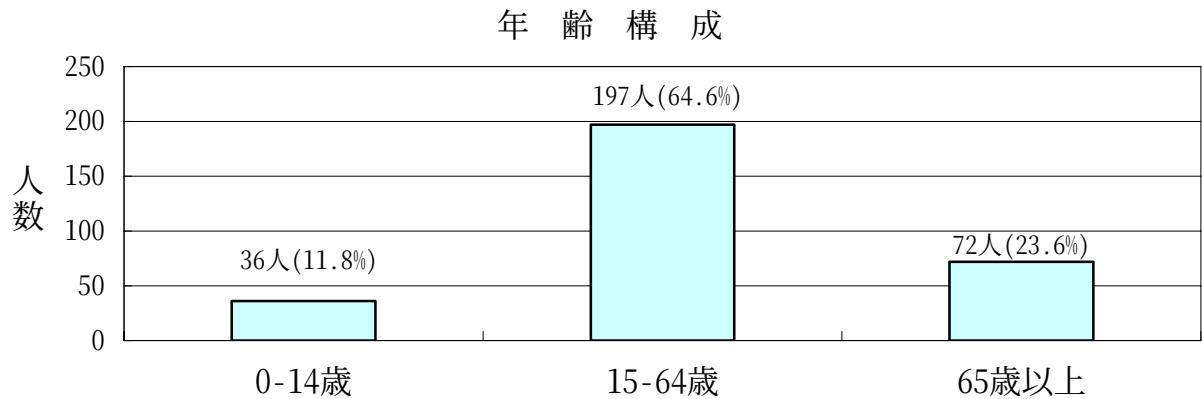




# 利 島 村 の 概 要

## 1. 人 口 等

| 人 口  | 面 積                 | 位 置           |              | 東京からの距離 |
|------|---------------------|---------------|--------------|---------|
| 305人 | 4.12km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 17 ' | 北緯 34 ° 31 ' | 134km   |



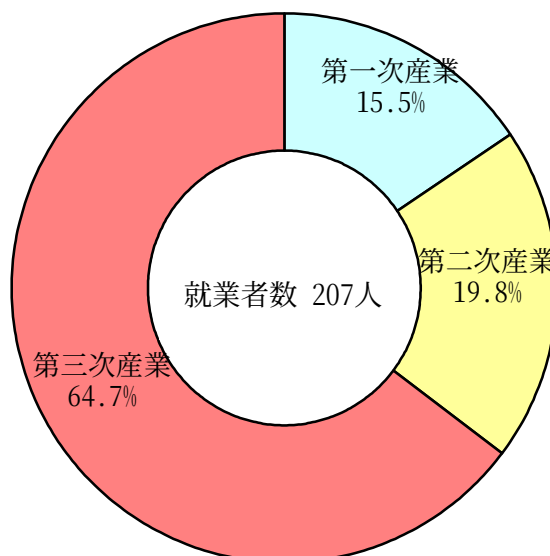
[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南方海上約130Kmに位置し、島の中央に宮塚山を頂く円錐形の島である。島は玄武岩を主体に形成されているが、表土は地味が肥えており、全島椿林で覆われている。集落は宮塚山の中腹西寄りに集中している。

## 3. 産 業

産業別就業者数構成



[平成12年国勢調査による]



ハバノリ製品



ツバキ林のアシタバと収穫風景



サザエ



イセエビ



イサキ



ツバキの畑



ツバキの花

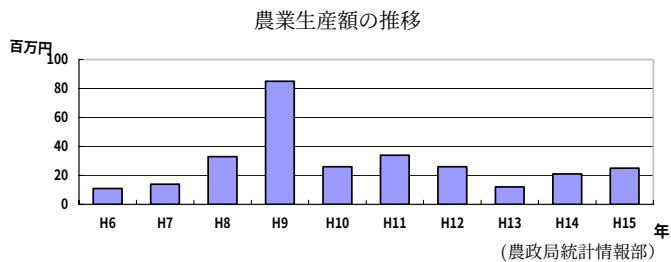


害虫調査

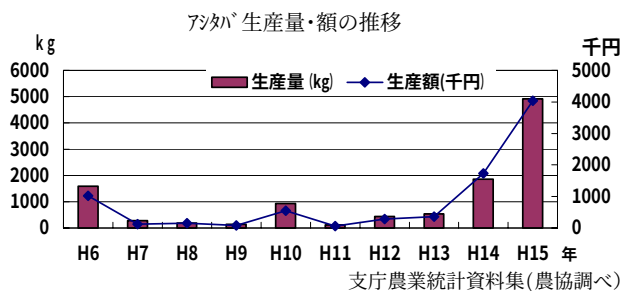
## 利島 農業の現状分析

### 現状分析（１）

- ・農業生産額は低迷しているが、平成15年はアシタバの伸びで増加

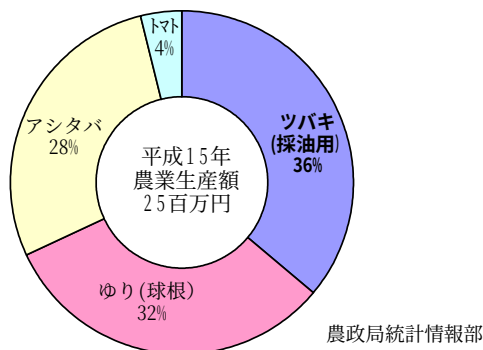


生産額は、平成8年の急激な増加を除き、1千万から2千万の範囲で安定している。  
ツバキ生産額に依存して農業生産額が変動が大きい。  
ツバキ生産量は年次変動が大きく不安定。  
近年は、アシタバの生産が伸びているので、全体の生産量は増加すると予測される。



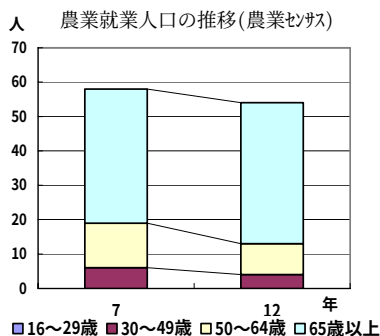
アシタバの生産が急激に伸びているのは、管理・収穫作業が楽で高齢者や女性でも作りやすいためと思われる。アシタバは、今後も生産が順調に伸びて、上位になると予測される。

### 農業生産額の内訳



### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、平成7年の58人から平成12年の54人で、ほぼ横ばい
- ・平成12年は、65歳以上の就農者の割合が76%



#### H12農業就業人口(農業セサズ)

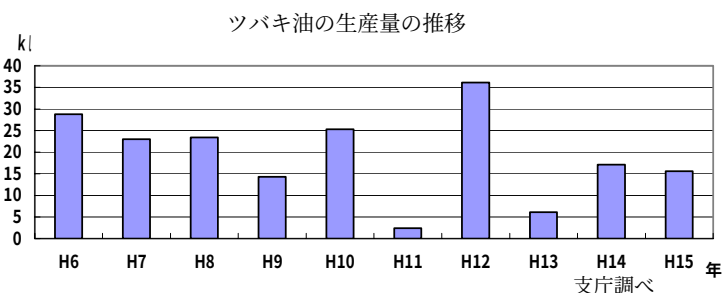
|        | 人数 | 割合(%) |
|--------|----|-------|
| 16～29歳 | 0  | 0     |
| 30～49歳 | 4  | 7     |
| 50～64歳 | 9  | 17    |
| 65歳以上  | 41 | 76    |
| 計      | 54 | 100   |

農業者の高齢化が進んでいるので、多様な担い手を確保して、農業・農地を維持して行く必要があると思われる。

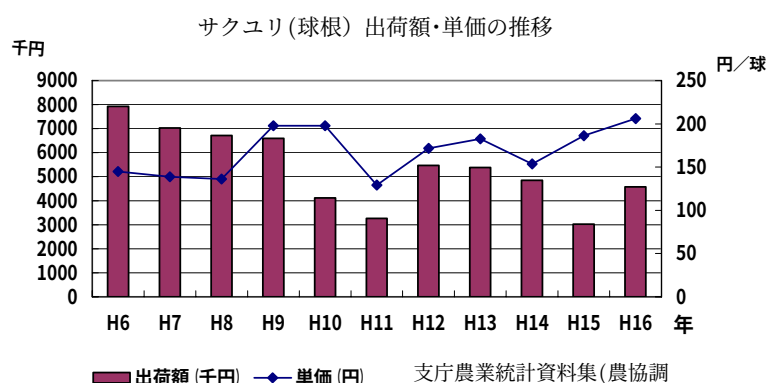


### 現状分析（３）

- ・主幹作物のツバキ油、サクユリ(球根)の生産は低迷



・ツバキ生産量は年次変動が大きく不安定。  
原因として、  
①その年の天候等による影響  
②高齢化でツバキ樹園地の管理が不十分  
③ツバキの更新が進んでいないため結実量が低下している等が考えられる。  
・全国のツバキ油生産量に占める東京産の割合は高く、その多くが利島産である。



### 現状分析（４）

- ・来島者、島民の新鮮な地場農畜産物需要に応える生産量確保が重要

#### 利島の宿泊施設、商店等の概要

| 軒数 |   |
|----|---|
| 民宿 | 6 |
| 旅館 | 1 |
| 小計 | 7 |
| 商店 | 2 |
| 農協 | 1 |
| 漁協 | 1 |

村役場資料

観光客は釣り客が主体である。定期船の欠航率も高く、生鮮食料品は不足しやすいので、島内自給率を高める必要があると思われる。

－高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進－

#### 農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 31.3   | -      | -      |
| サツマイモ  | 4.5    | 0.5    | 2      | 400    |
| パレショ   | 24.9   | 2.7    | 0      | 0      |
| サトイモ   | 20.7   | 2.2    | 2      | 91     |
| トマト    | 24.9   | 2.7    | 1      | 37     |
| ニンジン   | 17.3   | 1.9    | -      | -      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 1.7    | 1      | 59     |

| H16人口 |        | 293 人  |        |        |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 品 目   | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
| キャベツ  | 22.0   | 2.4    | -      | -      |
| キュウリ  | 11.1   | 1.2    | -      | -      |
| ダイコン  | 36.9   | 3.9    | 2      | 51     |
| タマネギ  | 27.7   | 3.0    | 0      | 0      |
| ハウサイ  | 16.3   | 1.7    | -      | -      |
| 牛乳    | 100.4  | 10.7   | -      | -      |
| 卵     | 30     | 3.2    | -      | -      |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量＝摂取量×365日×人口

※3 生産量はH15農林水産統計年報(農政局統計情報部)より、但し畜産物は独自調査

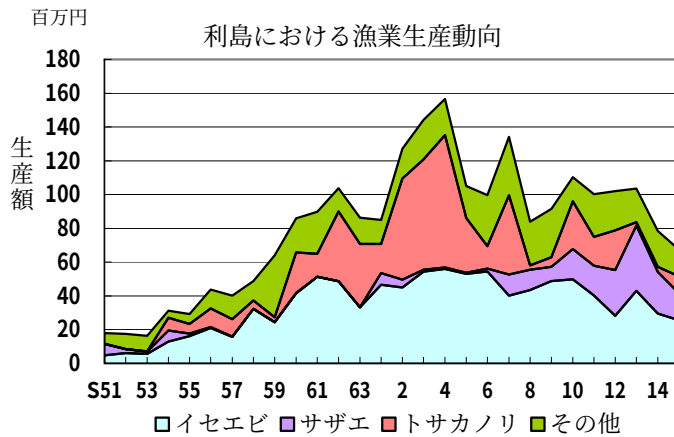
※4 自給率＝生産量÷需要量

## 利島 水産業の現状分析

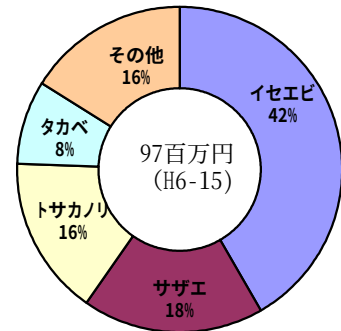
### 特定魚種に依存した不安定な漁業生産

□平成4年に1億57百万円の最高の生産をあげた後、1億円台を維持したが、平成14年以降減少

□イセエビ・サザエ・トサカノリの3魚種の生産額が全体の7～8割



最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



### 漁業生産額の減少要因

□主要魚種であるイセエビ生産額の減少（H6年比47%）

＜要 因＞ 景気低迷等の社会的要因による価格の下落

- ・平成3年から6年にかけて50百万円以上水揚げしていたが、平成15年には26百万円に減少
- ・生産量は7～10トンの範囲で推移し、比較的安定
- ・価格は、昭和60年～平成6年まで7千円/kg以上で推移していたが、平成12年以降5千円以下に下落
- ・バブル時代は「利島ブランド」として、独自の流通ルートで販売

□サザエ生産額の減

＜要 因＞ 資源の減少にともなう生産量の減

- ・昭和50年代、利島のサザエ資源は壊滅的な状況
- ・漁況と地元が一体になった資源管理の取り組みで平成7年以降安定した生産をあげられるようになり、平成13年には、最高の29トン、38百万円を生産
- ・平成13年の生産をピークにここ2年減少傾向

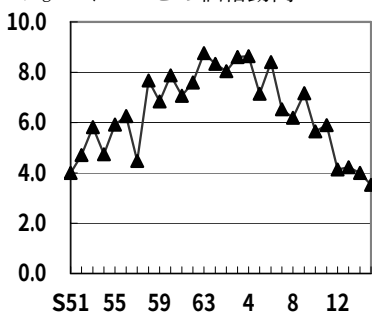
＜考えられる資源減少の要因＞

- ① 海洋環境の影響による加入量の減少      ② 餌料環境の悪化      ③ 食害 等

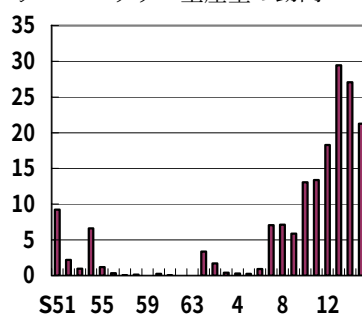
□変動の大きいトサカノリ生産

＜要 因＞ 市場価格の変動と海況変動

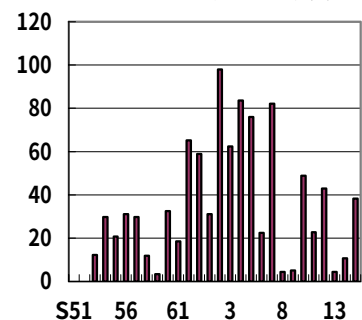
千円/kg イセエビの価格動向



トン サザエ生産量の動向



トン トサカノリ生産量の動向



## 漁業生産の安定化対策

### 島周りの魚類資源の活用

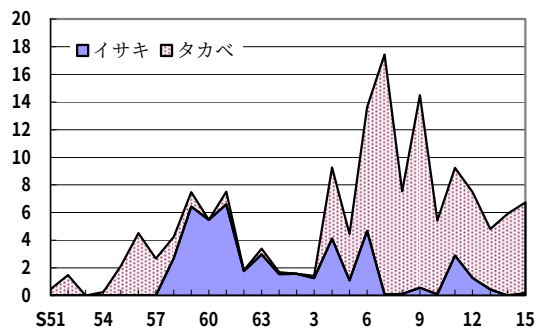
十分利用されていない島周りに生息する魚類資源（イサキ・タカベ）

#### 原因

- 磯根資源の主要3魚種に依存した漁業経営

島周りに生息する魚類を対象にした漁業の育成

百万円 イサキ・タカベ漁獲金額の推移



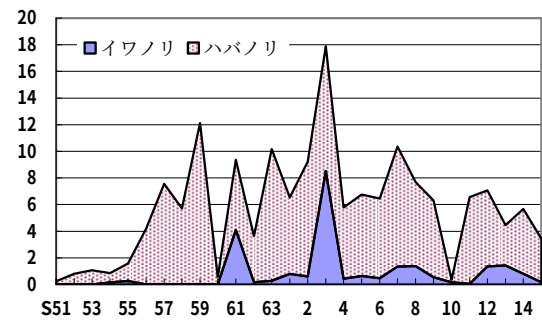
### 冬季の収入対策

#### 現状

- 気象条件の制約から冬場の操業が困難で不安定な漁業収入
- 12月～3月にかけて、島周りの磯の岩上にはハバノリと岩ノリが繁茂
- 現在、ハバノリは乾燥して伊豆方面へ出荷
- 新たな需要があれば、増産可能

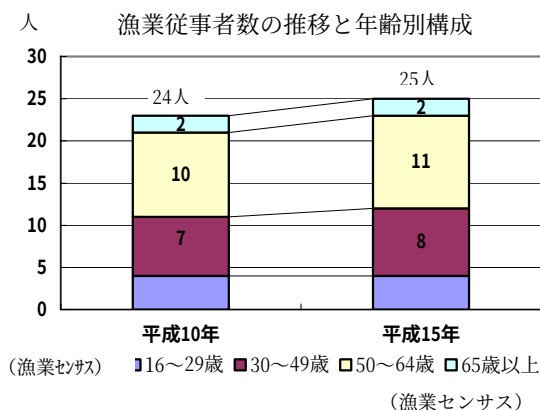
特産品開発による新たな需要の開拓

百万円 イワノリ・ハバノリ漁獲金額の推移



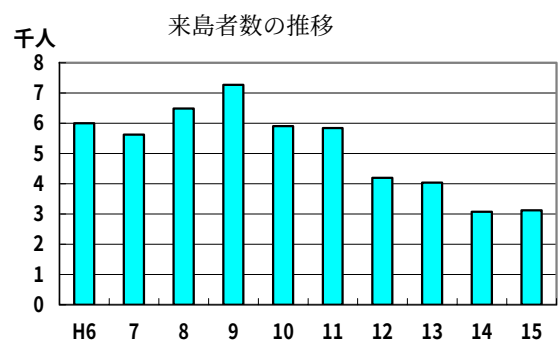
### 若い漁業従事者

- ・平成10年の24人から平成15年は1人増加して25人
- ・平成15年の30歳未満の若年労働者は4人で、全体の16%を占め、伊豆諸島で最も高い割合



### 減少傾向の来島者

- ・平成9年に来島者数7123人で最高を示した後、減少し、平成15年にはその4割の3122人
- ・高速船の就航で、冬期の就航率が悪化
- ・観光客は、殆どが釣客

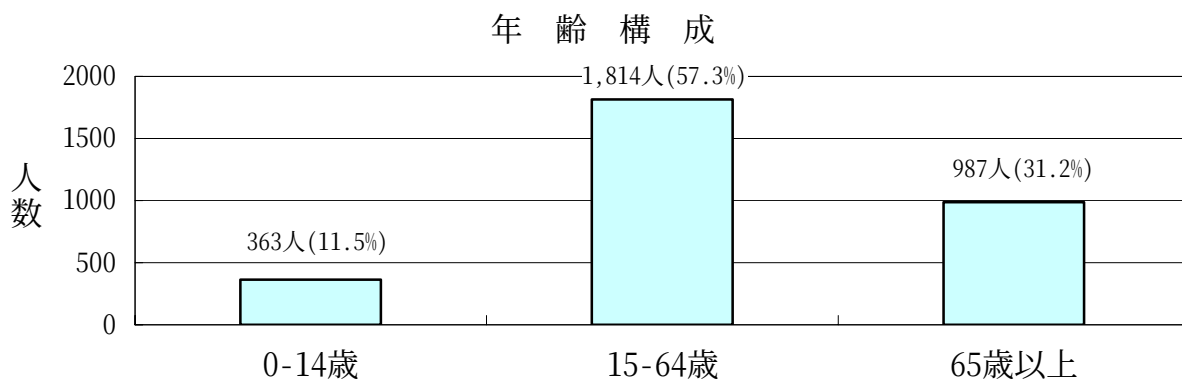


# 新 島 村 の 概 要

## 1. 人 口 等

| 人 口                        | 面 積                                                                    | 位 置                            |                              | 東京からの距離        |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------|----------------|
| 3, 164人<br>2, 580人<br>584人 | 27. 77km <sup>2</sup><br>23. 17km <sup>2</sup><br>3. 69km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 15 '<br>東経 139 ° 13 ' | 北緯 34 ° 22 '<br>北緯 34 ° 19 ' | 151Km<br>157km |

※欄中 上段：新島 下段：式根島



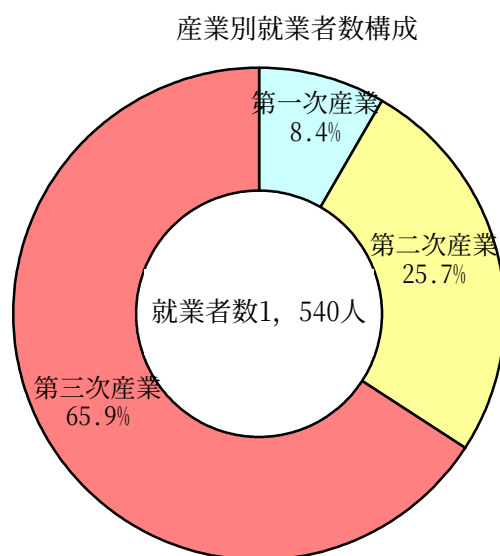
[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

新島村は、新島、式根島及びその無人の小島からなる。新島は、東京南方海上約150kmに位置し、北側の宮塚山、南側の向山の二つの火山群が接合した南北に細いひょうたん型の島である。流紋岩を主体に形成され、東側には白ママと呼ばれる海蝕崖が続いている。集落は、東西に開けた平地部と北部の海岸沿いの二つに分かれる。

式根島は、新島の南方約6kmの海上に浮かぶ台地状の島である。流紋岩を主体に形成され、出入りに富んだ白砂青松が美しい景観を形作っている。集落は東部に広がっている。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]



寄網内のタカベ



イセエビ



若郷漁港内で行われているアワビ養殖



レザーファン



観光農園もある  
「ふれあい農園」



式根島養殖場（シマアジ・マダイ）



サツマイモ

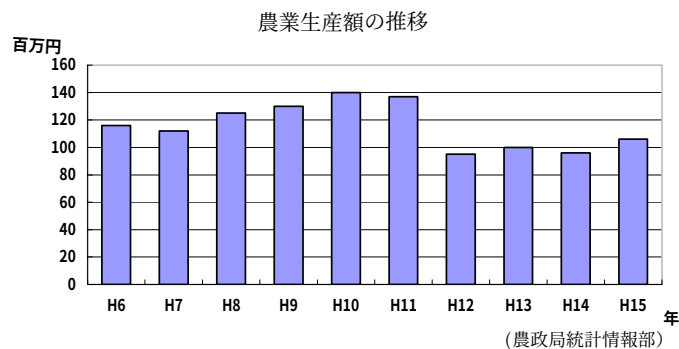


アシタバ

## 新島・式根島 農業の現状分析

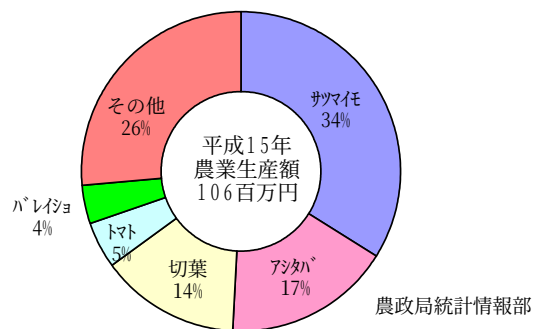
### 現状分析（１）

- ・農業生産額は平成12年以降低迷、近年は横ばいで推移



ここ数年の生産額の低迷は農家の高齢化や連作障害、台風被害によるところが大きい。  
また、シカによる農産物の被害がある。  
これらに対する抜本的な対策が必要。

農業生産額の内訳

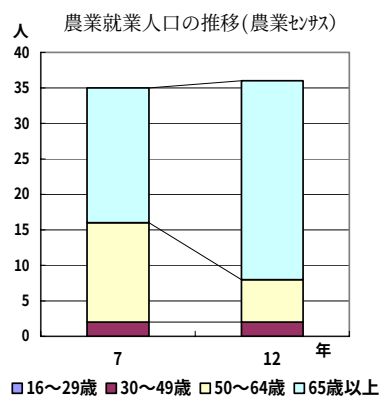


シカによる農作物被害状況（平成15年支庁調査）

| 被害作物名 | 被害面積<br>(a) | 被害量<br>(kg) | 被害金額<br>(千円) |
|-------|-------------|-------------|--------------|
| アジハ   | 2           | 160         | 141          |
| サツマイモ | 8           | 899         | 297          |
| スイカ   | 3           | 290         | 59           |
| メロン   | 1           | 285         | 90           |
| 4種類   | 14          | 1,635       | 587          |

### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、ほぼ横ばいで推移
- ・平成12年は、65歳以上の就農者の割合が78%で、高齢化が進行



平成12年農業就業人口(農業セクタ)

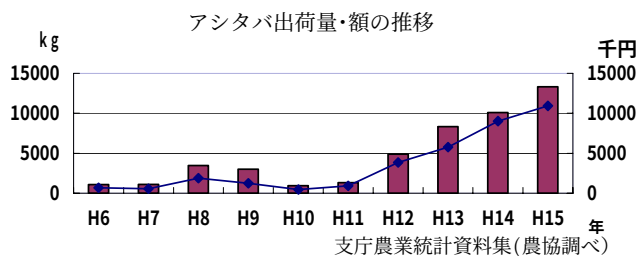
|        | 人数 | 割合 (%) |
|--------|----|--------|
| 16～29歳 | 0  | 0      |
| 30～49歳 | 2  | 6      |
| 50～64歳 | 6  | 17     |
| 65歳以上  | 28 | 78     |
| 計      | 36 | 100    |

65歳以上の高齢者の割合が増加している一因は、定年退職後に就農する農業者が増えているためである。  
(聞き取り調査)

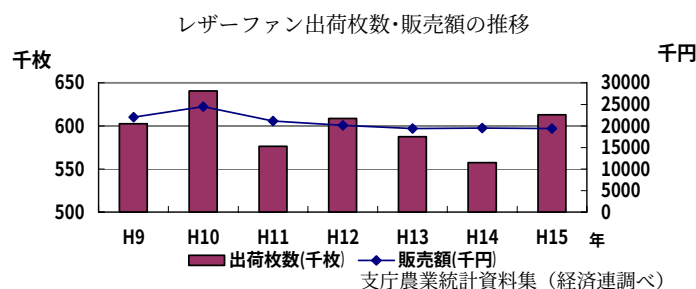


### 現状分析（３）

・今後も、アシタバ、切り葉（レザーファン）を主幹作目に振興



アシタバの生産はここ数年著しく伸びており、新規就農者が増加するとともに、遊休農地の活用が進んでいる。



レザーファンの販売金額はほぼ横ばいで推移している。  
しかし農家の高齢化や病害虫・連作障害（アザミウマ類、ホコリダニ、ネグサレセンチュウ）の発生、施設の老朽化等が問題となっている。  
レザーファンの生産向上をめざして、ストロングハウスの導入事業が進められている。

平成15年レザーファン生産量、額、単価

|      | 出荷量<br>(千枚) | 出荷額<br>(千円) | 単価<br>(円/枚) |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 神津島  | 2,348       | 90,753      | 38.7        |
| 八丈島  | 1,644       | 49,328      | 30.0        |
| 新島   | 620         | 18,438      | 29.7        |
| 鹿児島県 | 6,805       | 204,450     | 30.0        |
| 山口県  | 1,950       | 56,720      | 29.1 ※1     |
| 外国産  | 10,048      | 196,583     | 19.6 ※2     |

※1 神津島、八丈島、新島は経済連取扱分

※2 鹿児島県、山口県、外国産はH15東京中央卸売市場取扱高

### 現状分析（４）

・来島者、島民の新鮮な地場農畜産物需要に応える生産量確保が重要

他の島に比べ野菜の需給率が比較的高い。

—高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進—

農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 332.0  | -      | -      |
| サツマイ   | 4.5    | 5.1    | 111    | 2,176  |
| パレショ   | 24.9   | 28.3   | 46     | 163    |
| サトイ    | 20.7   | 23.5   | 25     | 106    |
| トマト    | 24.9   | 28.3   | 9      | 32     |
| ニンジン   | 17.3   | 19.6   | 1      | 5      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 17.6   | 4      | 23     |

H16人口 3,111 人

| 品 目  | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 25.0   | 36     | 144    |
| キュウリ | 11.1   | 12.6   | 7      | 56     |
| タマネギ | 36.9   | 41.9   | 16     | 38     |
| タマネギ | 27.7   | 31.5   | 7      | 22     |
| ハクサイ | 16.3   | 18.5   | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 114.0  | -      | -      |
| 卵    | 30     | 33.5   | 7      | 21     |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量=摂取量×365日×人口

※3 生産量はH15農林水産統計年報(農政局統計情報部)より、但し畜産物は独自調査

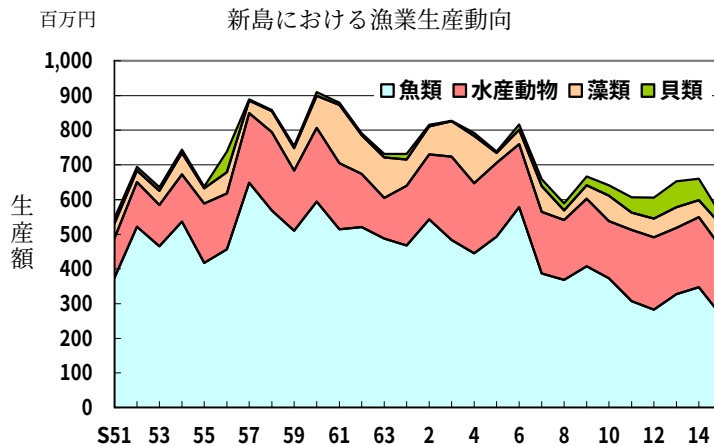
※4 自給率=生産量÷需要量



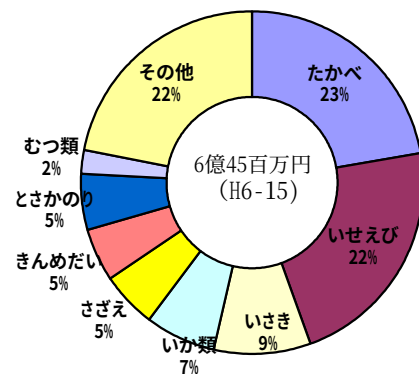
## 新島・式根島 水産業の現状分析

### 最近、減少傾向の大きい魚類漁業生産

- 昭和60年9億円、昭和53年911トン水揚げした漁業生産は、最近、6億円、600トンで停滞
- タカベ・イサキなどの魚類漁業生産は、最高を記録した昭和60年5億94百万円から平成15年にはその45%の2億65百万円に激減
- タカベ・イセエビが全漁獲金額の45%を占め、特定魚種への依存度が高い漁業形態



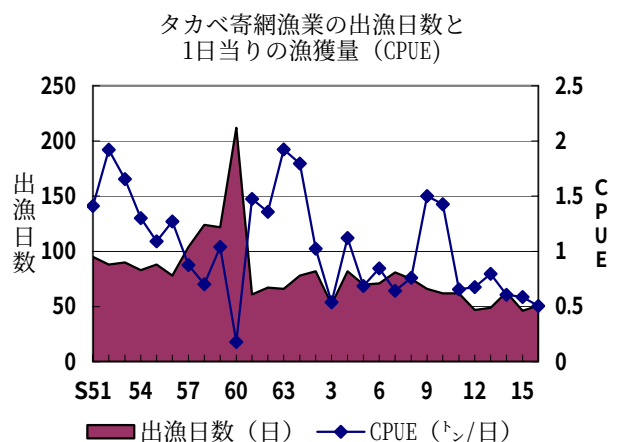
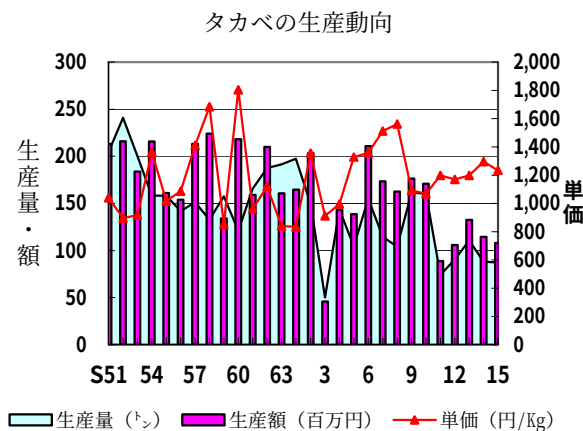
最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



#### 考えられる要因

- 生産量は、昭和50年代初め、200トン以上水揚げしていたが、平成15年には87トンに減少
- 生産額は平成6年の2億11百万円から近年1億円前後に減少
- 単価は、1000から1500円/Kgの範囲で変動

- 寄網出漁日数の減少
  - ・80日前後あったが、最近50日前後に減少
  - ・高齢化等による漁業従事者の減少
- 資源の減少
  - ・海洋環境の影響を受けて1.0～2.0トン/日の間で大きく変動していたCPUEは、最近、0.5から1.0トン/日に減少



CPUE: 単位努力量当たりの漁獲量

## 近年、増加傾向であったサザエ・キンメダイも減少傾向

□サザエは、平成14年62トン、57百万円水揚げしたが、平成15年には39トン、27百万円に減少

□キンメダイは、平成10年から14年にかけて50トン前後で推移していたが、平成15年には25トン、22百万円に減少

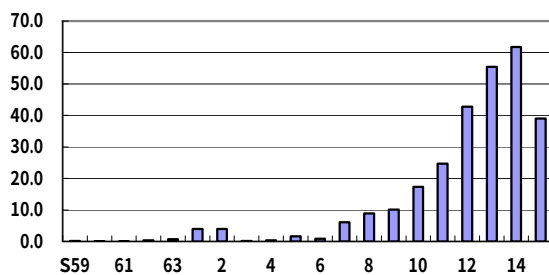
### サザエ減少要因

自然変動

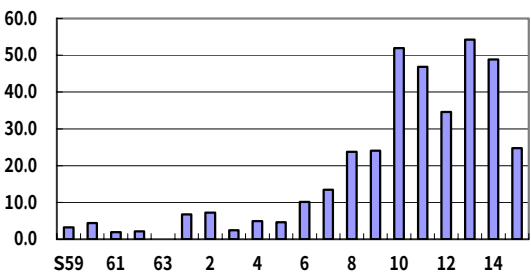
### キンメダイ減少要因

- ①海況変動
- ②乱獲

トン 新島におけるサザエの漁獲量推移



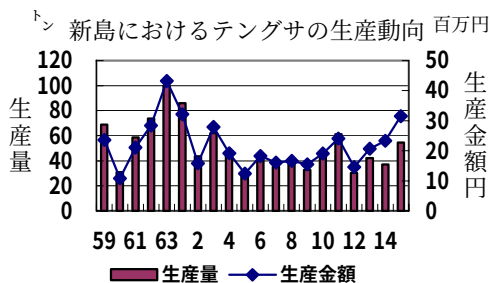
トン 新島におけるキンメダイの漁獲量推移



## 比較的安定した生産をあげている海藻類

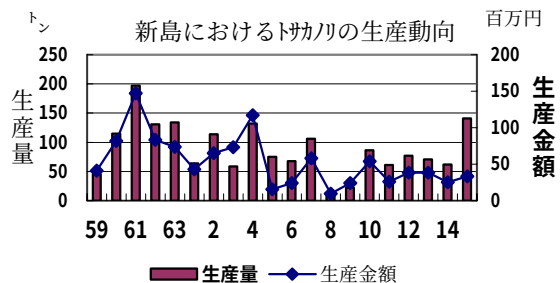
□テングサの生産量は、50トン、20百万円前後で比較的安定

□平成12年以降、価格の高騰で生産額は上昇



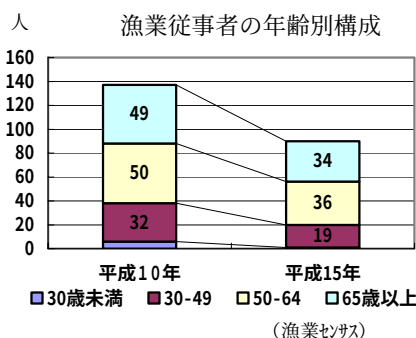
□トサカノリ生産量は、昭和61年には197トン、147百万円を水揚げ

□生産の年変動は大きいですが、近年、安定した生産



### 漁業従事者は5年前の6割

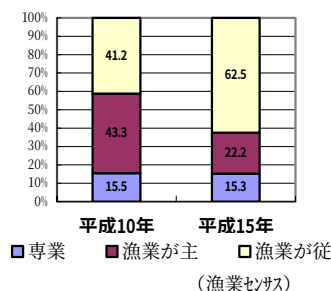
- ・平成15年は平成10年から47人減少し90人
- ・65歳以上の高齢者が約4割で高齢化進行



### 専兼別経営体

- ・経営体は97経営体から72経営体に減
- ・漁業が主の兼業者の減少が大

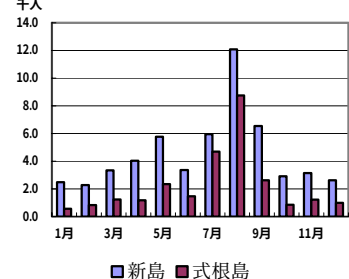
漁業経営体の専・兼別構成



### 夏季集中型の来島者

- ・年間8万人前後が来島。新島:式根島の割合は6:4。年間の25%は8月に集中

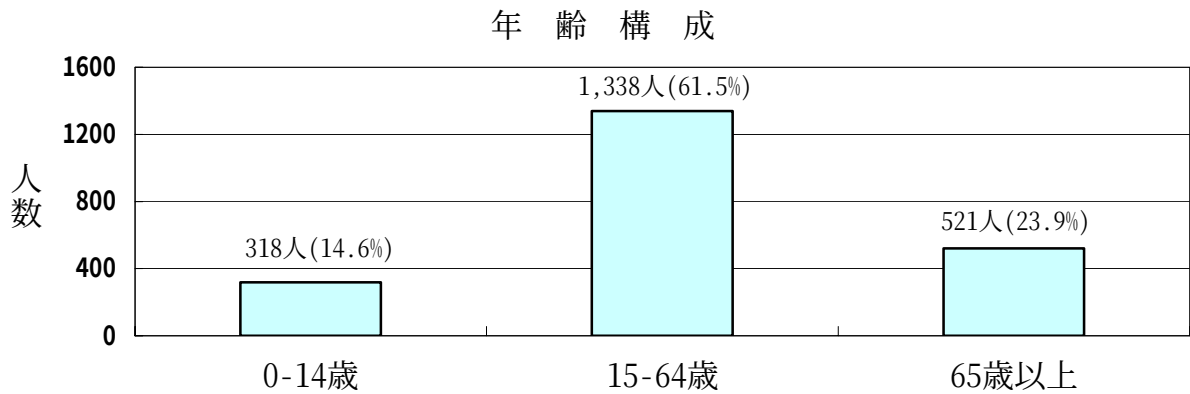
平成16年の月別来島者数



# 神 津 島 村 の 概 要

## 1. 人 口 等

| 人 口     | 面 積                   | 位 置           |              | 東京からの距離 |
|---------|-----------------------|---------------|--------------|---------|
| 2, 177人 | 18. 87km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 08 ' | 北緯 34 ° 12 ' | 172km   |

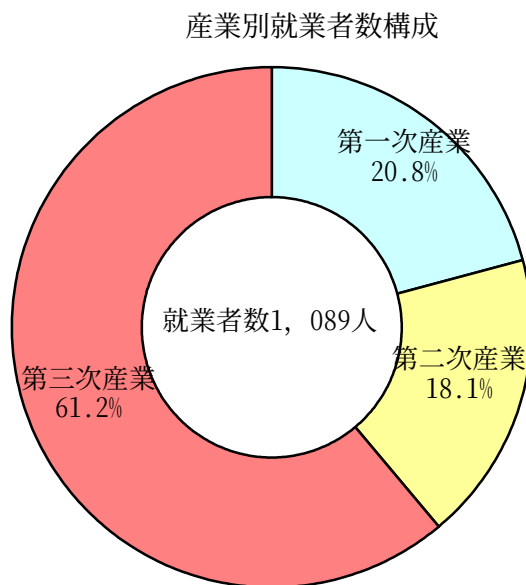


[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南方海上約170Kmにあって、伊豆諸島のほぼ中間に位置し、新宿区とほぼ同じ面積の島である。中央に天上山が聳え、それより南へ高処山・秩父山と連なっており、らくだの背状の形をしている。島全体が峻険で平地に乏しく、特に東側は断崖絶壁となって海に落ちこんでいる。流紋岩を主体に形成され、深く入り組んだ海岸線と白砂青松が美しい景観を形づくっている。集落は、西側海岸の神津沢沿いに集中している。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]



イセエビ



レザーファン



共同植え付け作業



アシタバ畑



水産物直売所  
「よっちゃんれセンター」



前浜港で水揚げ作業中の漁船



土砂流入被害にあった  
観音浦漁場

タダナエ島



計量中の漁獲物



操業中の建切網



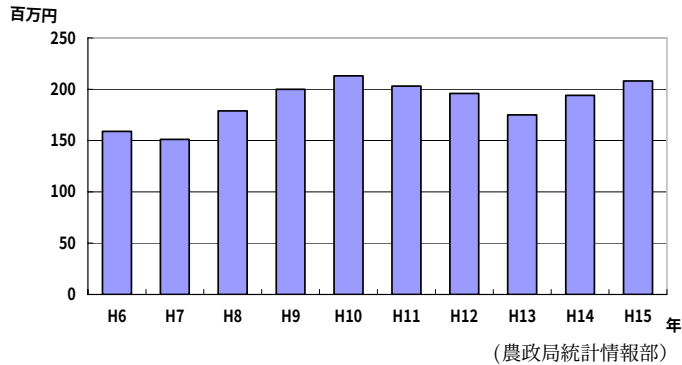
水揚げされたケンサキイカ

## 神津島 農業の現状分析

### 現状分析（１）

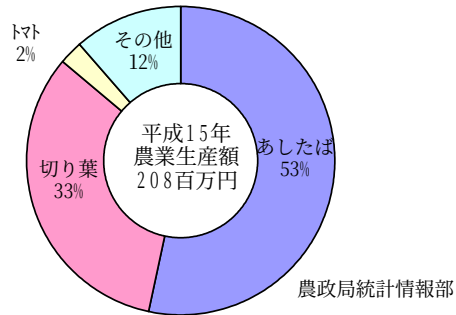
- ・農業生産額は堅調に推移、そのうちアシタバとレザーファンで８割を占める。

農業生産額の推移



生産額は堅調に推移しているが、レザーファン生産者の高齢化や、価格維持のための出荷調整がおこなわれている。今後は、レザーファンからアシタバの比率が高まって行くと予測される。他の島に比べ野菜類の生産額が割合が大きいのが特徴である。

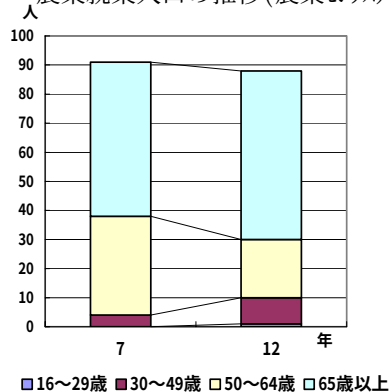
農産物生産額の内訳



### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、ほぼ横ばいで推移
- ・平成12年は、65歳以上の就農者の割合が66%

農業就業人口の推移(農業センサス)



平成12年農業就業人口(農業センサス)

|        | 人数 | 割合 (%) |
|--------|----|--------|
| 16~29歳 | 1  | 1      |
| 30~49歳 | 9  | 10     |
| 50~64歳 | 20 | 23     |
| 65歳以上  | 58 | 66     |
| 計      | 88 | 100    |

男女内訳

|        | 男子 | 女子 |
|--------|----|----|
| 16~29歳 | 1  | 0  |
| 30~49歳 | 3  | 6  |
| 50~64歳 | 6  | 14 |
| 65歳以上  | 24 | 34 |
| 計      | 34 | 54 |

農業就業者の高齢化が進んでいる。生産現場では、女性が主体的な役割を担っている。

- ・神津島花き園芸振興会  
設立：1995年4月11日  
加入戸数：23戸  
主要作目：レザーファン  
代表者：出川泰治

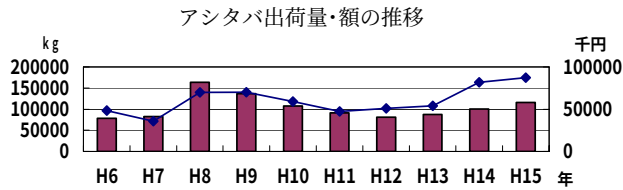
・神津島花き園芸振興組合の会員は24名で構成されている。そのうち、18名（8割）が女性である。これら会員が、神津島のレザーファン生産を支えている。

・経営構造対策事業推進資料（H16）東京都農業会議（ふるさと東京むらづくり塾）によると、神津島村農業が、他の島と大きく異なる点は女性が大きな役割を果たしていることと報告している。



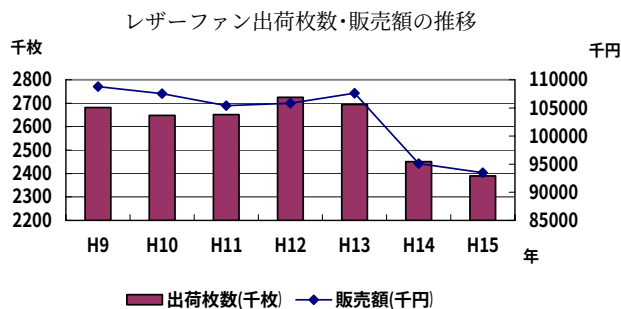
### 現状分析（3）

・アシタバ、レザーファンを基幹作物に振興



アシタバの出荷量は平成12年を底に、増加に転じている。  
生産者の高齢化対策として、農作業の比較的に楽なアシタバの生産拡大が期待される。

※支庁農業統計資料集(経済連調べ)



神津島のレザーファン単価は、全国的に見ても高い。  
しかしながら、生産者の高齢化等により近年生産量が減少している。

※支庁農業統計資料集(経済連調べ)

平成15年レザーファン出荷量・額・単価

|      | 出荷量<br>(千枚) | 出荷額<br>(千円) | 単価<br>(円/枚) |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 神津島  | 2,348       | 90,753      | 38.7        |
| 八丈島  | 1,644       | 49,328      | 30.0        |
| 新島   | 620         | 18,438      | 29.7        |
| 鹿児島県 | 6,805       | 204,450     | 30.0        |
| 山口県  | 1,950       | 56,720      | 29.1        |
| 外国産  | 10,048      | 196,583     | 19.6        |

※1 神津島、八丈島、新島は経済連取扱分

※2 鹿児島県、山口県、外国産はH15東京中央卸売市場取扱分

### 現状分析（4）

・来島者、島民の新鮮な地場農畜産物需要に応える生産量確保が重

他の島に比べ野菜の自給率が比較的高い。

ー高齢者・女性等を活用して、島内消費用農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進ー

農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 228.8  | -      | -      |
| サツマイ   | 4.5    | 3.5    | 13     | 371    |
| パレショ   | 24.9   | 19.5   | 17     | 87     |
| サトイ    | 20.7   | 16.2   | 8      | 49     |
| トマト    | 24.9   | 19.5   | 9      | 46     |
| ニンジン   | 17.3   | 13.5   | 0      | 0      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 12.1   | 3      | 25     |

H16人口 2,144 人

| 品 目  | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 17.2   | 26     | 151    |
| キュウリ | 11.1   | 8.7    | 5      | 57     |
| ダイコン | 36.9   | 28.9   | 2      | 7      |
| タマネギ | 27.7   | 21.7   | 4      | 18     |
| ハウサイ | 16.3   | 12.8   | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 78.6   | -      | -      |
| 卵    | 30     | 23.1   | 6      | 26     |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量=摂取量×365日×人口

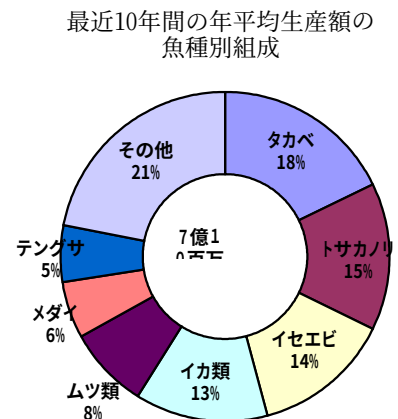
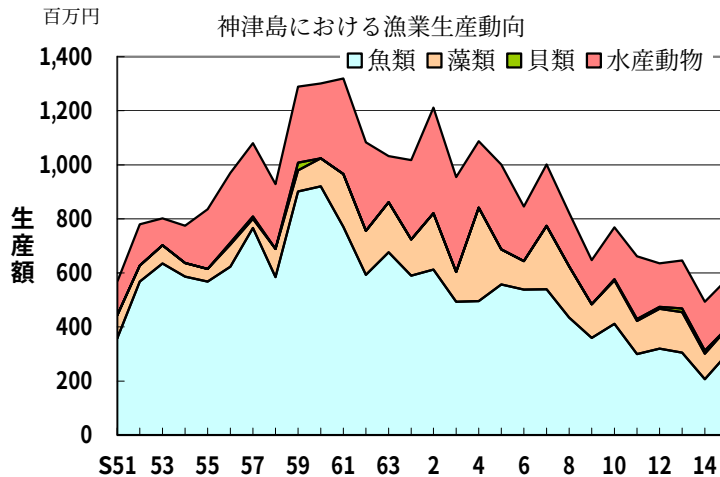
※3 生産量はH15農林水産統計年報(農政局統計情報部)より、但し畜産物は独自調査

※4 自給率=生産量÷需要量

## 神津島 水産業の現状分析

### ピーク時の1/3に減少した魚類漁業生産

- 生産額は昭和60年に13億2百万円の最高を示した後、減少し、平成8年以降は10億円を割り、平成15年には5億78百万円まで減少
- 魚類生産額の減少が大きく、昭和59、60年には9億円以上生産したが、近年、3億円台に激減
- イカ類等の水産動物の減少も大きく、昭和61年から平成5年には3億円以上を生産したが、近年、1億円台に減少



### 魚類漁業生産減少要因

- 回遊魚のカジキ生産額の減少

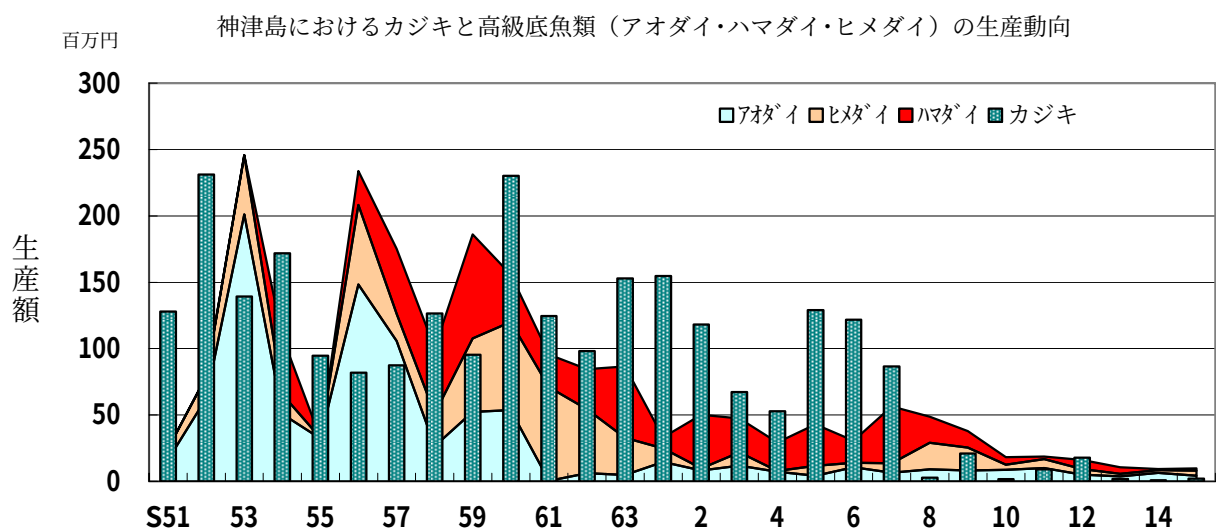
考えられる原因

来遊資源量の減少による生産量の減少

- 高級底魚類のアオダイ・ハマダイ・ヒメダイ生産額の減少

考えられる原因

乱獲による資源の減少

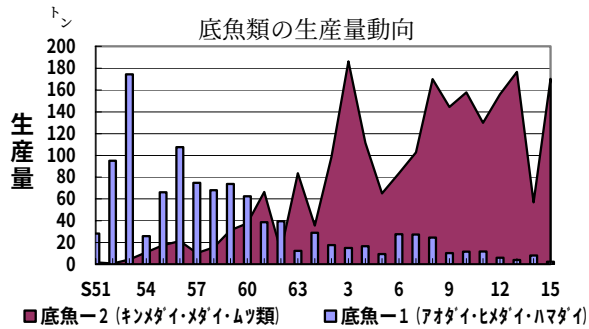




一部の魚種では、生産量・生産額が増加

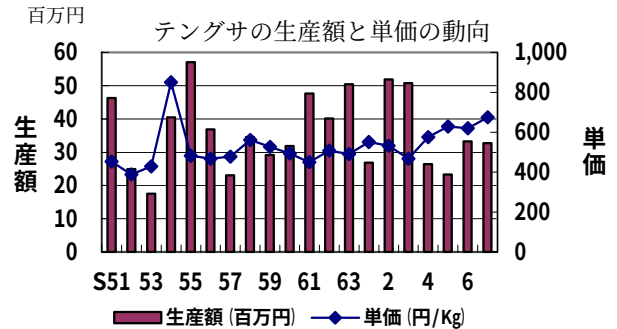
### 魚種交代している底魚類

- 高級底魚のアサギ・ヒメダ・ハマダは激減
- キンメダイ・メダイ・ムツ類は大幅に増加



### 単価・生産額上昇傾向のテングサ

- 30～40百万円前後で比較的安定しているテングサの生産額
- 近年、価格の上昇で生産額は上昇傾向



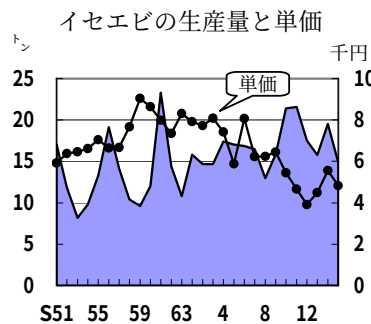
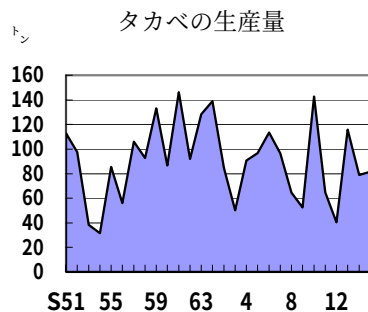
### 変動幅が大きく不安定な生産の主要魚種

- 年変動の大きいタカベ漁業生産
- 価格下落傾向のイセエビ漁業生産
- 不安定なイカ類の漁業生産

要因 → 海況変動

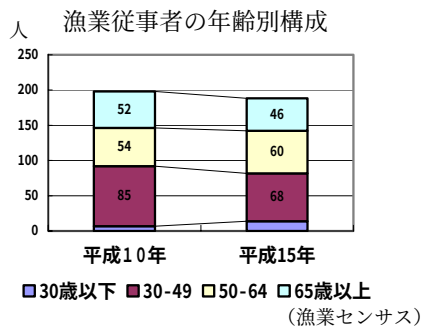
要因 → 景気低迷と輸入水産物増加

要因 → 海況変動に左右される



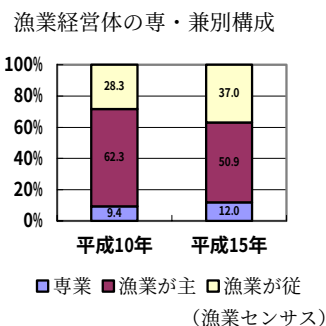
### 構成比の高い30～50歳台

- ・30-50歳の働き盛りの従事者が68人で、全漁業従事者の36%を占める



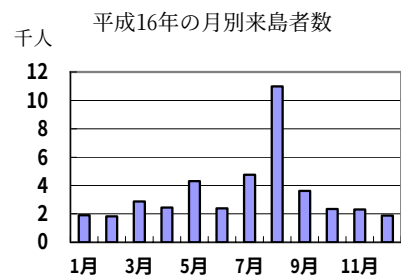
### 専業別経営体

- ・平成10年が106経営体、平成15年が108経営体で2経営体増
- ・漁業が主体の兼業者が中心



### 夏季集中型の来島者

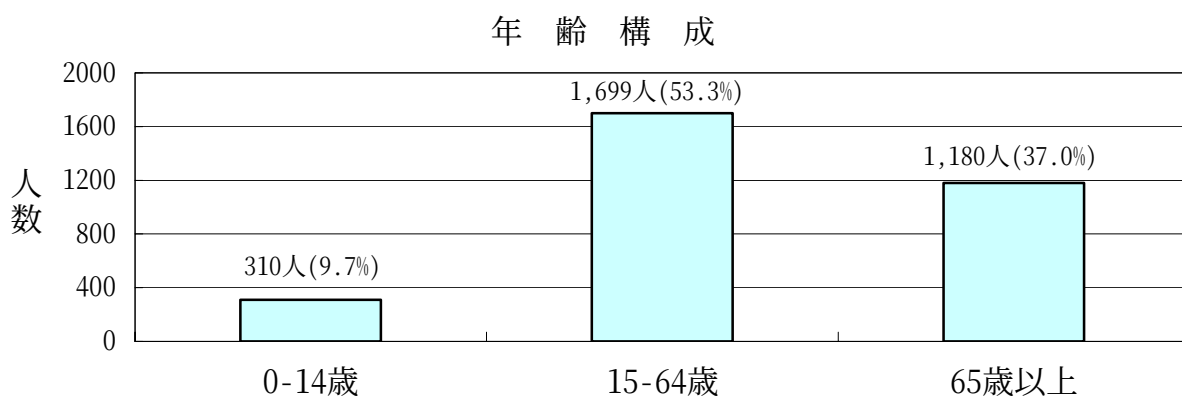
- ・年間4万人前後が来島
- ・年間の25%は8月に集中



# 三宅村の概要

## 1. 人口等

| 人口      | 面積                    | 位置            |              | 東京からの距離 |
|---------|-----------------------|---------------|--------------|---------|
| 3, 225人 | 55. 50km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 33 ' | 北緯 34 ° 04 ' | 179km   |

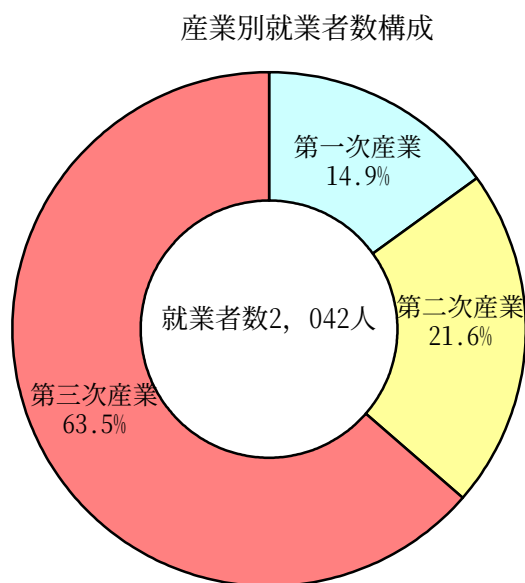


[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南南西海上約180kmに位置するほぼ円形の島である。玄武岩を主体に形成され、島の中央にある複式火山の雄山が海岸線まで美しい裾野を広げているが、海岸はほとんどが断崖で湾入に乏しい。山腹には、多数の爆発火口を残し、随所で噴火による特殊な景観がみられる。集落は、海岸ぞいに点在し、それらを都道三宅循環線が結んでいる。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]



キンメダイの水揚げ



アシタバ



最高品質のオオブサ



水産物直売所  
「いきいきお魚センター」



タカベの群れ



アシタバ農地

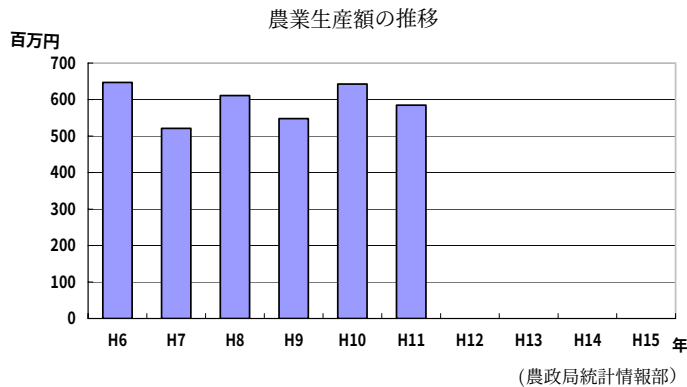


テングサ干し風景（噴火前）

## 三宅島 農業の現状分析

### 現状分析（１）

・雄山噴火により、平成12年9月から平成17年2月まで、全島民が島外避難。この影響で、平成12年下半期以降、農業生産なし



平成17年2月の避難解除で、島民の帰島が開始された。4年半の島外避難期間に、農地は降灰や雑草や竹・笹類の繁茂により、荒廃した。  
村では、農地災害復旧事業を進めている（国、都補助）。  
農業の本格的な生産再開は、平成18年度以降になる見込み。

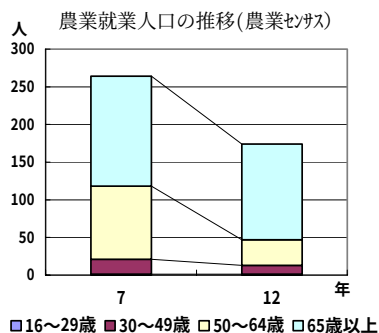
### 【農地災害復旧事業の概要】

全農家戸数：697戸（H12）  
全農地面積：274ha（"）  
営農再開希望農家戸数：420戸（全農家の60%）  
災害査定申請戸数：320戸（再開希望農家の76%）

事業実施期間：平成17年度  
事業量：農地692箇所、面積160ha（復旧面積63.98ha）  
事業内容：①草竹除去、②降灰除去、③土壌改良（堆肥、燐酸・石灰資材の投入）

### 現状分析（２）

・農業就業人口は、平成7年264人から平成12年174人に減少  
・平成12年は、30歳未満の若年労働者の割合が1%



平成12年農業就業人口(農業セクタ)

|        | 人数  | 割合(%) |
|--------|-----|-------|
| 16～29歳 | 1   | 1     |
| 30～49歳 | 12  | 7     |
| 50～64歳 | 34  | 20    |
| 65歳以上  | 127 | 73    |
| 計      | 174 | 100   |

平成17年2月の避難解除後、帰島した島民の中には、村の災害復旧事業を待たず自力開墾により農業を再開した農業者も多数いる。  
火山ガス高濃度地区以外で、短期間で収穫できる作物（サトイモ、アシタバ）の作付けが進んでいる。

### 【帰島世帯確認訪問調査結果(三宅村)の概要】

調査期間：平成17年5月9日から10日の2日間

調査方法：村職員2名1組24班体制による各戸訪問調査世帯（者）  
（2月1日以降の転入世帯（者）は除く。）

調査対象：調査時点において帰島し、生活を再開している

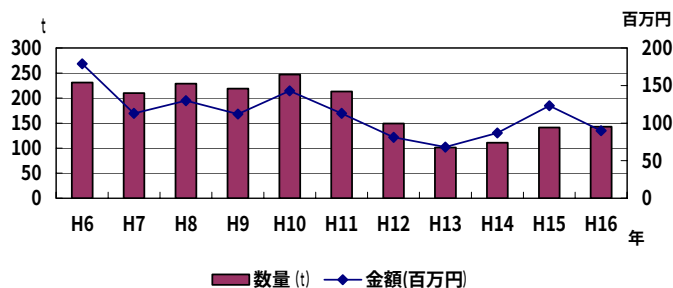
調査結果：帰島世帯数：969世帯（うち就労 513世帯(52.9%))  
帰島人数：1,668人（うち就労 682人(40.9%))

その他： 転入(17.2.1～5.10) 215世帯 人数 260人  
在住（帰島+転入） 1,184世帯 人数 1,928人

### 現状分析（３）

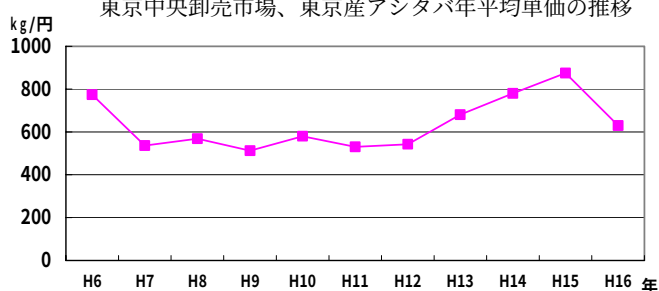
- ・当面は、火山ガスに強く短期間で収穫・収入になるアシタバと三宅特産サトイモ(赤芽イモ)の生産振興
- ・火山ガスに強い作目に関する実証試験を通して、将来の基幹作目を選定

東京中央卸売市場、東京産アシタバの推移



平成12年、13年と生産量が減少したのは、三宅島の全島避難で三宅からの出荷がなくなったため。その後、他の島の生産が増加した。

東京中央卸売市場、東京産アシタバ年平均単価の推移

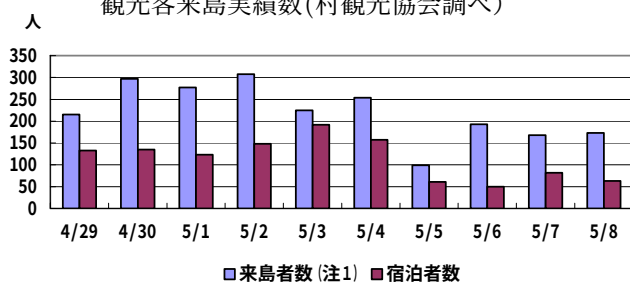


平成12年から15年まで単価は上昇したが、平成16年に下落に転じた。東京市場における東京産のシェアは98% (H16)であることから、三宅島の生産の動向いかんで、価格が低迷すること考えられる。このため、加工品の開発や他の市場への出荷等、需要の掘り起こしや販路拡大が重要であると思われる。

### 現状分析（４）

- ・来島者、島民の新鮮な地場農畜産物需要に応える生産量確保が重要

観光客来島実績数(村観光協会調べ)



4/29～5/8の合計

|           |         |
|-----------|---------|
| 来島者数 (注1) | 2,209 人 |
| 宿泊者数      | 1,144 人 |

注1 来島者数とは、東海汽船利用者数である。

一高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進一

農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 206    | -      | -      |
| サツマイモ  | 4.5    | 3      | -      | -      |
| ハレシヨ   | 24.9   | 18     | -      | -      |
| サトイモ   | 20.7   | 15     | -      | -      |
| トマト    | 24.9   | 18     | -      | -      |
| ニンジン   | 17.3   | 12     | -      | -      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 11     | -      | -      |

H16人口 1,928 人

| 品 目  | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 16     | -      | -      |
| キュウリ | 11.1   | 8      | -      | -      |
| ダイコン | 36.9   | 26     | -      | -      |
| タマネギ | 27.7   | 20     | -      | -      |
| ハクサイ | 16.3   | 12     | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 71     | -      | -      |
| 卵    | 30     | 21     | -      | -      |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量 (H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15))

※2 需要量=摂取量×365日×人口

※3 生産量は未記入 (今後の生産に期待)

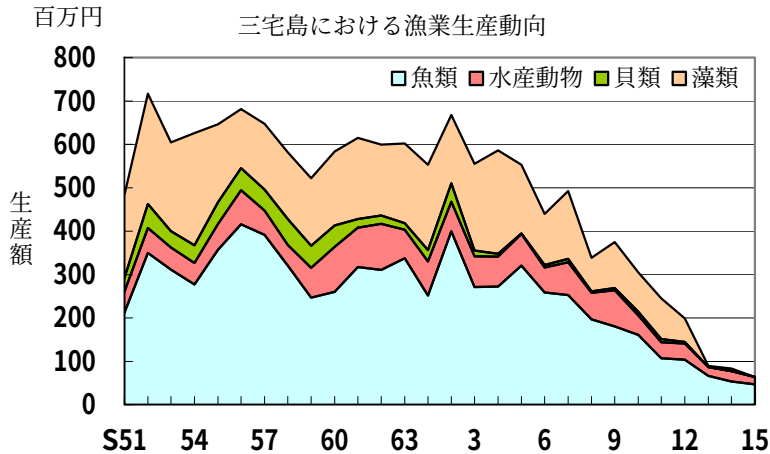
※4 自給率=生産量÷需要量

## 三宅島 水産業の現状分析

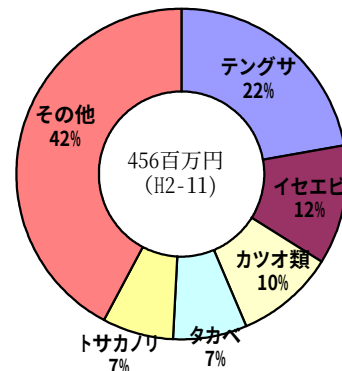
6億円前後で安定していた生産額は、最近10年、直線的に減少

□平成5年まで5億円以上を生産していたが、その後減少し、噴火避難前の平成11年には2億45百万

□テングサ・イセエビ・カツオ類・タカベの4魚種で全生産額の5割以上



最近10年間の年平均生産額の魚種別割合



□魚類生産額の減少（10年前の3割弱）

⇒ トビウオ・ムロアジ・カジキ等の回遊性魚類の生産量が減少

原因

⇒ 海況変動

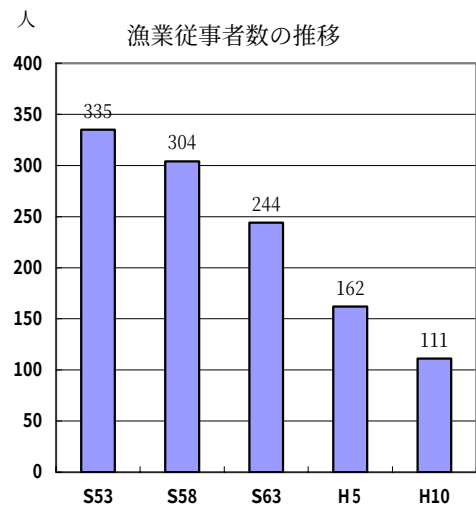
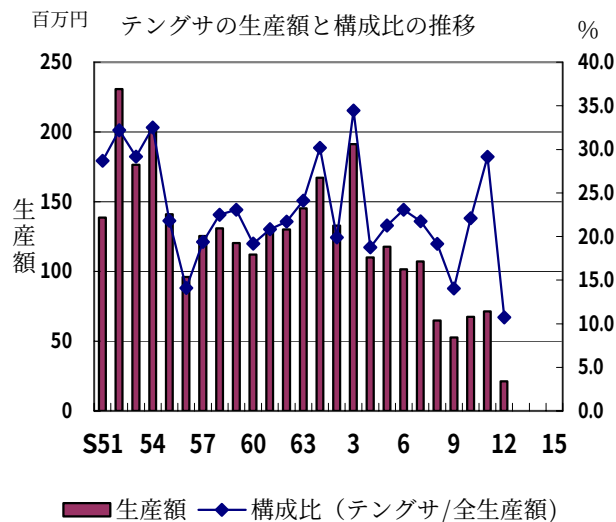
□海藻類生産額の減少（10年前の6割）

⇒ 海藻類生産額の7割以上を占めるテングサ生産量の減少

原因

⇒ 漁業従事者の高齢化等による減少

20年間で約7割減少（224人減）

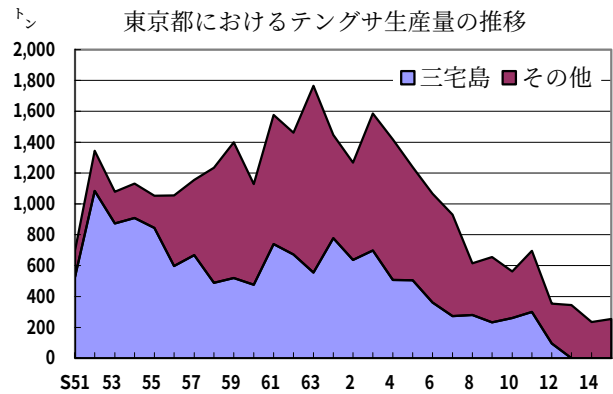
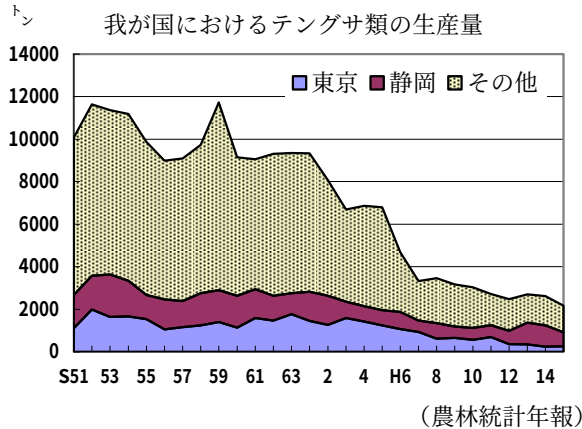


（漁業センサス）



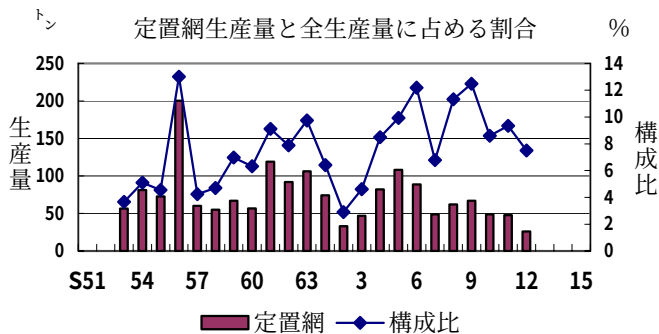
## かつて全国一の生産量を誇った東京のテングサ

- 我が国全体で1万トン以上生産していたが、近年、全国的に激減
- 東京都は、昭和61年から平成11年にかけて全国の20%前後を生産し、日本一の生産地。その後減少し、平成15年は12%で静岡に次いで2位
- 三宅島は、昭和50年代初めには東京全体の80%以上を占めていたが、その後、他地域での生産量の増、三宅島の生産減でその割合は減少

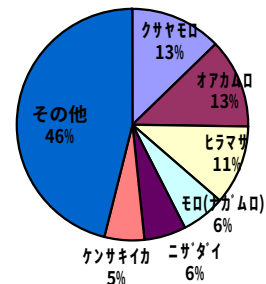


## 生産量の1割前後を占めていた定置網

- 阿古沖と伊ヶ谷沖の2箇所に設置され、昭和53年から稼動
- 50～100トンの間で平均した生産量
- ムロアジ類が主体。漁獲される種類数が多いのも三宅島定置の特徴

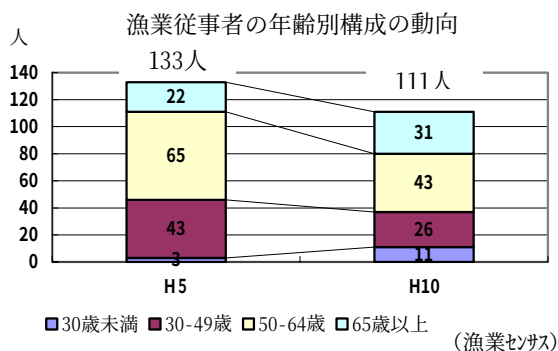


三宅島の定置網で漁獲される主要魚種の割合

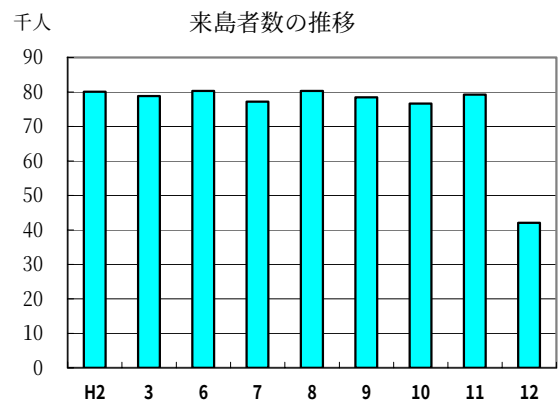


## 漁業従事者の減少と高齢化

- ・65歳以上が約30%を占め、高齢化が進む
- ・30歳未満の若年労働者は平成5年の3人から平成10年には11人に増加



## 噴火前まで年間8万人前後で安定していた来島者

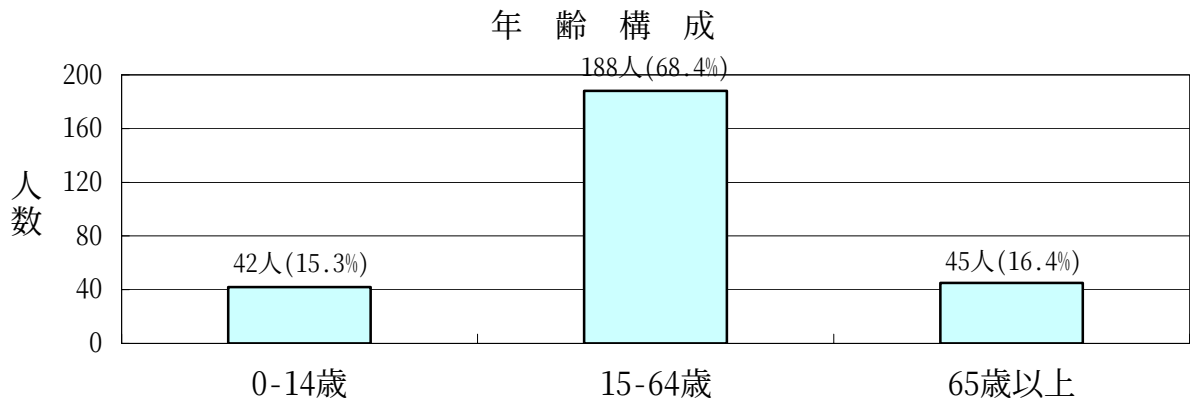




# 御 蔵 島 村 の 概 要

## 1. 人 口 等

| 人 口  | 面 積                   | 位 置           |              | 東京からの距離 |
|------|-----------------------|---------------|--------------|---------|
| 277人 | 20. 58km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 35 ' | 北緯 33 ° 53 ' | 199km   |

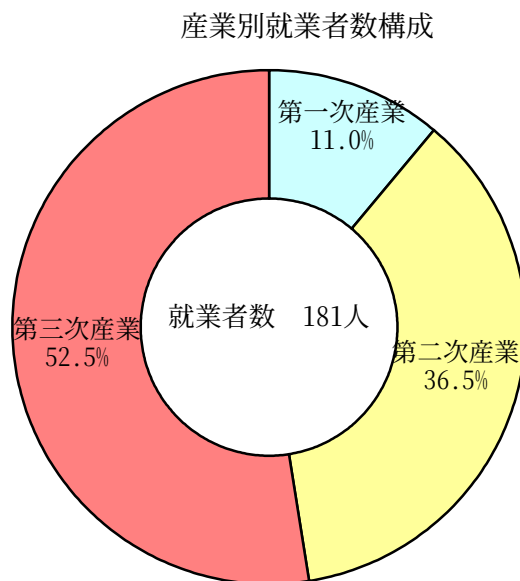


[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南方海上約200Kmに位置し、ほぼ円形をなした鐘状の島である。御山を中心に島全体が一つの山岳の様相を呈し、海岸は海食のため直立した断崖が多く雄大な景観をなしている。湾入部はない。地質は安山岩と溶岩の互層で、集落は、北西部の海岸沿い上に集中している。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]



イセエビ



イルカウォッチング



ツゲ



御蔵島自慢の長軸アシタバ

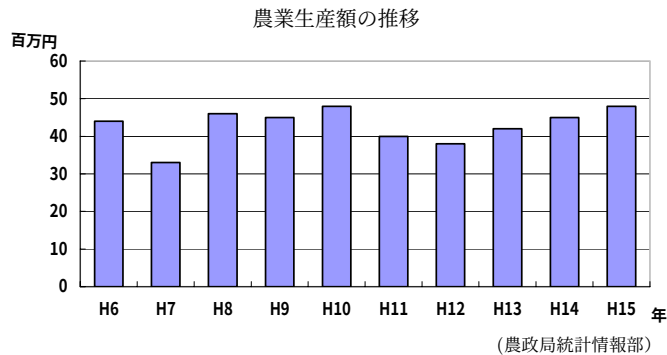


タカベの群れ

## 御蔵島 農業の現状分析

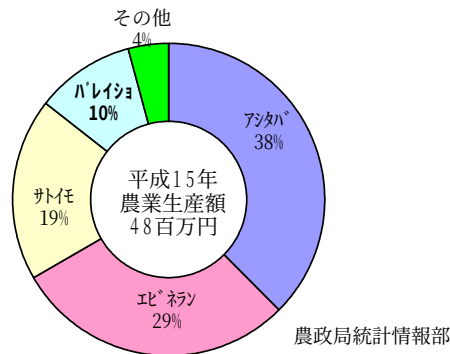
### 現状分析（１）

- ・農業生産額は近年増加傾向で、アシタバ、エビネランで全体の全体の約７割を占める



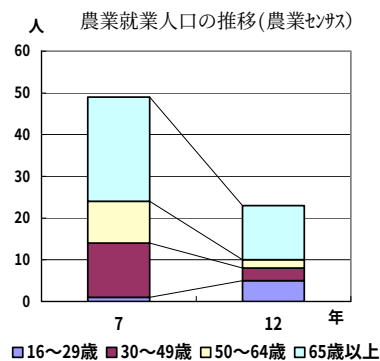
御蔵島農業生産物は、島外出荷のアシタバ、エビネランと島内消費のイモ類が主体である。  
最近ではアシタバの生産が伸びている。  
切枝は、シキミやヒサカキ等である。  
他に、自生のツゲ材の林産加工品や天然水（ペットボトル）等がある。

### 農産物生産額の内訳



### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、平成7年49人から平成12年23人に減少
- ・平成12年は、30歳未満の若年労働者の割合が22%



### 平成12年農業就業人口(農業ヒヤス)

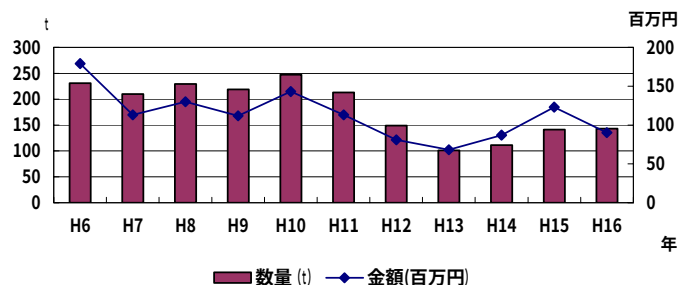
|        | 人数 | 割合(%) |
|--------|----|-------|
| 16～29歳 | 5  | 22    |
| 30～49歳 | 3  | 13    |
| 50～64歳 | 2  | 9     |
| 65歳以上  | 13 | 57    |
| 計      | 23 | 100   |

伊豆諸島の他の島に比べ、若年労働者の割合が高い。  
しかし一戸当りの農地面積は33aと狭く、兼業農家が総農家46戸のうち42戸（91%）とほとんどを占める。

### 現状分析（3）

- ・アシタバの通年出荷をベースに、付加価値のある「長軸あしたば」を出荷し生産拡大

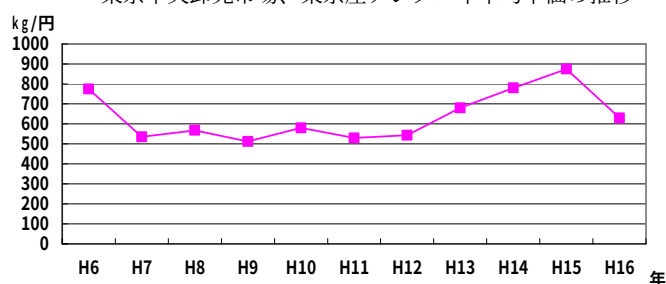
東京中央卸売市場、東京産アシタバの推移



平成12年、13年と生産量が減少したのは三宅島の全島避難で三宅からの出荷がなくなったためである。  
その後、他の島の生産が増加した。

平成12年から15年まで単価は上昇したが、平成16年に下落に転じた。東京市場における東京産のシェアは98%（H16）であることから、三宅島の生産の動向いかんで、価格が低迷することも想定される。  
御蔵島は、「長軸あしたば」という他の島とは違う特徴のあるアシタバで販売展開し、差別化を図っている。

東京中央卸売市場、東京産アシタバ年平均単価の推移



### 現状分析（4）

- ・来島者、島民の新鮮な地場農畜産物需要に応える生産量確保が重要

御蔵島の宿泊施設、商店等の概要

|      | 軒数 | 定員(人) |
|------|----|-------|
| 民宿   | 7  | 81    |
| 村営   | 2  | 50    |
| 小計   | 9  | 131   |
| 商店   | 1  |       |
| 土産物店 | 1  |       |
| 食堂   | 1  |       |
| 農漁協  | 1  |       |

※村役場資料

御蔵島の来島者数は年間約7千人である。主な目的は、イルカ・ウォッチング、釣り、山野散策で、島の自然環境に魅せられたリピーターが多いのが特徴である。  
これら来島者に対して、島の土、水、光で育った農畜産物や島周りで採れた魚貝類を食材に料理提供することが、何よりのもてなしである。

－高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進－

農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品目     | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 28.9   | -      | -      |
| サツマイモ  | 4.5    | 0.4    | 0      | 0      |
| ハレシヨ   | 24.9   | 2.5    | 30     | 1,200  |
| サトイモ   | 20.7   | 2.0    | 17     | 850    |
| トマト    | 24.9   | 2.5    | 0      | 0      |
| ニンジン   | 17.3   | 1.7    | -      | -      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 1.5    | -      | -      |

| 品目   | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 2.2    | -      | -      |
| キュウリ | 11.1   | 1.1    | 1      | 91     |
| タマネギ | 36.9   | 3.6    | 2      | 56     |
| タマねぎ | 27.7   | 2.7    | -      | -      |
| ハクサイ | 16.3   | 1.6    | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 9.9    | -      | -      |
| 卵    | 30     | 2.9    | 1      | 34     |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量＝摂取量×365日×人口

※3 生産量はH15農林水産統計年報（農政局統計情報部）より、但し畜産物は独自調査

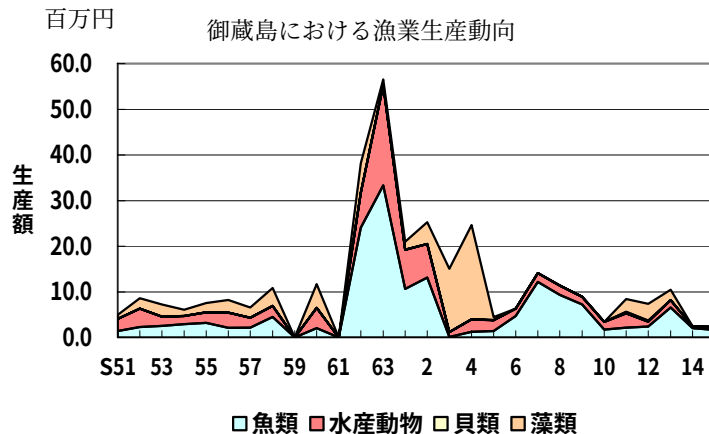
※4 自給率＝生産量÷需要量

## 御蔵島 水産業の現状分析

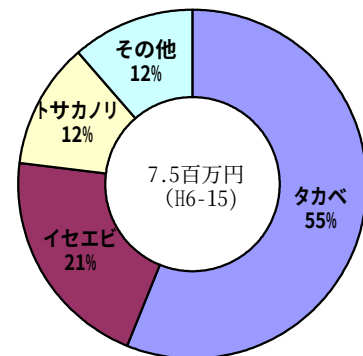
昭和63年57百万円を生産したが、最近、10百万円以下に減少

□昭和63年の内訳は、イセエビ22百万円、タカベ23百万円

□タカベ・イセエビ・トサカノリの3種類が全体の約9割



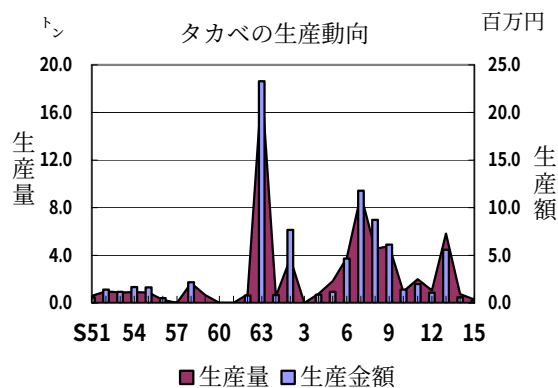
最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



### 主要魚種の生産動向

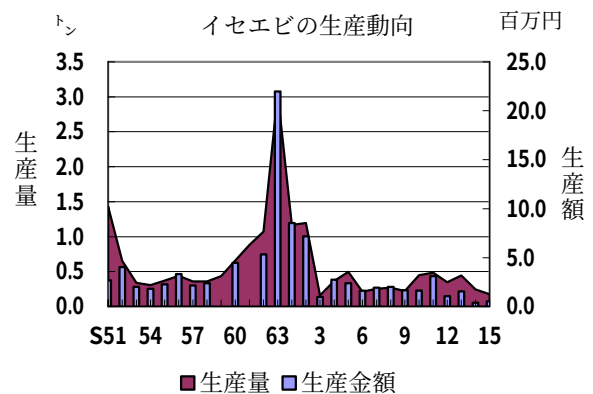
#### タカベ

- 昭和63年には、最高の23百万円を生産  
平成14年以降、百万円を割った
- 海況変動の影響で不安定な生産量

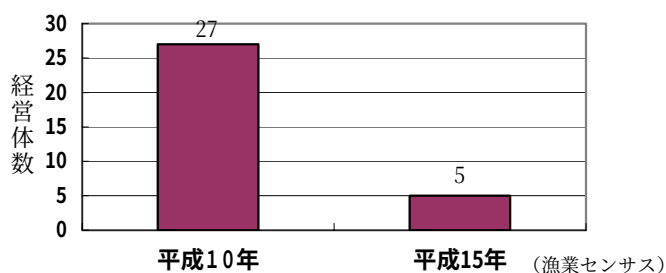


#### イセエビ

- 昭和63年には、最高の22百万円を生産
- 生産量は、300-500Kgで比較的安定



#### 刺網漁業経営体の推移



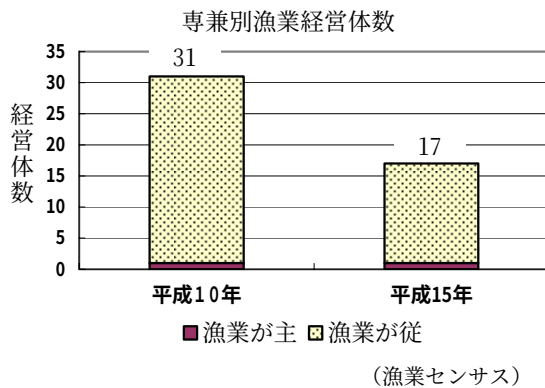
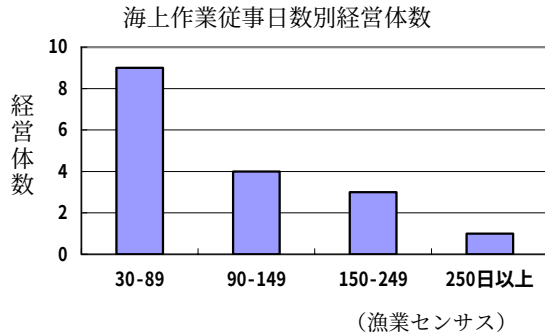
□ 刺網漁業経営体の大幅な減少



タカベ刺網・イセエビ刺網  
漁業の減

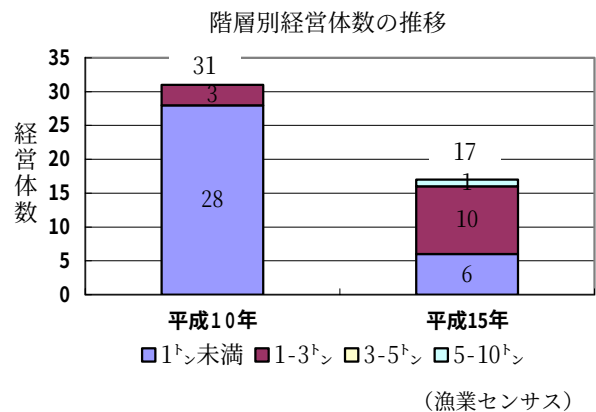
### 厳しい操業条件

- 17経営体中約半分の9経営体は、年間海上作業日数90日以下



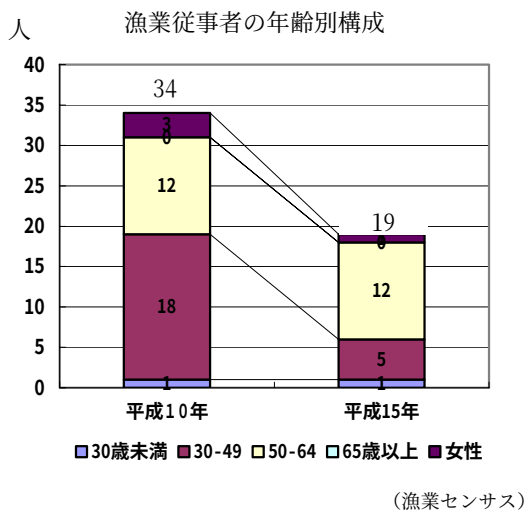
### イルカウォッチングで1-3トンの経営体は増加

- 経営体数は平成10年から15年にかけて31経営体から14経営体減少して17経営体
- 内容をみると、1トン未満の28経営体が大幅に減少しているのに対し、1-3トンの経営体は逆に3経営体から10経営体に増加
- イルカウォッチングの活況による遊漁船業従事者の増加が影響
- イルカウォッチングは5月～10月にかけて行われ、10隻前後が従事



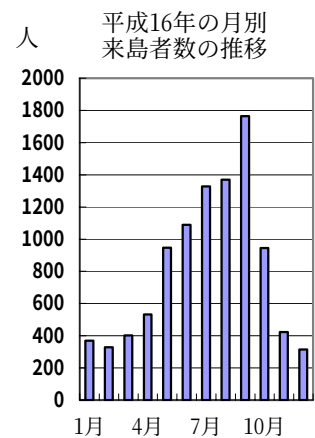
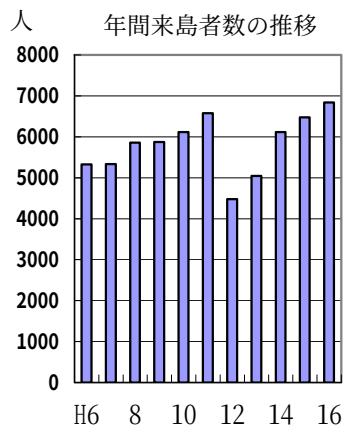
### 最近、5年間で漁業従事者は半減

- ・平成15年の漁業従事者は、平成10年の34人から15人減少して19人
- ・平成15年の従事者の約6割は50-64歳。30歳未満の若年層は1人



### イルカウォッチングの活況で増加傾向の来島者数

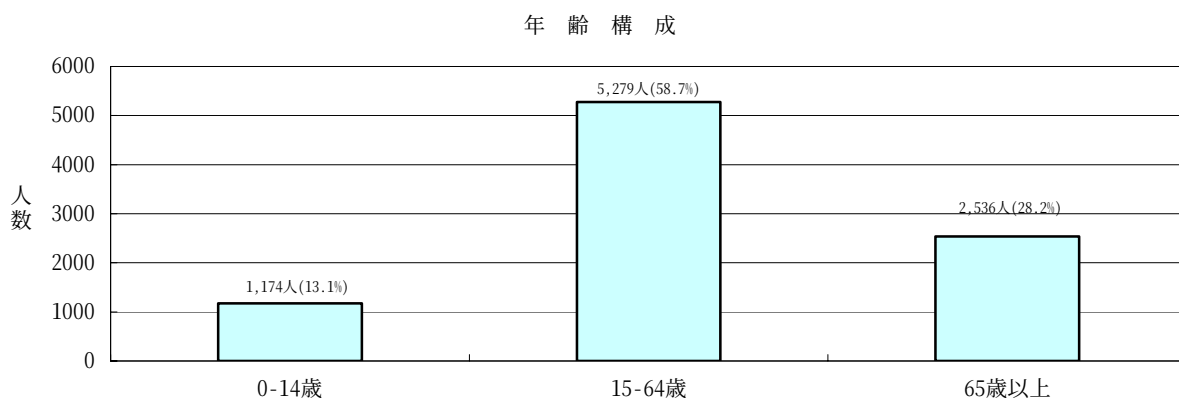
- ・平成12年には三宅島の噴火で一時的に減少したが、その後、増加傾向
- ・5月の連休から10月にかけて多く来島



# 八 丈 町 の 概 要

## 1. 人 口 等

| 人 口     | 面 積                   | 位 置           |              | 東京からの距離 |
|---------|-----------------------|---------------|--------------|---------|
| 8, 989人 | 72. 62km <sup>2</sup> | 東経 139 ° 47 ' | 北緯 33 ° 06 ' | 287km   |

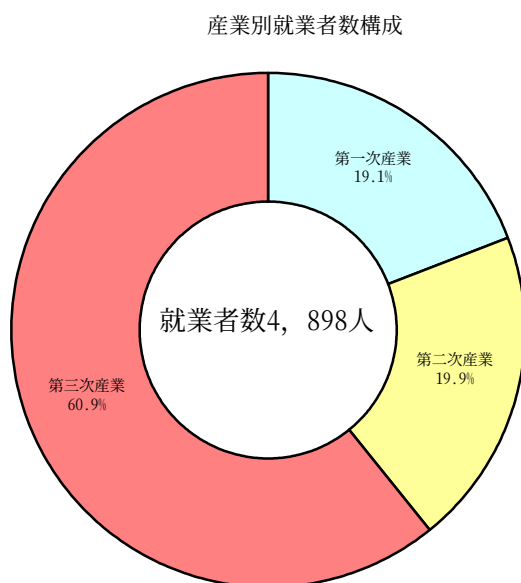


[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南方海上約287kmに位置するまゆ形の島である。両端は三原山と八丈富士の両山系に分かれ、三原山の沿岸及び八丈富士北西部沿岸は急峻であるが、両山系の間接地帯はなだらかな傾斜面または平坦地となっている。集落は、その間接地帯の坂下地域と三原山の裾野に点在する坂上地区からなる。八丈島の北西約4kmには、昭和44年に無人島となった八丈小島がある。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]





富士牧野と八丈牛乳



フェニックス・ロベレニー



アシタバ



トビウオ



春トビ（ハマトビウオ）の水揚げ



農産物直売所「エコあぐりまーと」での販売風景

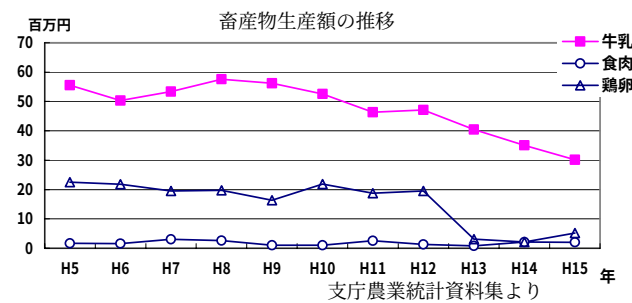
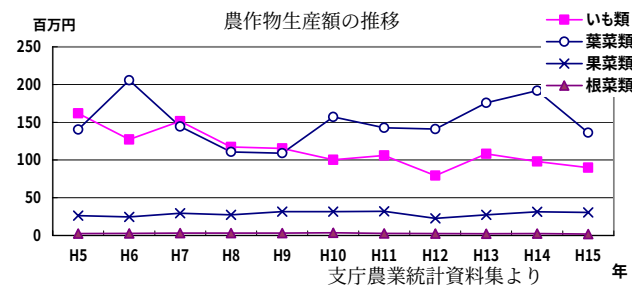
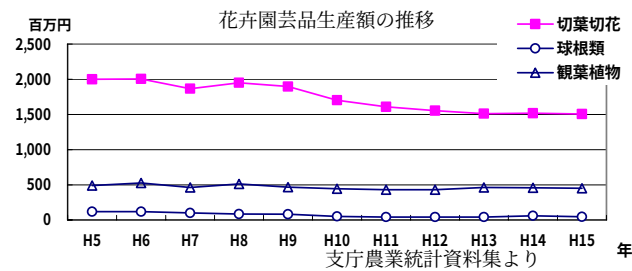
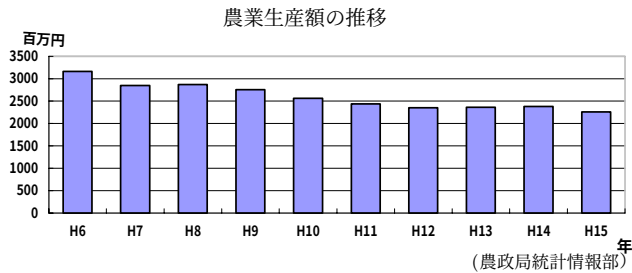


カツオの出荷

## 八丈島 農業の現状分析

### 現状分析（１）

- ・生産額は平成６年に３０億円を超えたが、その後減少し、近年は２３億円前後で推移



・総生産額は10年前の75%に減少しているが、これは都全体の減少率とほぼ同率。

・減少の要因は主要産品である花卉園芸品、並びに畜産品の減少である。

・主力生産品目のフェニックス・ロベリーの切葉生産量は平成6年が71百万枚に対し、15年は43百万枚まで減少した。

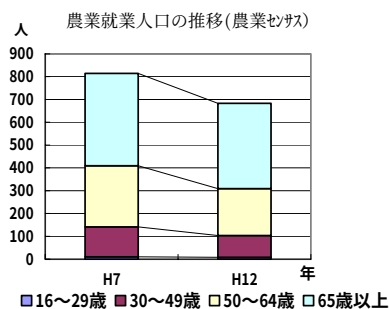
・ロベに次ぐ主力産品であるレザーファンは平成6年の生産量が9百万枚に対し、平成15年は4百万枚に減少した。これは他産地の生産量の増加に加え、病気の発生等によるものである。また、生産品目の切り替えにより、ルスカスやサンダーソニアの生産額が増えつつある。

・畜産品では、大手メーカー産の流入もあって、八丈島牛乳の消費量が年々低下している。

・ロベ、ドラセナ等の鉢物類、並びにアシタバを主力とする葉菜類の生産は安定している。

### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、平成７年814人から平成12年683人に減少
- ・平成12年は、65歳以上の就農者の割合が55%



平成12年農業就業人口(農業センサス)

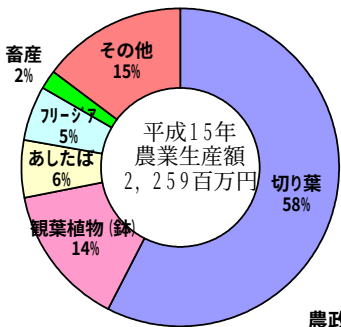
|        | 人数  | 割合(%) |
|--------|-----|-------|
| 16～29歳 | 8   | 1     |
| 30～49歳 | 96  | 14    |
| 50～64歳 | 205 | 30    |
| 65歳以上  | 374 | 55    |
| 計      | 683 | 100   |

30～64歳の減少が大きく、平成12年には65歳以上の高齢者が占める割合が55%となった。

### 現状分析（３）

・フェニックス・ロベレニーの生産額が切葉、鉢物を合わせ、農作物・花卉園芸品生産額の5割以上

農産物生産額の内訳



農政局統計情報部

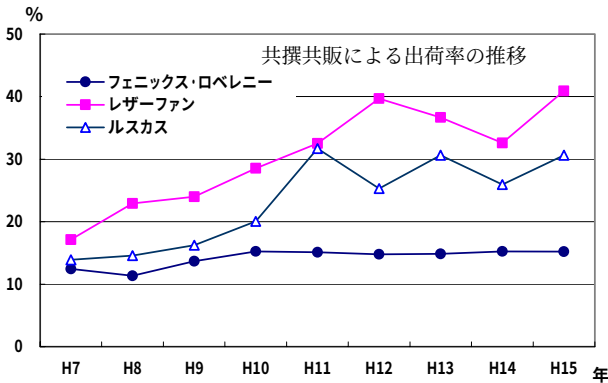
・平成15年の農業生産額は22.6億円で、東京都では八王子市(26.6億円)に次ぎ第2位。

・フェニックス・ロベレニーの生産額が5割以上を占める傾向は平成6年以降、継続している。

・フェニックス・ロベレニーの鉢物はヨーロッパ等の外国に輸出されている。日本が輸出する数少ない農産品目の1つであり、平成17年、第14回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールで、八丈島農業振興研究会鉢物部会はその功績で農林大臣賞を受賞した。

・農作物ではアシタバが1億円以上の生産を上げている。島内には、アシタバ加工場があり製造販売が順調で、アシタバの原料供給が不足気味である。

とくに夏季に供給不足となるため、高地栽培等の技術を開発し、周年安定生産を目指す必要がある。



支庁農業統計資料集より

共撰共販による平成15年の出荷率はフェニックス・ロベレニーが15%、レザーファンが40%、ルスカスが30%に達した。

今後とも共撰共販による出荷率の向上に努め、より高品質で他産地との競合に勝てる商品の生産・販売が望まれる。

### 現状分析（４）

・自給率は0～669%と、品目により著しい差

—高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進—

農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 959.5  | 2      | 0      |
| サツマイ   | 4.5    | 14.8   | 99     | 669    |
| ハレショ   | 24.9   | 81.7   | 156    | 191    |
| サトイ    | 20.7   | 67.9   | 73     | 108    |
| トマト    | 24.9   | 81.7   | 10     | 12     |
| ニンジン   | 17.3   | 56.8   | -      | -      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 50.9   | 1      | 2      |

H16人口 8,990 人

| 品 目  | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 72.2   | 3      | 4      |
| キュウリ | 11.1   | 36.4   | 10     | 27     |
| ダイコン | 36.9   | 121.1  | 22     | 18     |
| タマネギ | 27.7   | 90.9   | -      | -      |
| ハクサイ | 16.3   | 53.5   | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 329.4  | 244    | 74     |
| 卵    | 30     | 96.8   | 12     | 12     |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量＝摂取量×365日×人口

※3 生産量はH15農林水産統計年報（農政局統計情報部）より、但し畜産物は独自調査

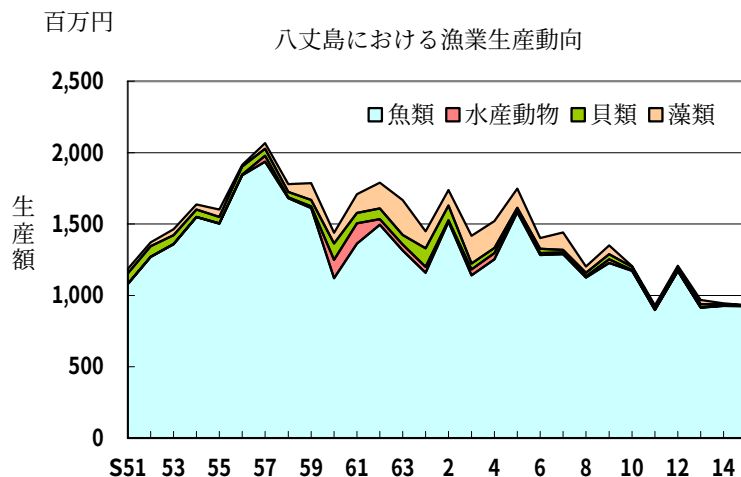
※4 自給率＝生産量÷需要量

※5 サツマイは焼酎原料用が含まれる

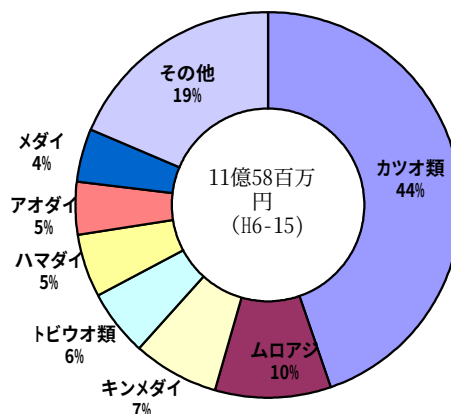
## 八丈島 水産業の現状分析

### ハマトビウオ・底魚類の生産量減で、ピーク時の1/2になった生産額

- 昭和57年の生産額は20億66百万円。近年、10億円以下で推移。9割以上はカツオ中心の魚類
- テングサ類主体の藻類生産額は、昭和63年には2億43百万円を水揚げしたが、平成15年には僅か百万円に減少
- 魚種別では、カツオ類が44%を占めて最も多い。ハマトビウオが多く獲れていた昭和50年代はトビウオ類が25%前後を占める主要魚種



最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



### 春先の主要漁業の漁業種類、底魚漁業の主要対象魚種に変化がみられる漁船漁業

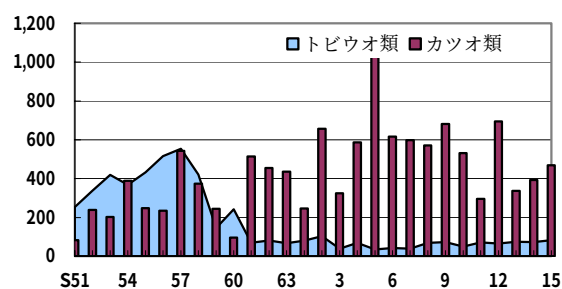
□春先の主要漁業 トビウオの流し刺網漁業+カツオ曳縄漁業

漁業形態 → カツオ曳き縄漁業

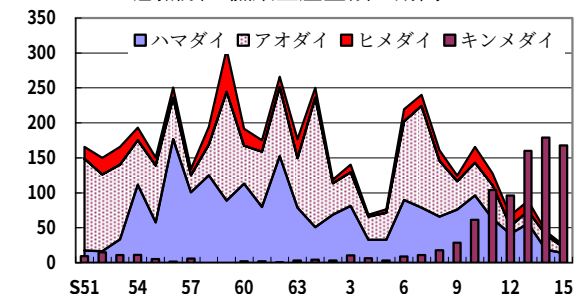
□底魚漁業 高級底魚類 (ハマダイ・アオダイ・ヒメダイ)

魚種交代 → キンメダイ

百万円 トビウオ類とカツオ類生産金額の推移

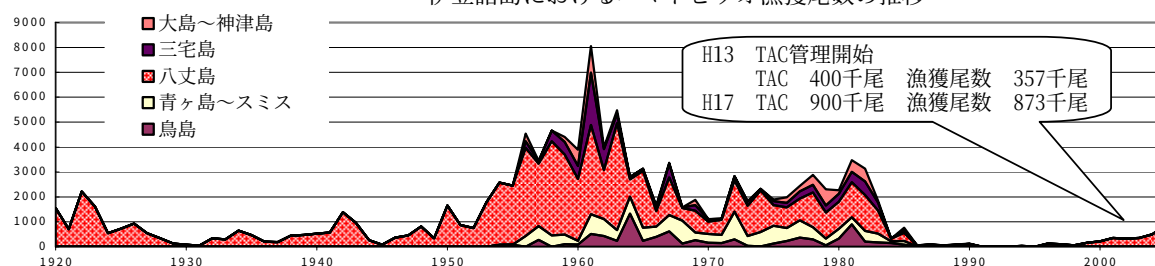


百万円 底魚類の漁業生産金額の動向



千尾

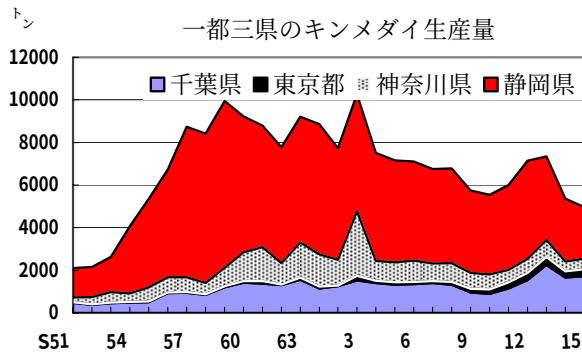
伊豆諸島におけるハマトビウオ漁獲尾数の推移



## 近年、生産量が大幅に増えている東京都のキンメダイ

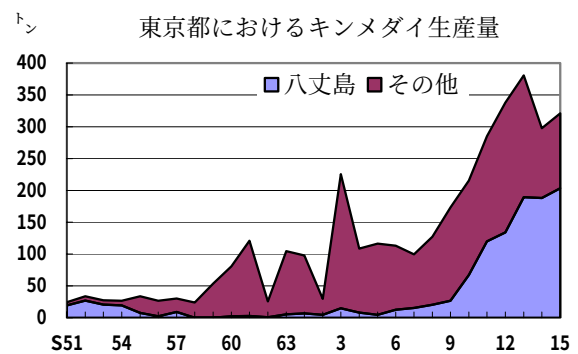
### 伊豆諸島を主要漁場とする一都三県

- 最近10年間平均で6270<sup>トン</sup>を生産  
平成3年の1万270<sup>トン</sup>をピークに減少傾向
- 全体の4割以上を伊豆諸島漁場で漁獲



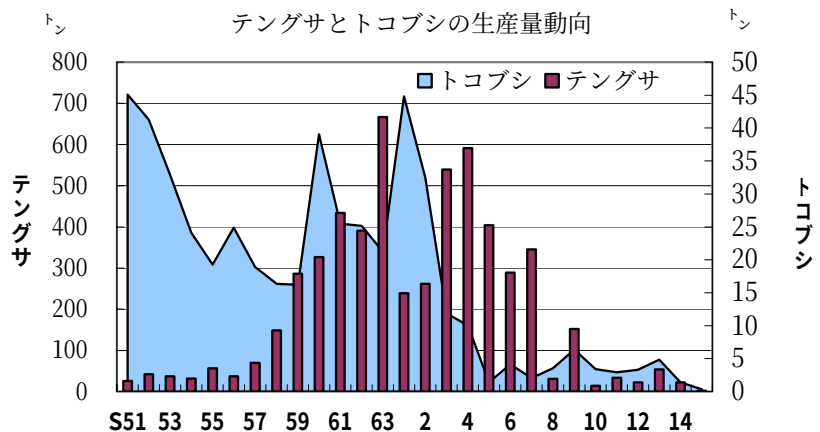
### 東京都の生産量の6割以上を占める八丈島

- 近年、大幅に増えている東京都のキンメダイ生産量。平成15年には321<sup>トン</sup>
- 増加要因は、平成10年以降の八丈島での漁獲増



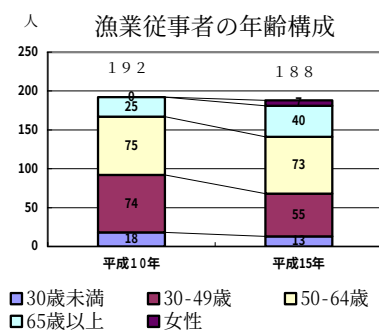
## 漁場の荒廃で低迷する磯根漁業

- 昭和50年代のテングサ生産量低迷の要因は当時、春先の漁業の主体はハマトビウオ漁でテングサ漁業に従事する漁業者が少なかった
- 最近のテングサ生産量の低迷は磯焼け等の漁場の荒廃による資源の減少が影響
- トコブシ生産量は、平成3年から種苗放流事業が開始されたにもかかわらず、激減。漁場の荒廃による生息環境の悪化、親貝集団の減少等の複数の要因が影響



### 漁業従事者数

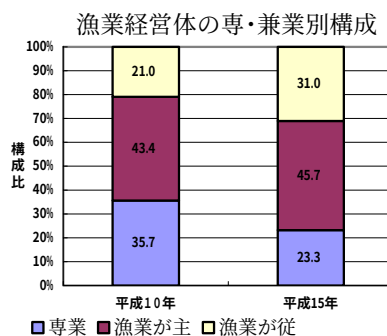
- 65歳以上の高齢者は、平成10年の13%から21%に増加。高齢化進行



(漁業センサス)

### 専業別経営体

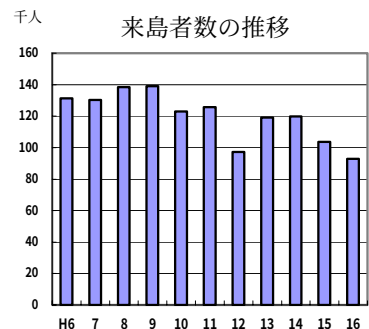
- 漁業専門者の割合は減少傾向



(漁業センサス)

### 年間10万人前後の来島者

- 年間10万人前後が来島
- 8月に年間の16%が集中

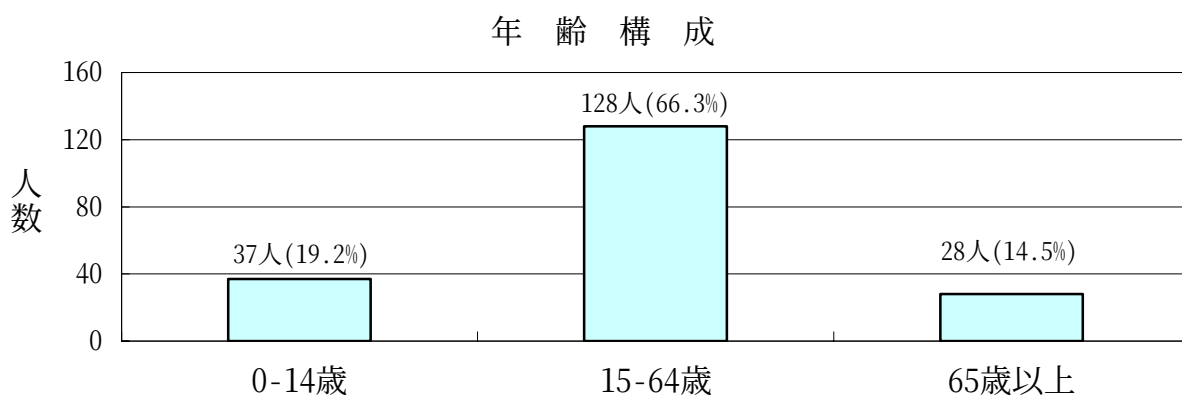




# 青ヶ島村の概要

## 1. 人口等

| 人口   | 面積                  | 位置         |           | 東京からの距離 |
|------|---------------------|------------|-----------|---------|
| 193人 | 5.98km <sup>2</sup> | 東経 139°45' | 北緯 32°27' | 358km   |

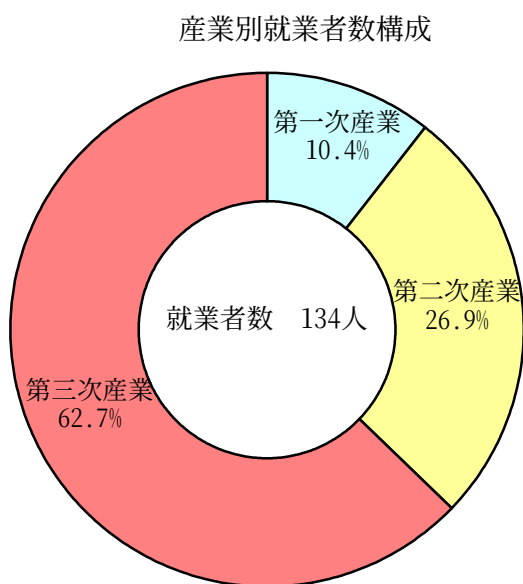


[人口は平成17年1月1日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

東京の南方海上約358Kmに位置し、有人島では伊豆諸島の最南端に位置する卵形の島である。カルデラを有する典型的な複式火山の島で、主に玄武岩及び安山岩で形成されている。外輪山は絶壁となって海に達しており、湾入部はない。集落は、外輪山北側の比較的なだらかな丘陵地帯に集中している。

## 3. 産 業



[平成12年国勢調査による]



キキョウランの出荷規格講習会



マグロ類の水揚げ



漁船の揚げ降ろし



育苗ハウス



池の沢の農地風景



黒毛和牛

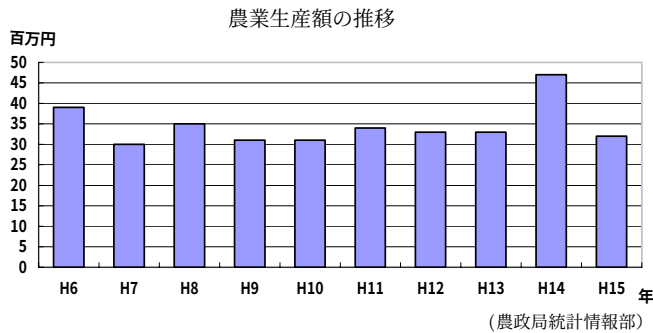




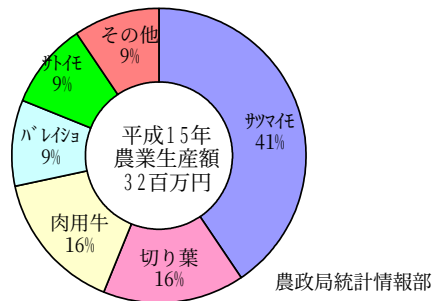
## 青ヶ島 農業の現状分析

### 現状分析（１）

- ・農業生産額は3,000万円台で安定的に推移。近年、畜産物は減・花き園芸品は増加の傾向



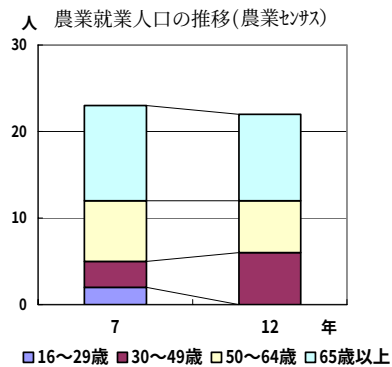
農産物生産額の内訳



焼酎ブームにより青酎の生産は好調に推移している。これに伴い、サツマイモの生産も順調であるが、これ以上生産を増やすには切替畑の造成や生産性の高い品種の導入や、灌漑設備の整備が必要と思われる。

### 現状分析（２）

- ・農業就業人口は、平成7年23人から平成12年22人で横ばい
- ・平成12年は、65歳以上の老年労働者の割合が46%で5年前より減少し、30～49歳の比率が増加



平成12年農業就業人口(農業セクタ)

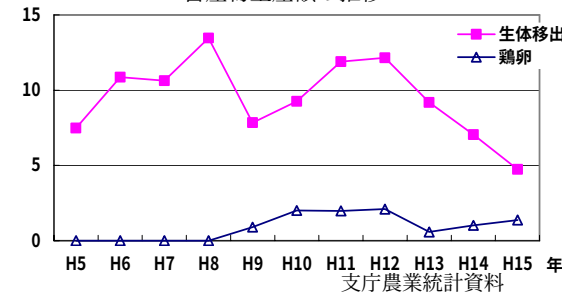
|        | 人数 | 割合(%) |
|--------|----|-------|
| 16～29歳 | 0  | 0     |
| 30～49歳 | 6  | 27    |
| 50～64歳 | 6  | 27    |
| 65歳以上  | 10 | 46    |
| 計      | 22 | 100   |

青ヶ島は老年人口の比率が少なく、そのことが農業就業者の人口構成にも反映されている。なお、高齢者が少ないのは医療面での不安から、高齢者を内地や八丈島の施設に入居させる傾向があるためといわれている。

### 現状分析（３）

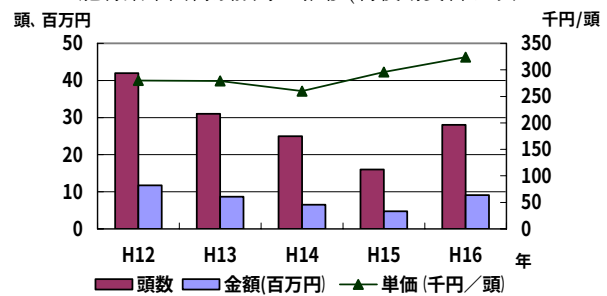
平成12年以降、黒毛和牛（生体出荷）の生産が減少してきたが、16年は増加に転じた

畜産物生産額の推移



※生体移出は黒毛和牛（肥育素牛、廃用牛）の内地出荷

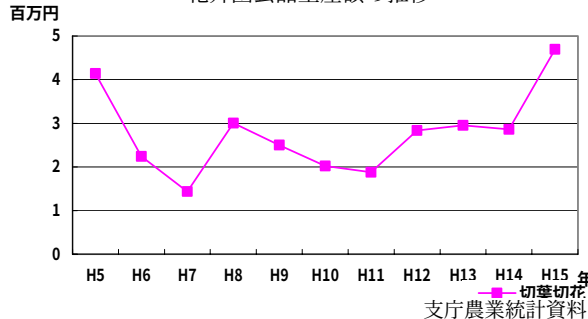
肥育素牛出荷頭数等の推移(村役場資料より)



黒毛和牛生産額の9割以上は、肥育素牛の都内肥育生産者への出荷額である。平成13～15年にかけて減少したのは、平成11～13年の繁殖成績が悪かったためである。その後、繁殖成績は改善し、単価も上昇している。  
 今後は、飼養管理技術の向上による肥育素牛の販売単価の増加を図る必要がある。

切葉の約9割はフェニックス・ロベレニーである。島しょ農林水産総合センターと八丈支庁の連携した支援により切葉の生産量が増加しつつある。

花卉園芸品生産額の推移



### 現状分析（４）

- ・来島者、島民の新鮮な地場農畜産物需要に応える生産量確保が重要

青ヶ島の宿泊施設、商店等の概要

|      | 軒数 | 定員(人) |
|------|----|-------|
| 民宿   | 5  | 50    |
| 村営   | 0  |       |
| 小計   | 5  | 50    |
| 商店   | 2  |       |
| 土産物店 | 0  |       |
| 飲食店  | 1  |       |
| 農漁協  | 2  |       |

村役場資料

青ヶ島農業の最大の課題は農業用水の確保である。品目数と生産量の拡大には、この点の改善が必要と思われる。

—高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進—

農畜産物の島内需要量及び自給率(推計)

| 品目     | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 21.1   | -      | -      |
| サツマイモ  | 4.5    | 0.3    | 60     | 20,000 |
| ハレシヨ   | 24.9   | 1.8    | 13     | 722    |
| サトイモ   | 20.7   | 1.5    | 8      | 533    |
| トマト    | 24.9   | 1.8    | 1      | 56     |
| ニンジン   | 17.3   | 1.3    | -      | -      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 1.1    | -      | -      |

H16人口 198 人

| 品目   | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 1.6    | -      | -      |
| キュウリ | 11.1   | 0.8    | 1      | 125    |
| ダイコン | 36.9   | 2.7    | 2      | 74     |
| タマネギ | 27.7   | 2.0    | -      | -      |
| ハクサイ | 16.3   | 1.2    | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 7.3    | -      | -      |
| 卵    | 30     | 2.1    | 2      | 110    |

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量＝摂取量×365日×人口

※3 生産量はH15農林水産統計年報（農政局統計情報部）より、但し畜産物は独自調査

※4 自給率＝生産量÷需要量

※5 サツマイモは、焼酎原料用が含まれる

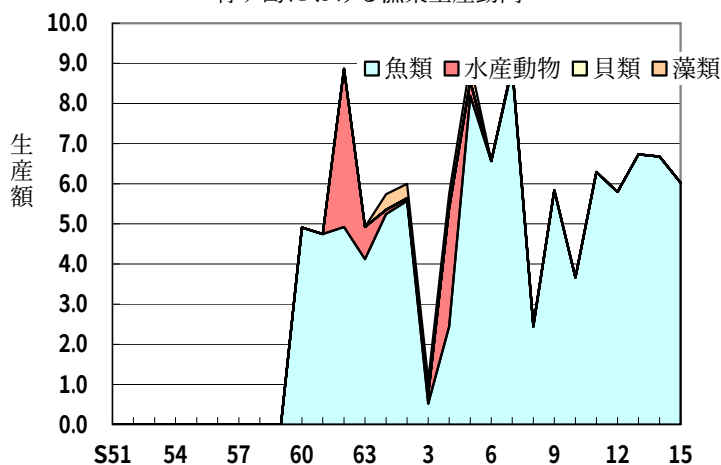
## 青ヶ島 水産業の現状分析

### 近年、5百万円前後で安定している漁業生産

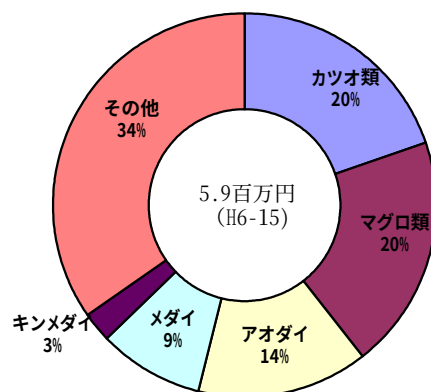
- 平成3年大幅な落ち込みがあった以外、5百万円前後で推移
- 回遊魚のカツオ類・マグロ類が主体。近年、アオダイ・メダイの底魚類が増加
- 昭和62年と平成4年の水産動物の種類はイセエビで、3百万円を生産

百万円

青ヶ島における漁業生産動向



最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



### 主要魚種の生産動向

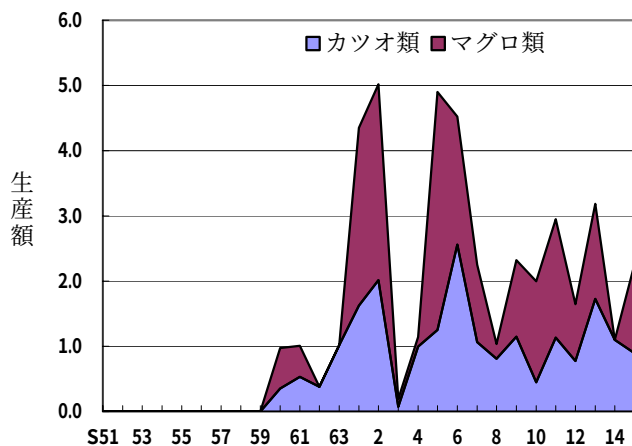
#### 回遊魚

- 不安定な漁業生産

要因 → 海況変動・気象条件

百万円

不安定な回遊魚漁業生産



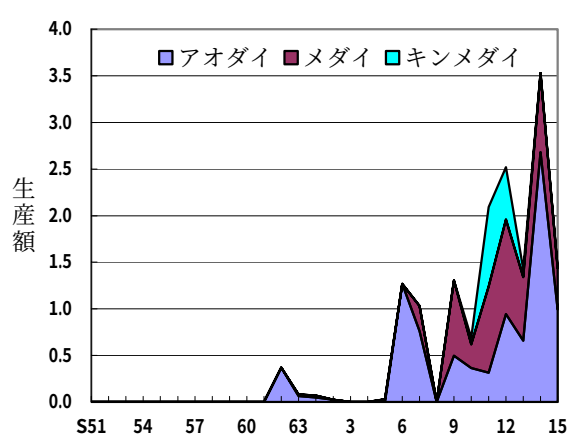
#### 底魚

- 近年、アオダイ・メダイ・キンメダイの生産額が増加

要因 → 3-5トン層の漁船が3隻就航し、漁獲努力量が増大

百万円

増加傾向の底魚漁業



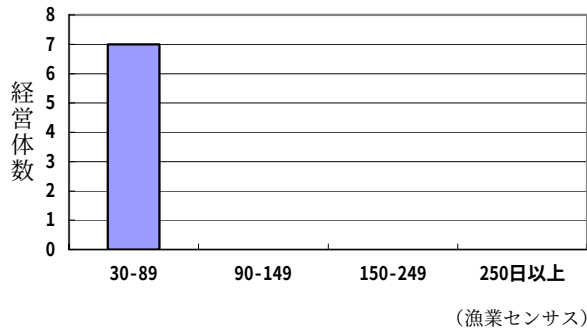
## 厳しい海象条件

□7経営体全て、年間海上作業日数は90日以下

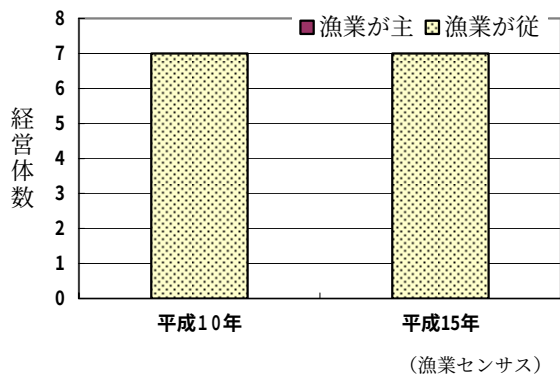
課題

- ・稼働日数の拡大
- ・保管施設の整備
- ・島周り多獲性魚の利活用

海上作業従事日数別経営体数



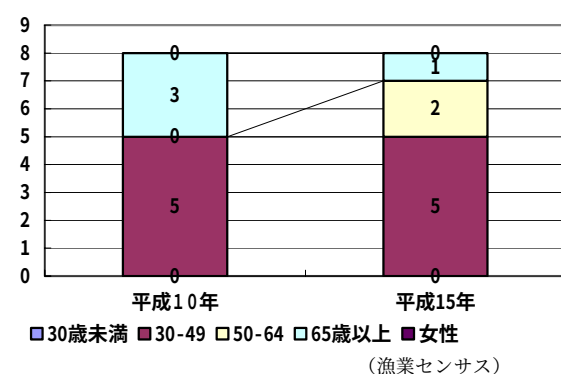
専兼別漁業経営体数



## 漁業従事者は8人

- ・平成10年と15年とも8人で変化は無い
- ・平成15年の従事者は30-49歳の年齢層が5人で、比較的若い層が主体

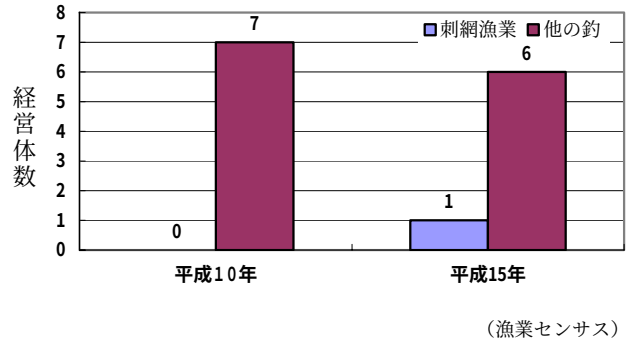
漁業従事者の年齢別構成



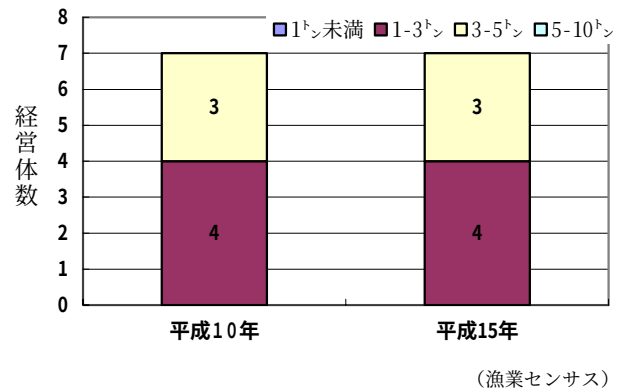
## 零細な漁業経営

- カツオ・マグロ類を対象にした曳き縄漁業が主体
- 階層別経営体は、厳しい海象条件の中で、比較的大型の船が多い

漁業種類別経営体の推移



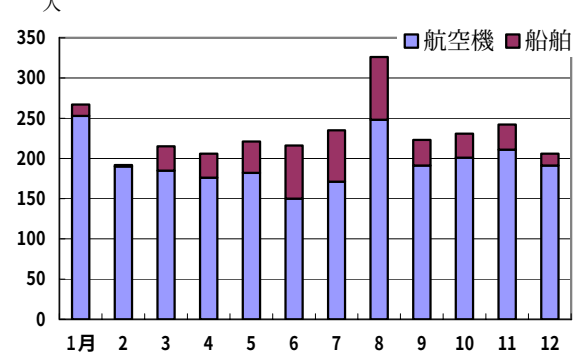
階層別経営対数の推移



## 来島者の8割以上はヘリコプターを利用

- ・平成16年の年間来島者数は2780人。そのうち、2439人はヘリコプターを利用
- ・気象条件のいい夏場は船の利用が若干多い
- ・1年を通じて8月の来島者数が最も多い

平成16年の月別来島者数



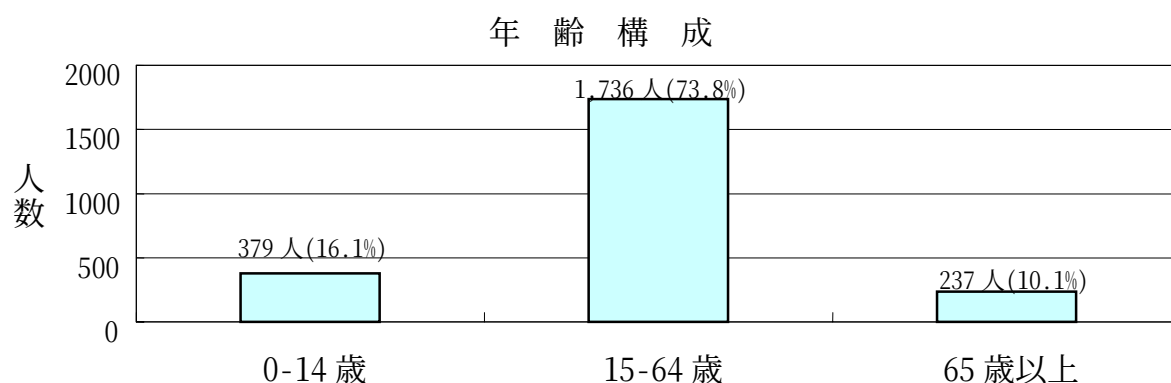


# 小笠原村の概要

## 1. 人口等

| 人口                       | 面積                                                                       | 位置                         |                          | 東京からの距離          |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------------------------|------------------|
| 2,352人<br>1,909人<br>443人 | 104.41k m <sup>2</sup><br>23.80K m <sup>2</sup><br>20.21K m <sup>2</sup> | 東経 142° 11'<br>東経 142° 09' | 北緯 27° 05'<br>北緯 26° 38' | 984Km<br>1,033km |

※欄中 上段：父島 下段：母島



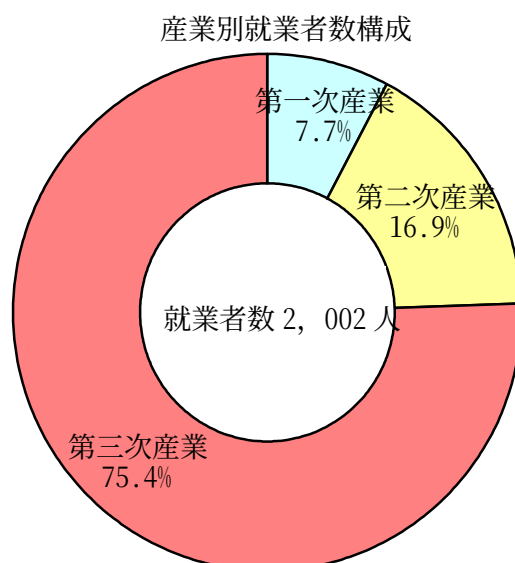
[人口は平成 17 年 1 月 1 日現在（住民基本台帳）]

## 2. 地 勢

小笠原村は、小笠原諸島の父島、母島及びその他の小島からなる。父島は、東京の南方海上約 984km に位置し、小笠原諸島でもっとも大きな島である。島のほぼ中央の中央山から四方に山陵が走り、周囲はほとんど切り立った崖となり平地は少ない。集落は、北西部の二見湾ぞいに集中している。

母島は、父島の南方海上約 50km に位置する南北に長い島である。島のほぼ中央の乳房山から南北に山陵が走り、周囲はほとんど切り立った崖となっているが、南部は比較的平坦な丘陵となっている。集落は、南西部の沖港を取り囲むように集結している。

## 3. 産 業



[平成 12 年国勢調査による]





鈴なりのパッションフルーツ



水揚げされたクロマグロ



島の農産物が目で見えて買えて、  
地方発送もできる直売所



漁協による海面養殖の作業風景



マンゴー



ここも小笠原村、「沖の鳥島」



爽やかな味と香り、「菊池レモン」



てんぷらが人気の「シカクマメ」



黒毛和牛



水揚げされたメカジキ

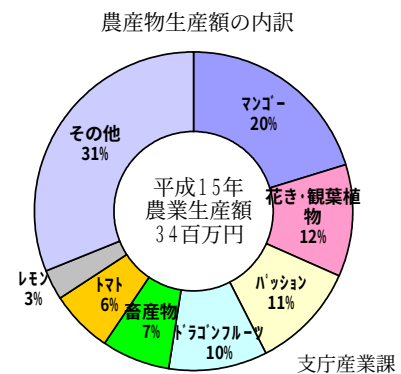
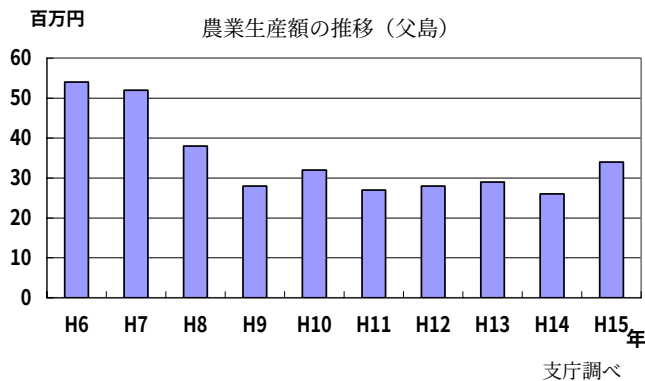


ハマダイ (オナガ)

## 父島 農業の現状分析

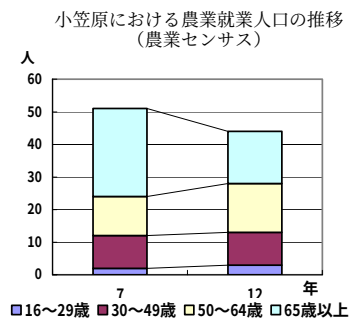
### 現状分析（１）

- ・父島における農業生産額は3,000万円前後で推移、農業生産額のうち、果樹が約５割を占める。



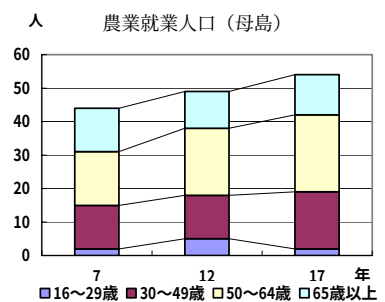
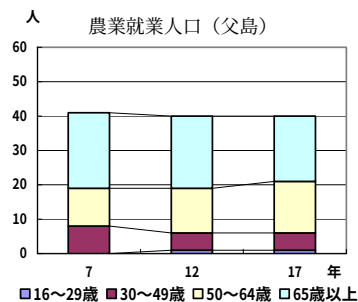
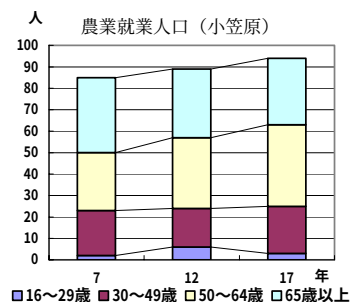
### 現状分析（２）

- ・小笠原村における販売農家は、平成7年51人から平成12年44人に減少
- ・自給的農家も含めた農業者数は、平成7年85人から平成17年94人に増加
- ・父島の農業者数は、平成7年41人から平成17年40人となり、ほとんど変化なし



|       | 農業者の平均年齢 |       |       | 単位（歳） |
|-------|----------|-------|-------|-------|
|       | 平成7年     | 平成12年 | 平成17年 |       |
| 父島    | 63.0     | 64.5  | 63.3  |       |
| 母島    | 56.2     | 52.9  | 53.4  |       |
| 小笠原平均 | 59.5     | 57.9  | 57.6  |       |

（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿



（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿

（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿

（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿

### 現状分析（３）

- ・父島における耕作可能な農地のうち不作付地が約４割で、面積は約４ha

父島における農地の状況（H16:支庁調べ）

|           |       |     |
|-----------|-------|-----|
| 耕地面積合計    | 1,153 |     |
| 作付けしている農地 | 600   | 58% |
| 不作付地      | 434   | 42% |
| けい群       | 119   |     |

単位：a

#### 現状分析（４）

- ・ノヤギやオオコウモリによる被害が大

平成15年度におけるノヤギによる被害

| 農作物       | 被害金額（千円） |
|-----------|----------|
| トウガラシ     | 1,514    |
| キュウリ      | 727      |
| パッションフルーツ | 211      |
| ジャガイモ     | 124      |
| パパイヤ      | 30       |
| 合計        | 2,606    |

支庁調べ

この3、4年、父島における野ヤギの増加が著しく、農作物への食害が増えている。

平成15年度におけるオガサワラオオコウモリによる被害

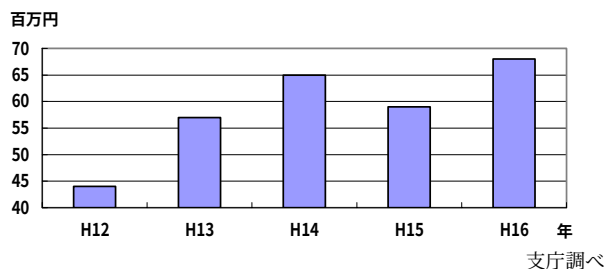
| 農作物    | 被害金額（千円） |
|--------|----------|
| オレンジ   | 2,003    |
| ブント    | 1,627    |
| シャシヤップ | 993      |
| キュウリ   | 173      |
| ナス     | 126      |
| ライチ    | 60       |
| マンゴー   | 36       |
| 合計     | 5,018    |

支庁調べ

#### 現状分析（５）

- ・農産物観光直売所での農産物販売金額は、年々増加する傾向

農産物観光直売所における農産物販売金額の推移  
（小笠原村全体）



— 高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進 —

農畜産物の島内需要量及び自給率（推計）

| 品 目    | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 204    | -      | -      |
| サツマイ   | 4.5    | 3      | -      | -      |
| パレショ   | 24.9   | 17     | 5      | 29     |
| サトイ    | 20.7   | 14     | -      | -      |
| トマト    | 24.9   | 17     | 5      | 27     |
| ニンジン   | 17.3   | 12     | -      | -      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 11     | 0      | 0      |

H17.7人口 1,911 人（父島）

| 品 目  | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 15     | 0      | 0      |
| キュウリ | 11.1   | 8      | 1      | 18     |
| タマネギ | 36.9   | 26     | 0      | 0      |
| タマネギ | 27.7   | 19     | -      | -      |
| ハクサイ | 16.3   | 11     | -      | -      |
| 牛乳   | 100.4  | 70     | -      | -      |
| 卵    | 29.5   | 21     | 1      | 3      |

60g/個で換算

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査（データはH15））

※2 需要量＝摂取量×365日×人口

※3 生産量は支庁農業統計資料集より

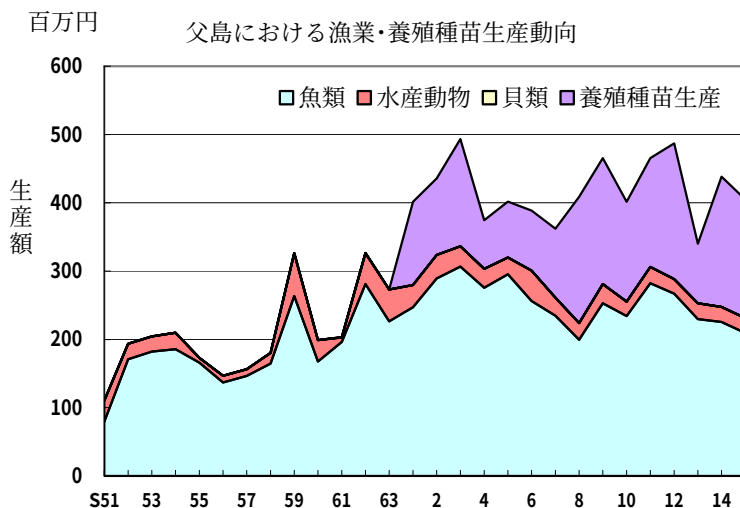
※4 自給率＝生産量÷需要量



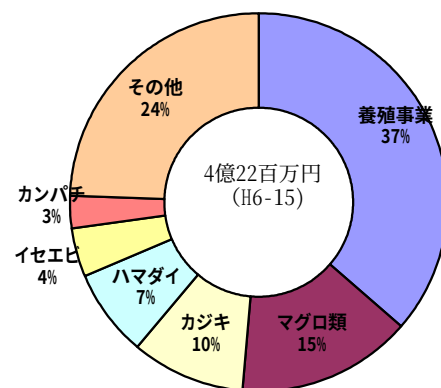
## 父島水産業の現状分析

### 大型回遊魚を対象にした漁船漁業と養殖事業が中心

- 平成3年に4億93百万円の最高の生産額。内訳は漁業生産が3億36百万円、養殖事業1億57百万円
- 漁業生産の9割は魚類を対象にした漁船漁業。主要魚種は、回遊魚のマグロ類、カジキ類
- 養殖事業は平成元年から始まり、平成12年に1億98百万円の最高の生産をあげたが、現在、経営再建に取組中



最近10年間の年平均生産額の魚種別組成



### 不安定な大型回遊魚漁業生産

- 大型回遊魚の主要魚種はマグロ類とメカジキ主体のカジキ類
- 年変動が大きく、不安定な生産
- 最近のマグロ類の生産動向は、平成11年に1億9百万円の最高を記録したが、その後減少し、平成15年は46百万円
- カジキ類は、平成9年に前年の5百万円から59百万円に増加。平成10年に78百万円の最高を記録。その後、マグロ類同様に減少し平成15年は30百万円

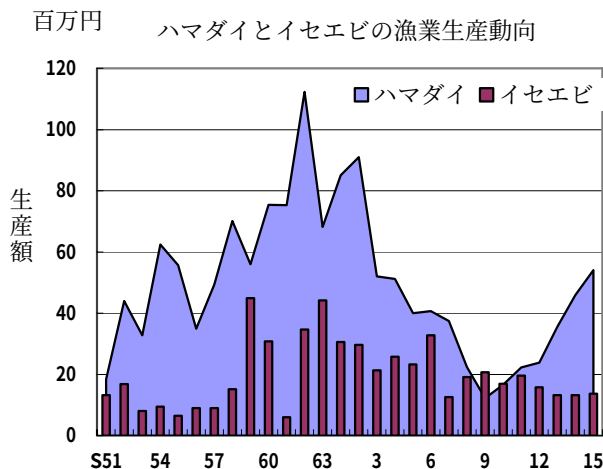
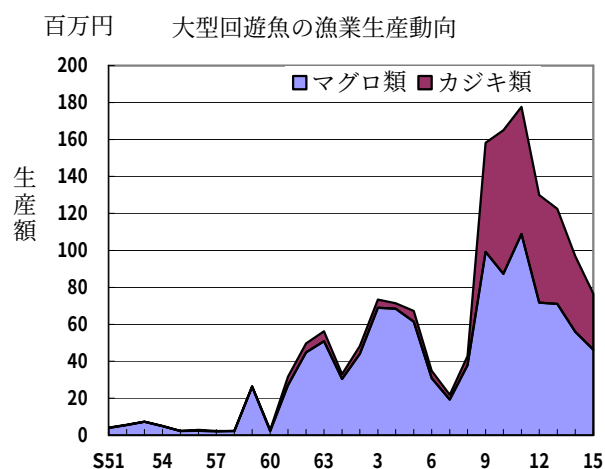
近年、生産が増えてきたハマダイと比較的安定した生産のイセエビ類

- 平成9年前後にハマダイ漁業生産額が減少

要因

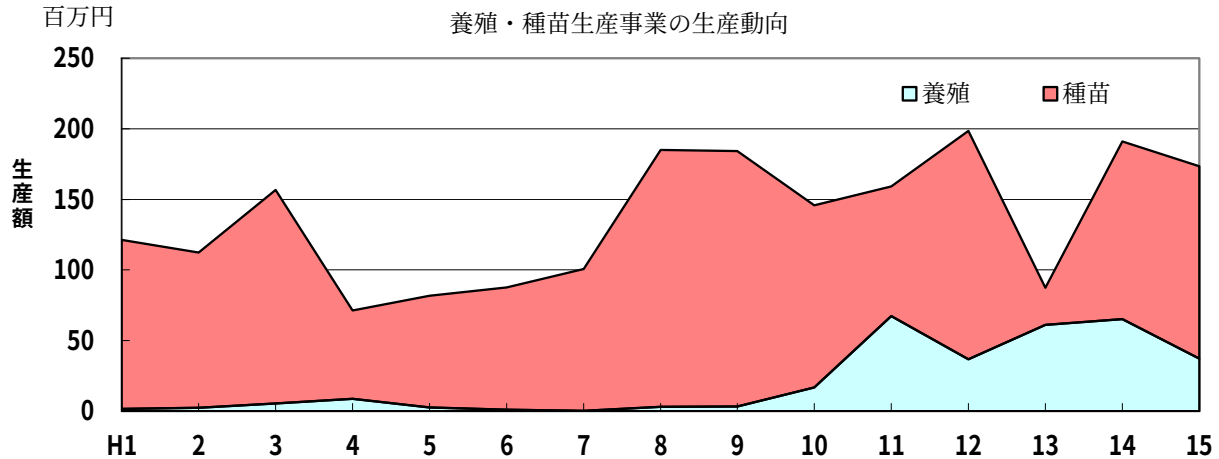
ハマダイ等を対象にした底釣漁業からマグロ・カジキを対象にした立縄漁業への移行

- イセエビ類は2千万前後で安定した生産



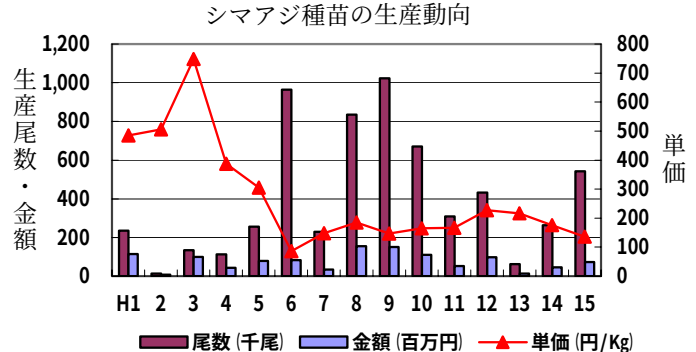
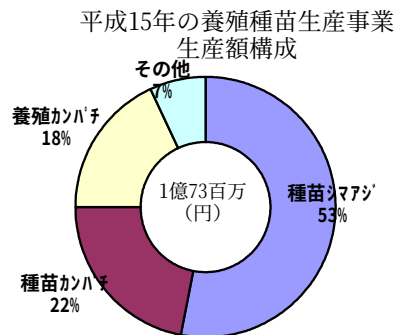
## 市場競争力の強化と安定した生産体制確立が課題の養殖種苗生産事業

- 平成13年を除き、近年、1億5千万～2億円で推移
- 平成13年の生産額の減少要因は、疾病によるシマアジ種苗生産の減が影響
- 平成元年、シマアジ・マダイの種苗販売事業でスタート後、平成5年からカンパチ種苗販売、平成10年からカンパチの養殖生産販売を開始したが、近年、経営が悪化。経営再建に取組中



□ シマアジ種苗販売主体の生産体制

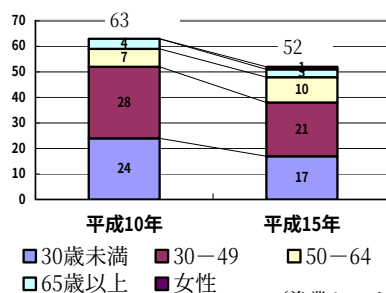
- 安定しない生産量 → 需用が低迷
- シマアジ種苗価格の低迷



## 漁業従事者数

- 漁業従事者は減少傾向
- 漁協組合員数は横ばい
- 若年齢層の割合が3割と高い

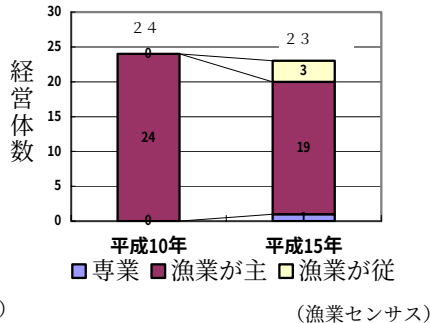
人 漁業従事者の年齢別構成



## 専兼業別経営体

- 経営体数の変動は少ない
- 漁業が主の兼業漁家中心

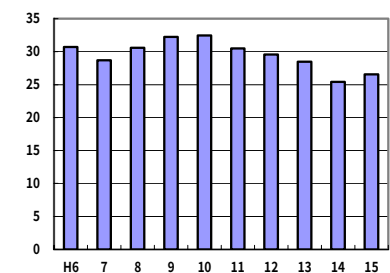
専兼業別経営体数の推移



## 来島者

- 年間3万人前後が来島。
- 最近、若干減少傾向

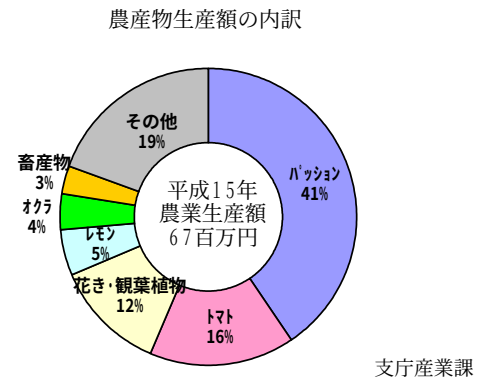
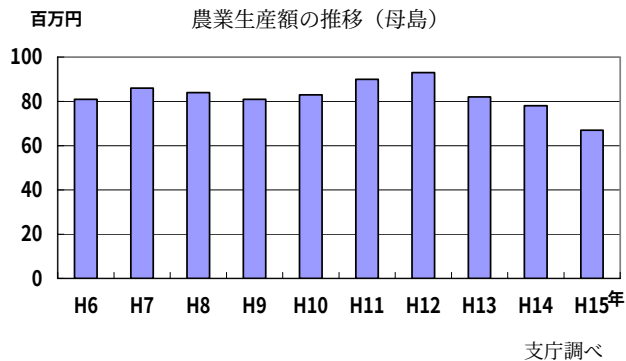
千人 年間来島者数の推移



## 母島 農業の現状分析

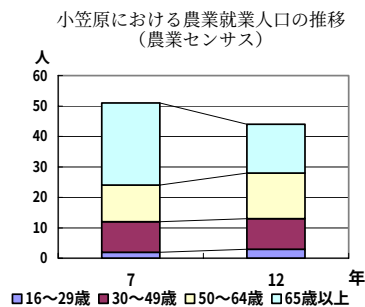
### 現状分析（１）

- ・母島における農業生産額は8,000万円前後で推移、農業生産額のうち、果樹が約５割を占める。



### 現状分析（２）

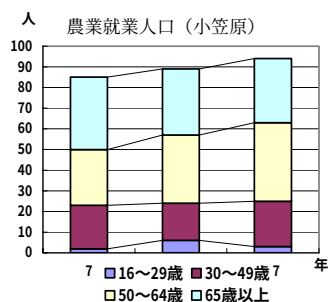
- ・小笠原村における販売農家は、平成7年51人から平成12年44人に減少
- ・自給的農家も含めた農業者数は、平成7年85人から平成17年94人に増加
- ・母島における農業者数は、平成7年44人から平成17年54人に増加



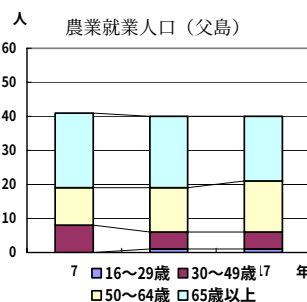
母島では、過去10年ほどの間に20～30代の新規就農や後継者の帰島が進んだ。

| 農業者の平均年齢 | 単位（歳） |       |       |
|----------|-------|-------|-------|
|          | 平成7年  | 平成12年 | 平成17年 |
| 父島       | 63.0  | 64.5  | 63.3  |
| 母島       | 56.2  | 52.9  | 53.4  |
| 小笠原平均    | 59.5  | 57.9  | 57.6  |

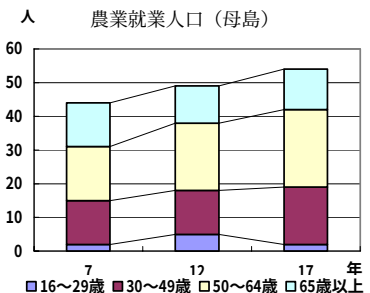
（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿



（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿



（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿



（出典）小笠原村農業委員会委員選挙人名簿

### 現状分析（３）

- ・母島における耕作可能な農地のうち不作付地が約６割で、面積は約12ha

母島における農地の状況（H16:支庁調べ）

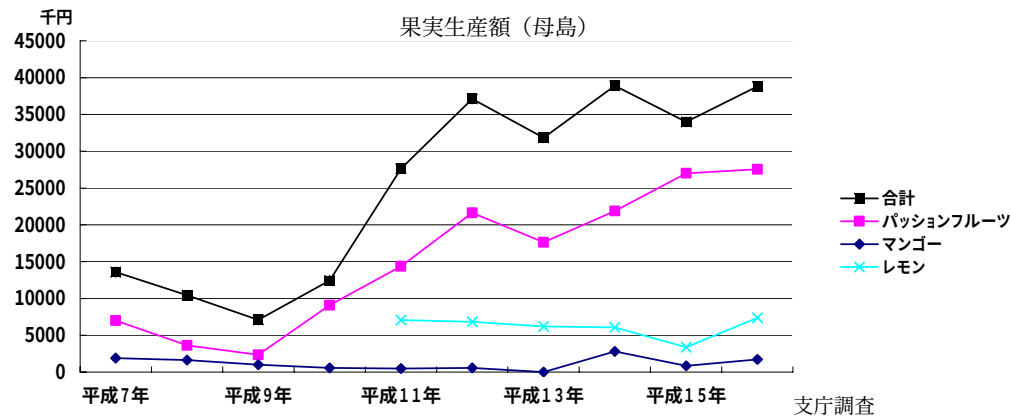
|           |       |     |
|-----------|-------|-----|
| 耕地面積合計    | 2,238 |     |
| 作付けしている農地 | 881   | 43% |
| 不作付地      | 1,177 | 57% |
| けい畔       | 180   |     |

単位：a



#### 現状分析（４）

- ・施設整備に伴い、パッションフルーツ等の生産が増加



#### 鉄骨ハウス整備状況

|    | 平成11年度     | 平成12年度     | 平成13年度    | 合計         |
|----|------------|------------|-----------|------------|
| 父島 | 1000㎡（4棟）  | 250㎡（1棟）   | 478㎡（2棟）  | 1728㎡（7棟）  |
| 母島 | 1460㎡（6棟）  | 2916㎡（9棟）  | 3074㎡（7棟） | 7450㎡（22棟） |
| 合計 | 2460㎡（10棟） | 3166㎡（10棟） | 3552㎡（9棟） | 9178㎡（29棟） |

支庁調べ

#### 母島における鉄骨ハウスの生産実績（H16年産）

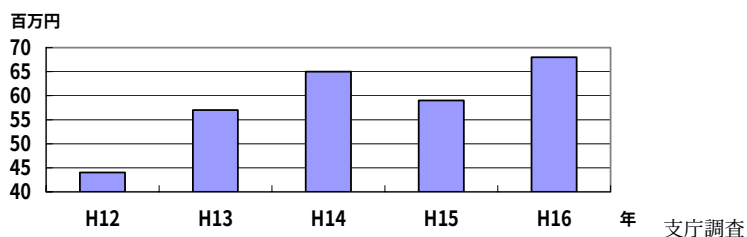
|           |      |
|-----------|------|
| パッションフルーツ | 12.5 |
| その他       | 1.1  |
| 合計        | 13.6 |

単位：百万円 支庁調べ

#### 現状分析（５）

- ・農産物観光直売所での農産物販売金額は、年々増加する傾向

農産物観光直売所における農産物販売金額の推移  
（小笠原村全体）



—高齢者・女性等を活用して、島内消費農産物を小規模・多品種栽培し、地産地消を推進—

#### 農畜産物の島内需要量及び自給率（推計）

| 品目     | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 米      | 292.4  | 47     | -      | -      |
| サツマイモ  | 4.5    | 1      | -      | -      |
| ハレショ   | 24.9   | 4      | 3      | 75     |
| サトイ    | 20.7   | 3      | -      | -      |
| トマト    | 24.9   | 4      | 14     | 350    |
| ニンジン   | 17.3   | 3      | 0      | 2      |
| ホウレンソウ | 15.5   | 2      | 0      | 0      |

H17.7人口 440 人（母島）

| 品目   | 摂取量(g) | 需要量(t) | 生産量(t) | 自給率(%) |
|------|--------|--------|--------|--------|
| キャベツ | 22.0   | 4      | 0      | 6      |
| キュウリ | 11.1   | 2      | 1      | 71     |
| ダイコン | 36.9   | 6      | 1      | 9      |
| タマネギ | 27.7   | 4      | -      | -      |
| ハクサイ | 16.3   | 3      | 0      | 1      |
| 牛乳   | 100.4  | 16     | -      | -      |
| 卵    | 29.5   | 5      | 1      | 30     |

60g/個で換算

※1 摂取量は都民一人1日当りの摂取量（H16東京都民の健康・栄養状況、福祉保健局調査(データはH15)）

※2 需要量＝摂取量×365日×人口

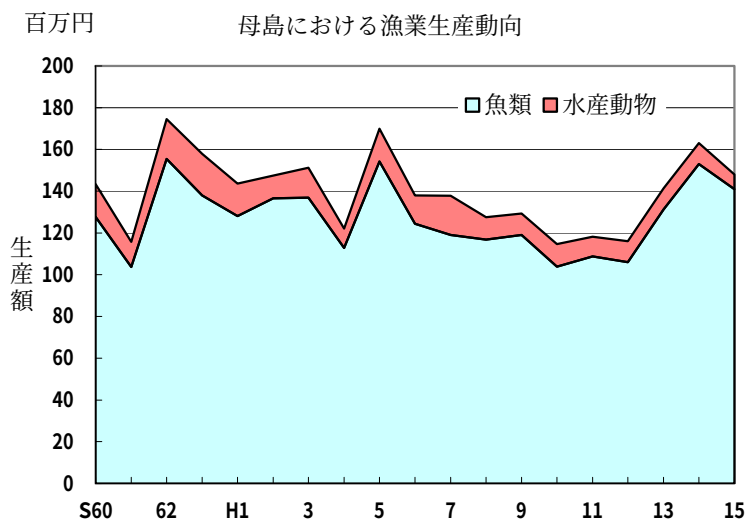
※3 生産量は支庁農業統計資料集より

※4 自給率＝生産量÷需要量

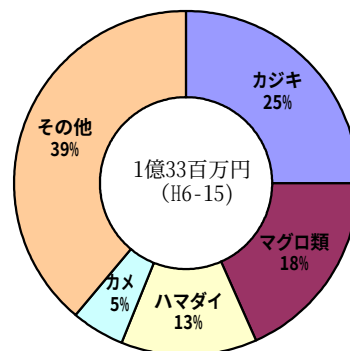
## 母島水産業の現状分析

1億50百万円前後で比較的安定している漁業生産

- 魚類生産額が9割以上を占める、漁船漁業主体の漁業形態
- 全生産額の最高は昭和62年の1億74百万円、最低は平成10年の1億15百万円
- 生産額の4割強は、カジキ類、マグロ類の大型回遊魚



最近10年間平均生産額の  
魚種別組成



### ピークを過ぎたマグロ延縄漁業

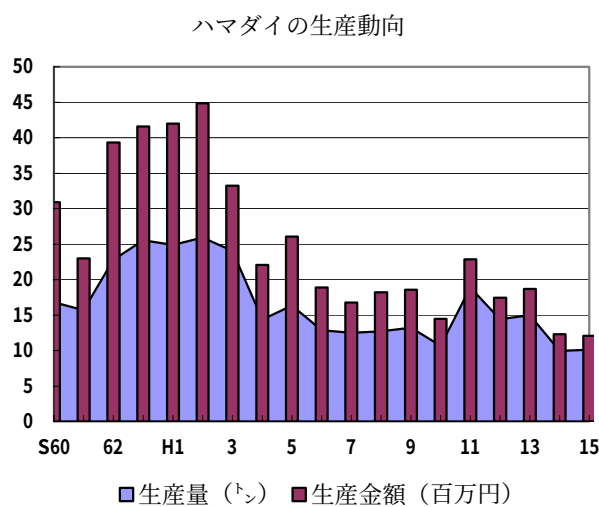
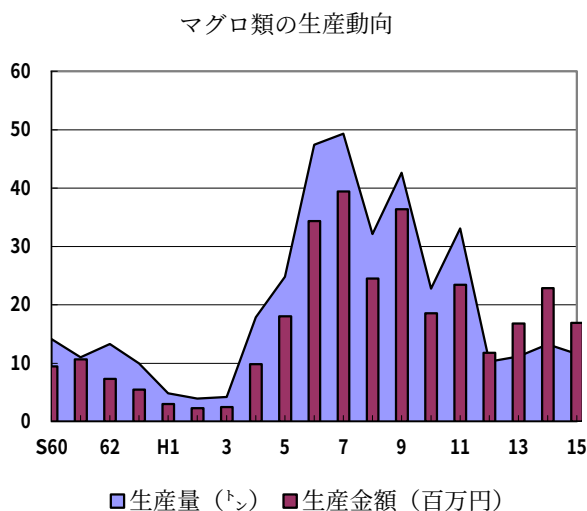
- 延縄漁業の導入で平成4年以降、急激に生産量が増大。平成7年には、49トンの、39百万円を生産。
- 近年、カジキ漁業への移行もあり、減少傾向。

### 立縄漁業への移行で生産減のハマダイ底釣漁業

- 平成の初めまで30百万円以上を生産していたが、最近10百万円台に減少。

要因

カジキ立縄漁業への移行による  
漁獲努力量の減少



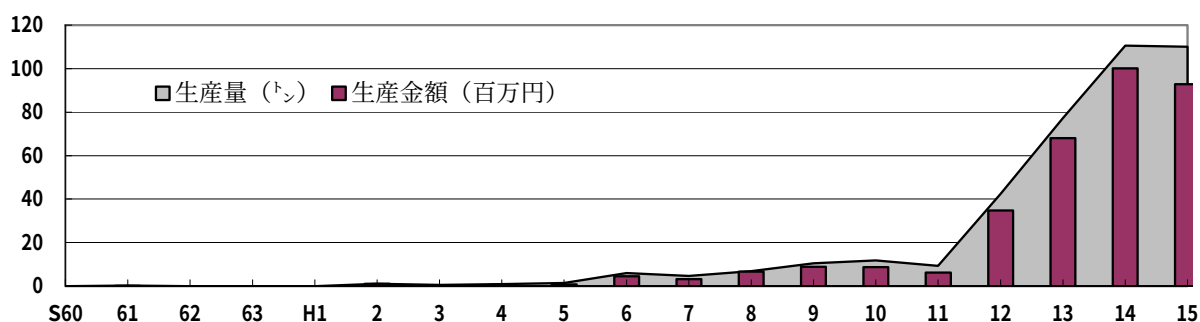
## マグロ延縄・底釣漁業からの移行で急激に伸びているカジキ立縄漁業

- 平成11年まで数百万円台で推移していた生産額が、平成12年以降直線的に増加。平成14年には、1億円を水揚げ。生産量も平成14年以降100トンを超えている
- 新たな漁場の開発で、マグロ延縄漁業からメカジキを対象にした立縄漁業へ移行

持続的漁業に向けた課題

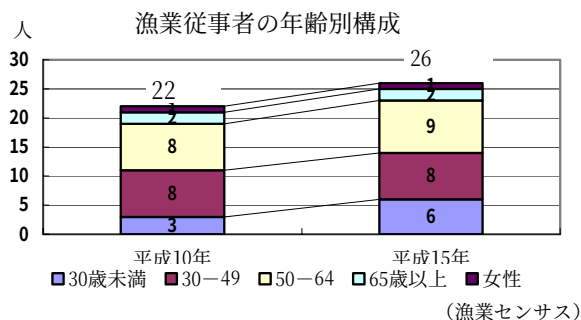
新たな漁場開発と漁場特性の把握による効率的漁業の展開

カジキ類の生産動向



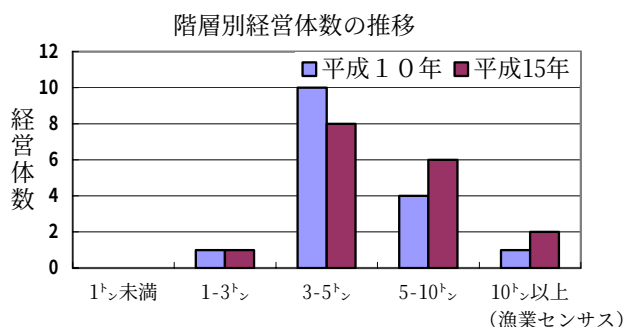
### 若年齢層漁業従事者も増加

- 5年間で4人増加
- 30歳未満の若年齢層が3人増加して6人。全体の2割強



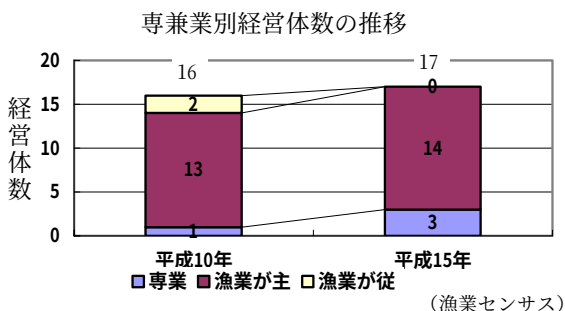
### 大型船が増えている経営体

- 経営体は5年間で1経営体増加して17経営体
- 5トン以上の経営体が3経営体増加し、大型化



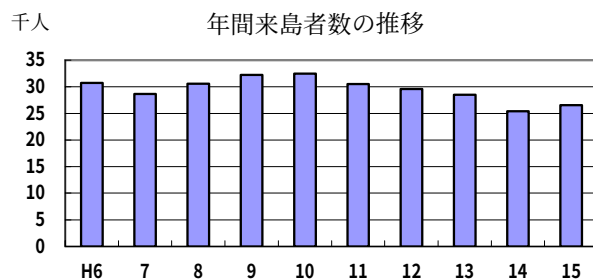
### 専業者も増加

- 専業者は、5年間で2経営体増加して3経営体
- 兼業者14経営体は、全て漁業が主の経営体



### 小笠原の来島者

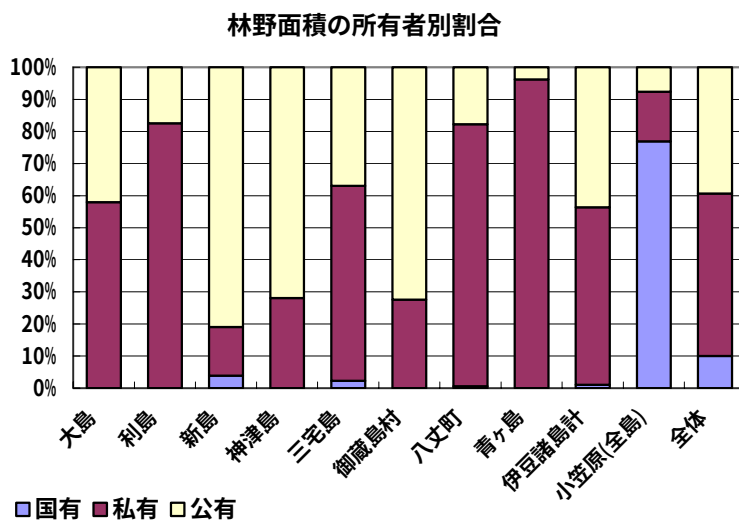
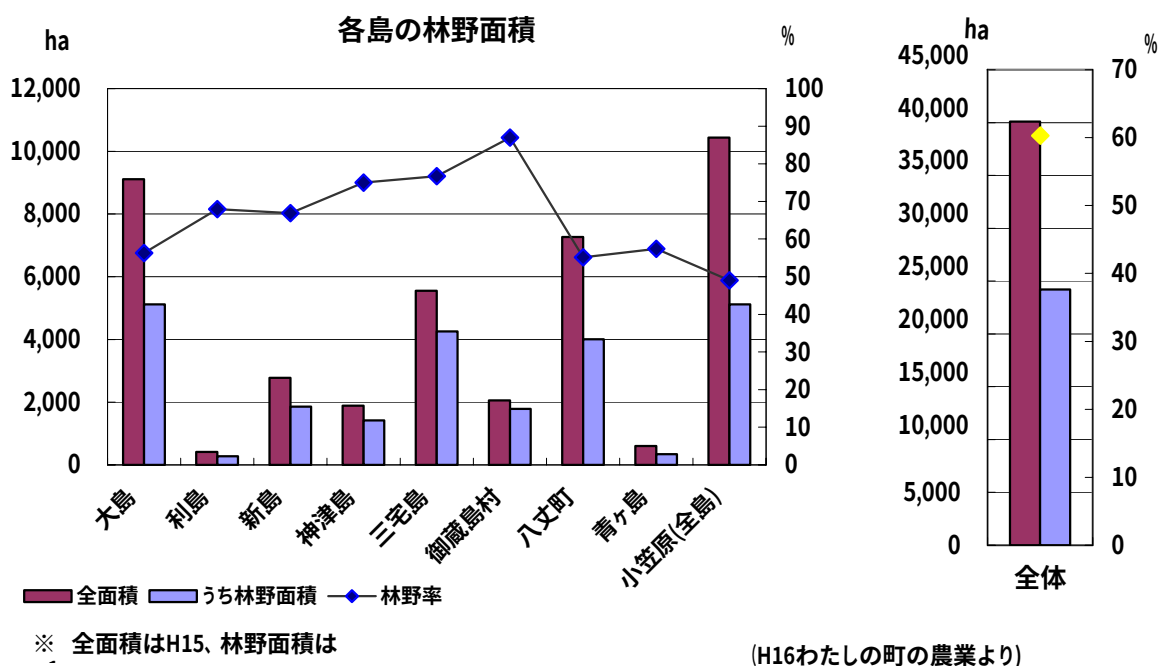
- 小笠原全体で、年間3万人前後が来島
- 最近、若干減少傾向



# 林業の現況

- ◆島しょ地域の林野面積は242km<sup>2</sup>、全面積の60%を占める。
- ◆林野は国土・自然環境保全、水源涵養等の公益的役割が大きい。
- ◆伊豆諸島の林産物生産額は、10年間で約1/3に減少、小笠原はない。
- ◆主な林産物はツバキ油(大島、利島)、シイタケ(大島、神津島、御蔵島、八丈島)、ツゲ材(御蔵島)、サカキ(八丈島)、木炭(大島、八丈島、青ヶ島)。

## 1 林野の現況



島しょ全体の林野面積は約2万4千ヘクタール、林野率60%である。

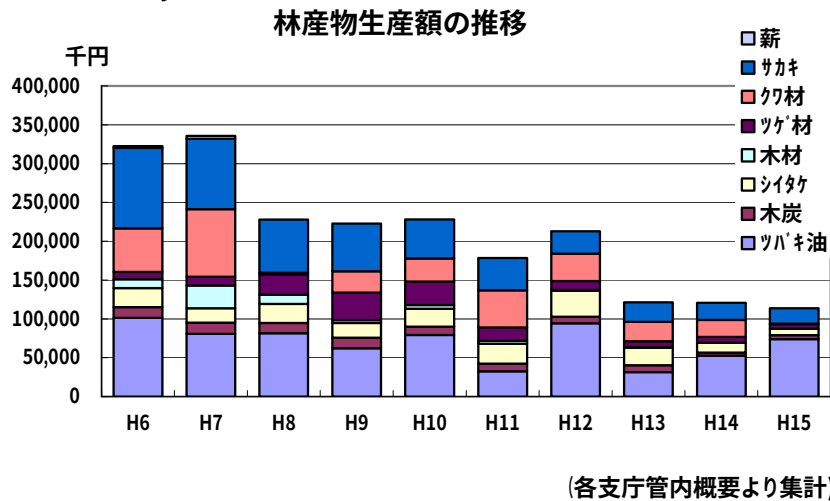
伊豆諸島の林野は国有林が少なく、民有林と公有林がほとんどである。各島の森林計画をみると、水源涵養や山地災害の防止機能、森林生態系や生活環境の保全などの公益的機能を重視した計画となっている。

小笠原は本土から1000km離れた海洋島で多くの固有種が生育しているが、アカギ、ガジュマルなどの移入種による固有主の生育への影響が問題となっている。

(H16わたしの町の農業より)

## 2 林産物の現況

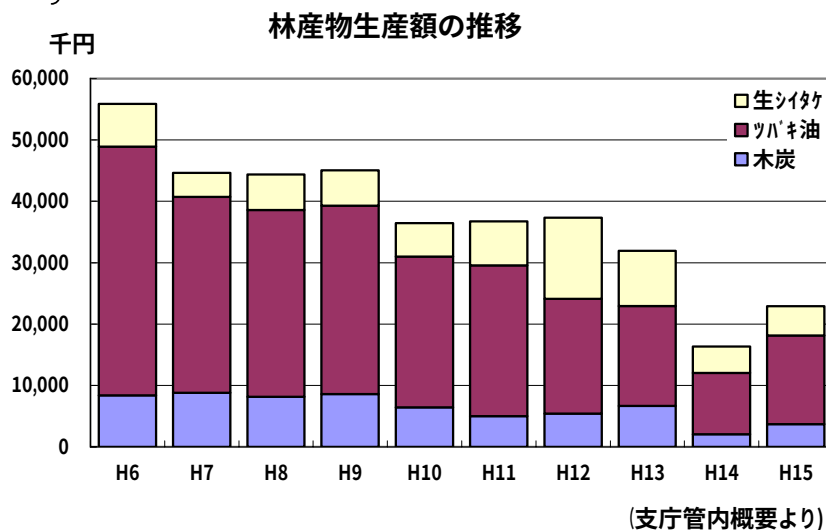
### 〔伊豆諸島全体〕



伊豆諸島の林産物生産額は10年前の35%に減少した。現在は、大島と利島のツバキ油、各島のシイタケ、御蔵のツゲ材、八丈のサカキがある。

小笠原は戦前は、東京府による森林経営が行なわれ在来樹と移入種の増殖及びその試験研究が行なわれていたが、民有林での林業経営は進まなかった。昭和43年の返還後も現在に至るまで民有林で本格的な林業経営は行なわれていない。

### 〔大 島〕

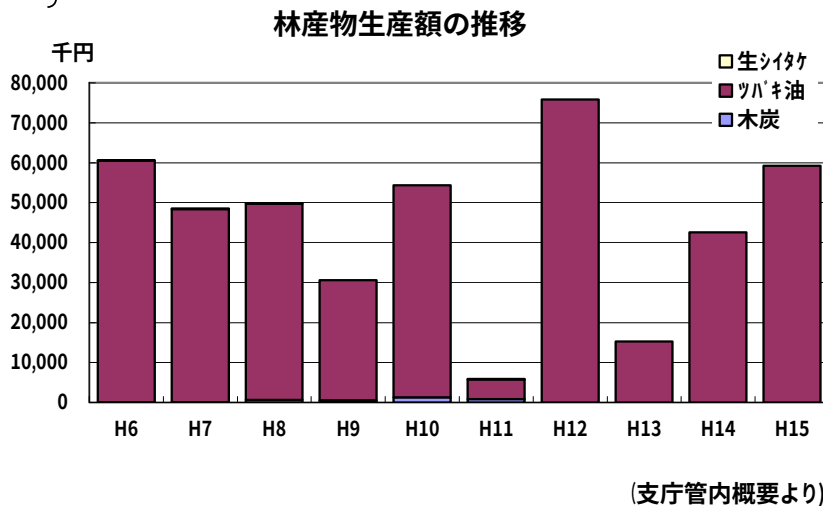


H15全生産額で22,891千円で、10年前の41%に減少。

そのうちツバキ油がH15で14,440千円、全体の63%を占めている。ツバキ油は10年前の36%に減少。

生シイタケ、木炭は島内消費費用である。

### 〔利 島〕

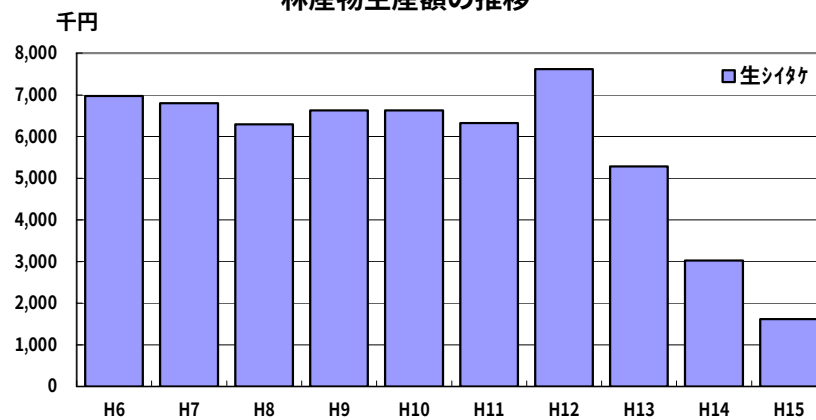


H15全生産額は59,246千円で、10年前とほぼ同じである。

現在はツバキ油のみだが、ツバキ油の生産量は年による変動が大きい。ツバキ油の生産安定化が課題である。

〔神津島〕

林産物生産額の推移

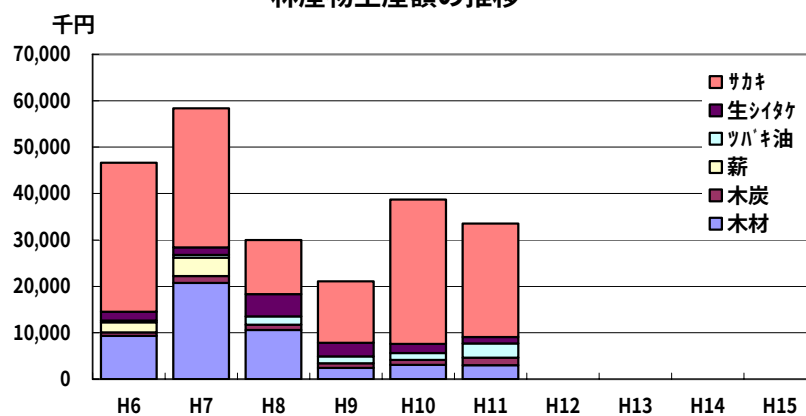


(支庁管内概要より)

H15生シイタケは1,616千円で、10年前の23%に減少。島内消費用の生産である。

〔三宅島〕

林産物生産額の推移



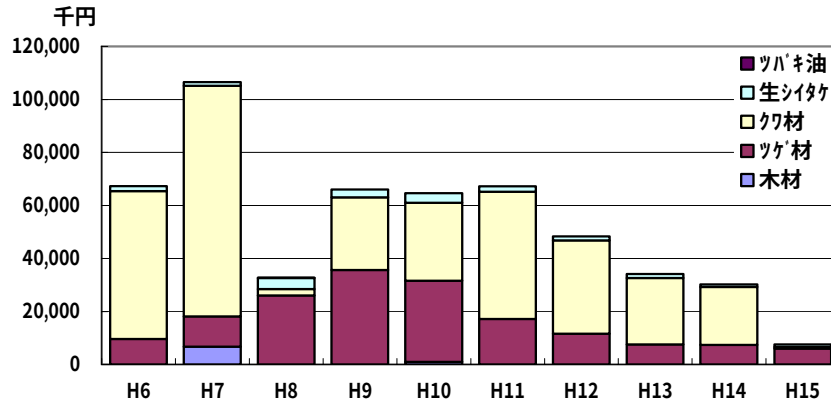
(支庁管内概要より)

H11全生産額は33,576千円あったが、H12の噴火災害により現在はない。サカキ・ツバキの生産がH11で73%占めていた。火山ガスに比較的強いので、生産再開の可能性もあるが、近年は中国産施設栽培品が市場に出回っている。



〔御蔵島〕

林産物生産額の推移

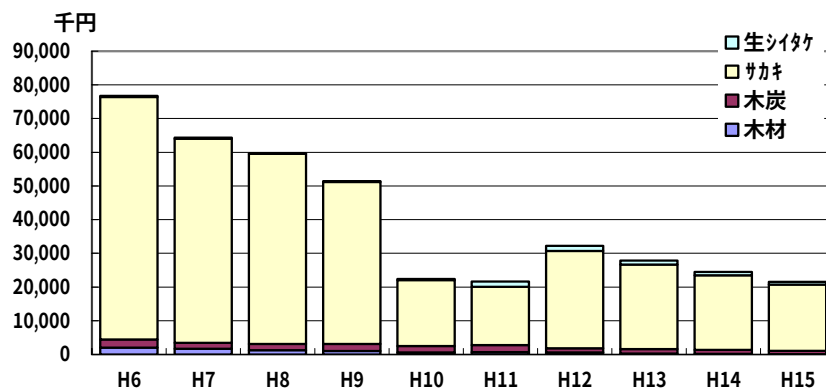


(支庁管内概要より)

H15全生産額は7,600千円、10年前の11%に減少。  
うち、ツゲ材が6,000千円で全体の79%であるが、H9の17%にまで減少。  
クワ材はH7に87,000千円あったが、H15は600千円に減少した。需要の低迷、高齢化、道路までの搬出困難などが減少原因。  
ツゲ材・クワ材は天然林の利用なので、適切な資源管理のもと有効活用を図る必要があると思われる。

〔八丈島〕

林産物生産額の推移

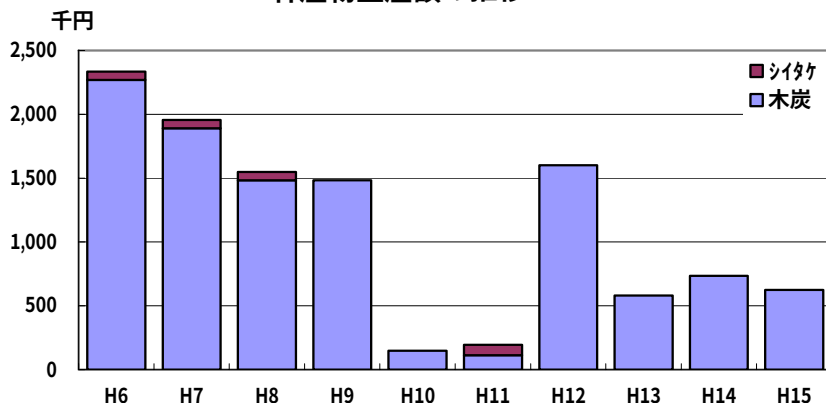


(支庁管内概要より)

H15全生産額は21,569千円、10年前の28%に減少。  
サカキが全体の91%(H15)をしめているが、H10より低迷している。  
近年、中国産が市場に出回っている。

〔青ヶ島〕

林産物生産額の推移



(支庁管内概要より)

H15全生産額は624千円で10年前の27%に減少。  
現在は木炭生産のみである。

## ■これまでの取組事例

### ～産学公連携による海の異変対策～

磯焼け等が惹き起こす漁場の荒廃、サメによる漁業被害、サンゴの白化現象等の海の異変に対して、産学公が連携して原因究明と対処に取り組んでいます

#### 各島での取組課題

大島 アントクメ藻場の回復（増殖手法の開発など）  
三宅 噴火災害で荒廃した漁場の回復（漁場マップの作成）  
八丈 テングササメ磯焼け対策（原因究明など）  
小笠原 サンゴ白化対策（回復手法の開発など）  
各島 サメ被害対策（効果的な駆除など）

#### 連携機関

首都大学東京・東京海洋大学・岡山理科大学・大島海洋  
国際高校・東京都漁業協同組合連合会・島しょの各漁  
協・食品技術センター・島しょ農林水産総合センター等

### 大島での磯焼け対策「アントクメ藻場の回復」事例

#### 研究の背景

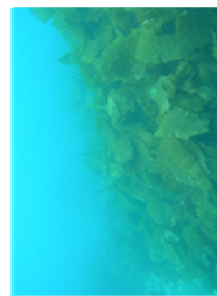
- アントクメはコンブ科の海藻
- サザエ等貝類の餌として重要
- 大島では平成10年以降、一部を除いて消滅
- サザエの生産量も激減  
(H10 222トン→H15 43トン)

磯焼け漁場(元町)

消滅

#### 回復に向けた課題

- 生活史を明らかにする
- 藻場回復技術を開発する



アントクメ藻場（波浮港）

#### これまでの成果

- 大島における生長を明らかにした  
1月頃発芽、6月頃最大葉長、10月頃流出
- 大島における成熟メカニズムを解明した  
7月から10月頃成熟し、遊走子（種）を放出
- スポアバッグによる増殖技術を開発  
胞子をもった母藻を網袋に入れ、海底に設置して繁殖させる技術を開発
- 植毛板移植による増殖技術を開発  
若芽を植え付けた植毛板を海底に移植して繁殖させる技術を開発



移植した植毛板



植毛板で成長したアントクメ

#### 今後の方向

- 藻場造成技術のマニキュア化
- 漁場造成事業等による事業化
- テングサ藻場造成への技術移転

# カルコンを多く含むアシタバの育成

- アシタバは伊豆諸島の特産野菜
- カルコンを含み健康食品として需要増大
- アシタバの高機能化と安定生産技術の開発

## 背景

- アシタバは伊豆諸島の特産野菜
- カルコンを含み健康食品として需要増大
- 産地の拡大、輸入の拡大など競争の激化

## ブランド化への課題

- カルコンの有効成分含量が不安定
- 生産量の季節変動が大きい（夏季の収量低下）
- 種子の効率的な採取法が未確立
- 種子の長期保存が困難

## これまでの成果

- カルコン含量は系統により10倍以上の差
- 伊豆諸島産からカルコン含量が一般流通品の2倍以上の系統を確認（100系統から高カルコン22系統を選抜）
- アシタバ種子の長期保存法の検討（0℃で種子の保存性が最も高い）

※共同研究  
 ①首都大学東京「アシタバの高機能化と産業化の基盤研究（平成17年度）」  
 ②筑波大学「カルコン含量の高いアシタバ遺伝資源の保存・評価に関する研究（平成17～18年度）」



## 今後の方向

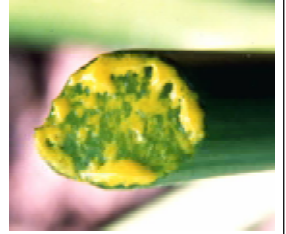
- 高カルコン系統の選抜・固定
- 効率的な大量採種技術の開発
- アシタバの安定生産技術の確立
- 高カルコンアシタバの各島への普及



## =カルコンとは=

アシタバの軸を切るとにじみ出てくる黄色い液体の主成分。

その成分は色素の一種であるキサントアングロールと4ヒドロキシデリシン。



カルコンには種々の生理活性作用のあることが確認されている。

- ・抗菌作用
- ・抗アレルギー作用
- ・癌転移抑制作用
- ・抗血栓作用
- ・血管弛緩作用 など



## 島しょ地域農林水産戦略構想

～農林水産業の一体的振興による島しょ地域の活性化を目指して～

平成 18 年 8 月発行

編集・発行 〒105-0022 東京都港区海岸 1-13-17  
東京都島しょ農林水産総合センター振興企画室  
TEL (03)3433-3253